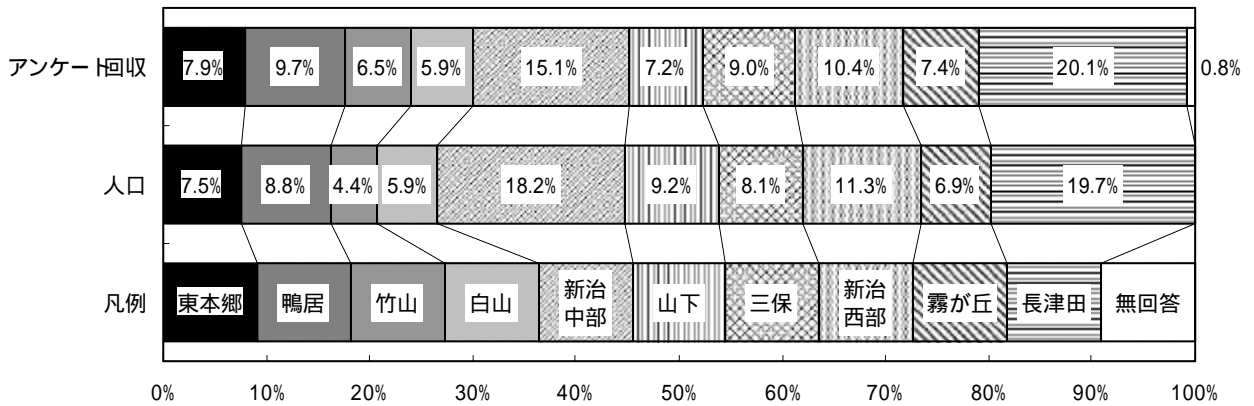


2. 集計結果

問1 居住地区

地区別の回収数は人口比率とほぼ似た傾向にあり、緑区全域からまんべんなく回収されたと考えられる。

なお、人口は本調査直前である平成21年9月30日現在の住民基本台帳の値を用いた。

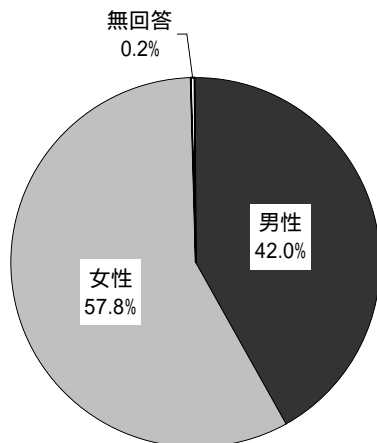


選択肢	人口	回答数	回答率
1. 東本郷地区	13,251	80	7.9%
2. 鴨居地区	15,464	98	9.7%
3. 竹山地区	7,780	66	6.5%
4. 白山地区	10,343	60	5.9%
5. 新治中部地区	32,194	153	15.1%
6. 山下地区	16,233	73	7.2%
7. 三保地区	14,271	91	9.0%
8. 新治西部地区・十日市場団地地区	20,024	105	10.4%
9. 霧が丘地区	12,204	75	7.4%
10. 長津田地区	34,841	204	20.1%
無回答	-	8	0.8%
計	176,605	1,013	100.0%

n=1,013

問2 性別

回答者の性別は、やや「女性」が多かった。

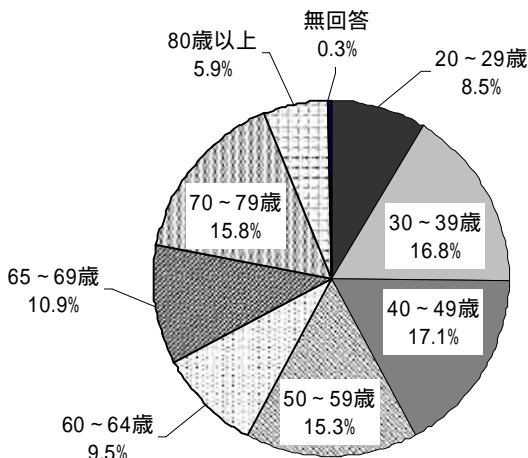


選択肢	回答数	回答率
1. 男性	425	42.0%
2. 女性	586	57.8%
無回答	2	0.2%
計	1013	100.0%

n=1013

問3 年齢構成

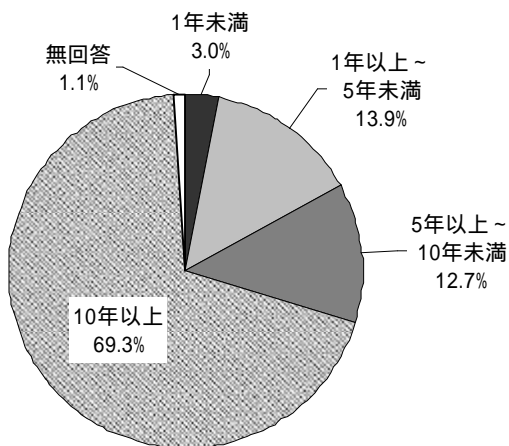
回答者の年齢層は、「20～29歳」と「80歳以上」がやや少ないが、各年齢ともまんべんなく回収された。10歳きざみで見た場合、「60～69歳」が20.4%と最も多かった。



選択肢	回答数	回答率
1. 20～29歳	86	8.5%
2. 30～39歳	170	16.8%
3. 40～49歳	173	17.1%
4. 50～59歳	155	15.3%
5. 60～69歳	96	9.5%
6. 65～69歳	110	10.9%
7. 70～79歳	160	15.8%
8. 80歳以上	60	5.9%
無回答	3	0.3%
計	1013	100.0%

問4 居住年数

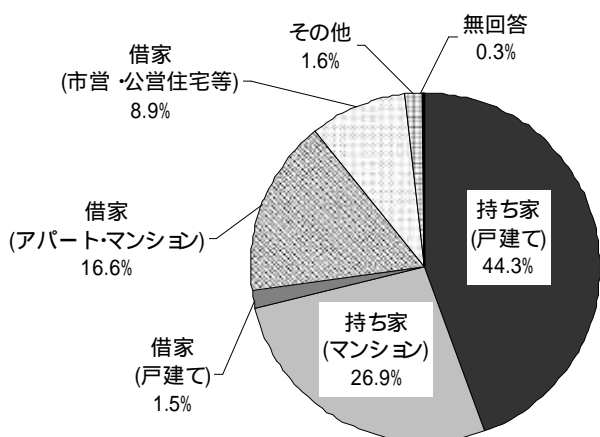
回答者の現在地での居住年数は、「10年以上」が69.3%と最も多く、次いで「1年以上～5年未満」が約13.9%となっている。



選択肢	回答数	回答率
1. 1年未満	30	3.0%
2. 1年以上～5年未満	141	13.9%
3. 5年以上～10年未満	129	12.7%
4. 10年以上	702	69.3%
無回答	11	1.1%
計	1013	100.0%

問5 住まいの種別

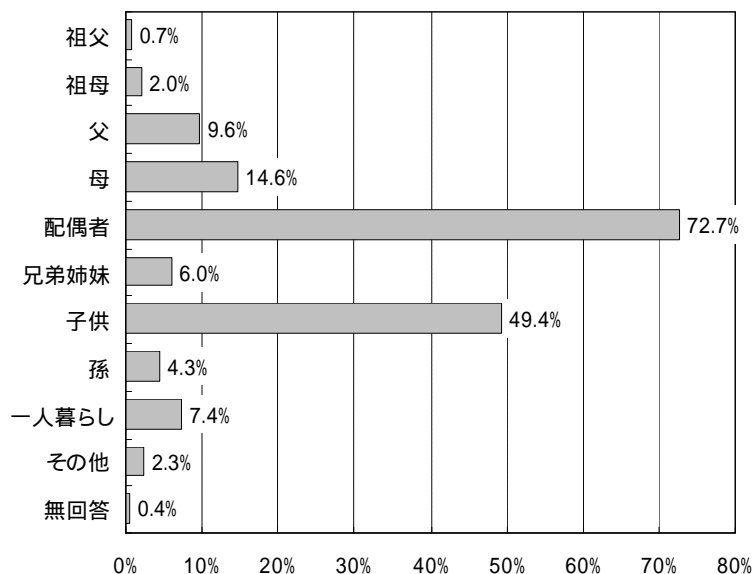
回答者の住まいの種別は、「持ち家（戸建て）」が44.3%と最も多く、次いで多い「持ち家（マンション）」を含めると71.2%が持ち家となっている。



選択肢	回答数	回答率
1. 持ち家(戸建て)	449	44.3%
2. 持ち家(マンション)	272	26.9%
3. 借家(戸建て)	15	1.5%
4. 借家(アパート・マンション)	168	16.6%
5. 借家(市営・公営住宅等)	90	8.9%
6. その他	16	1.6%
無回答	3	0.3%
計	1013	100.0%

問6 同居者の関係(複数回答)

回答者と同居する家族をみると、「一人暮らし」は7.4%で、全体の92.2%に同居者がいる。
同居者のうち、「配偶者」が72.7%と最も多く、次いで「子供」が49.4%となっている。



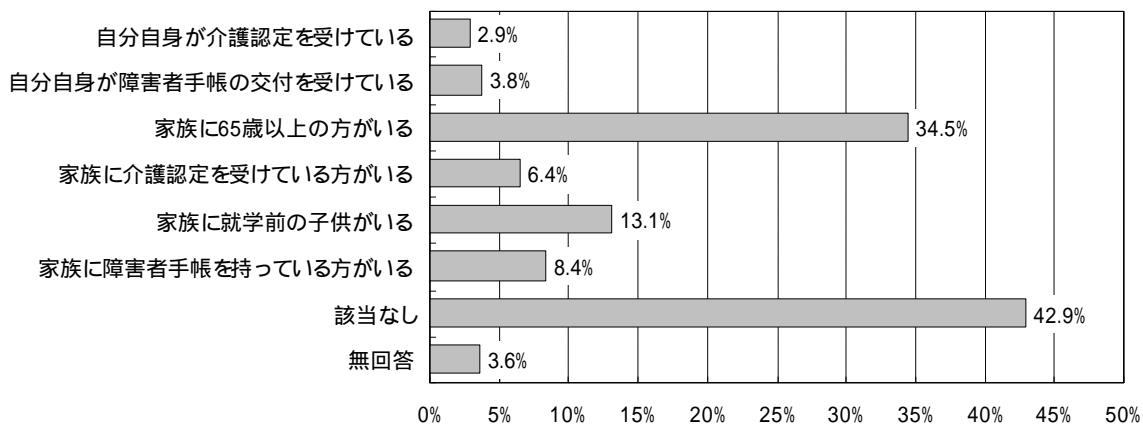
n=1013

選択肢	回答数	回答率
1. 祖父	7	0.7%
2. 祖母	20	2.0%
3. 父	97	9.6%
4. 母	148	14.6%
5. 配偶者	736	72.7%
6. 兄弟姉妹	61	6.0%
7. 子供	500	49.4%
8. 孫	44	4.3%
9. 一人暮らし	75	7.4%
10. その他	23	2.3%
無回答	4	0.4%
計	1715	-

問7 回答者及び同居者の状況(複数回答)

回答者及び同居者の状況は、家族が65歳以上、就学前の子供、要介護認定者、障がい者のいずれもない「該当なし」が42.9%と最も多く、次いで「家族に65歳以上の方がいる」が34.5%となっている。

なお、「介護認定を受けている」方は、回答者が2.9%、家族が6.4%、「障害者手帳の交付を受けている」方は、回答者が3.8%、家族が8.4%であった。



n=1013

選択肢	回答数	回答率
1. 自分自身が介護認定を受けている	29	2.9%
2. 自分自身が障害者手帳の交付を受けている	38	3.8%
3. 家族に65歳以上の方がいる	349	34.5%
4. 家族に介護認定を受けている方がいる	65	6.4%
5. 家族に就学前の子供がいる	133	13.1%
6. 家族に障害者手帳を持っている方がいる	85	8.4%
7. 該当なし	435	42.9%
無回答	36	3.6%
計	1170	-

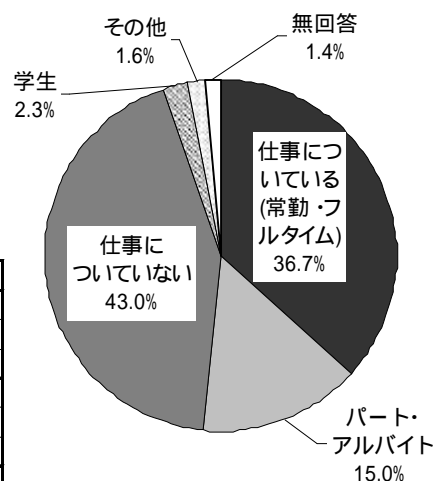
問8 仕事の状況

回答者の仕事の状況は、「仕事についていない」が43.0%と最も多く、次いで「常勤・フルタイム」が36.7%となっている。

その他のほぼ90%は自営業となっている。

n=1013

選択肢	回答数	回答率
1. 仕事についている(常勤・フルタイム)	372	36.7%
2. パート・アルバイト	152	15.0%
3. 仕事についていない	436	43.0%
4. 学生	23	2.3%
5. その他	16	1.6%
無回答	14	1.4%
計	1013	100.0%



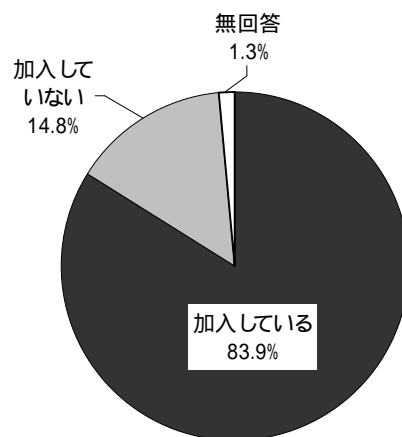
問9 自治会加入状況

自治会への加入状況は、83.9%が「加入している」と回答している。

加入していない理由として最も多かったのは、「案内がない」、「自治会があることを知らない」等の情報不足が多く、加入していない方の約43.7%を占めている。

n=1013

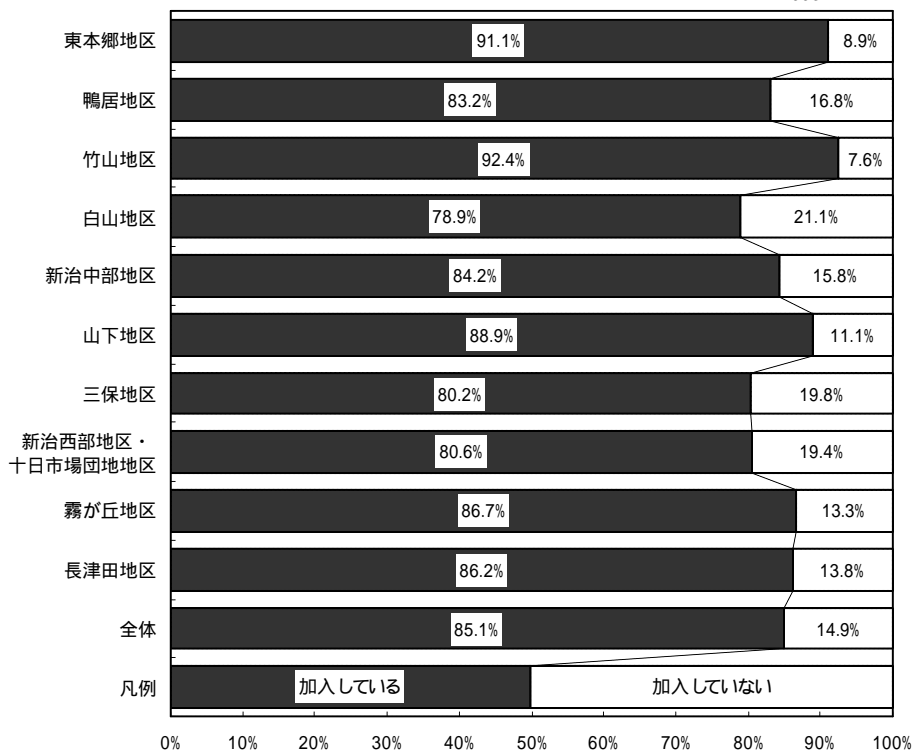
選択肢	回答数	回答率
1. 加入している	850	83.9%
2. 加入していない	150	14.8%
無回答	13	1.3%
計	1013	100.0%



自治会への加入状況を地区別にみると、竹山地区は最も高く92.4%、次いで東本郷地区が91.1%となっており、最も低い白山地区の78.9%を除き80%以上が「加入している」と回答している。

居住地区別、自治会加入状況 (問1×問9)

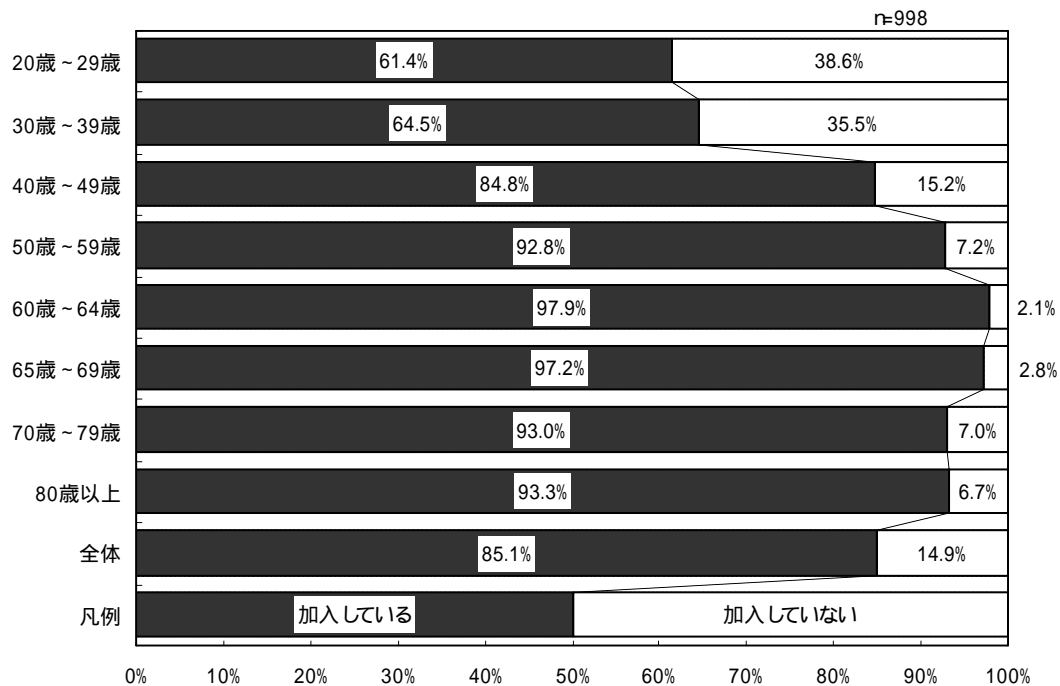
n=993



	加入している	加入していない	計
東本郷地区	72 91.1%	7 8.9%	79 100.0%
鴨居地区	79 83.2%	16 16.8%	95 100.0%
竹山地区	61 92.4%	5 7.6%	66 100.0%
白山地区	45 78.9%	12 21.1%	57 100.0%
新治中部地区	128 84.2%	24 15.8%	152 100.0%
山下地区	64 88.9%	8 11.1%	72 100.0%
三保地区	73 80.2%	18 19.8%	91 100.0%
新治西部地区・ 十日市場団地地区	83 80.6%	20 19.4%	103 100.0%
霧が丘地区	65 86.7%	10 13.3%	75 100.0%
長津田地区	175 86.2%	28 13.8%	203 100.0%
全体	845 85.1%	148 14.9%	993 100.0%

自治会への加入状況を年齢構成別にみると、97%以上の60歳代をピークに山型となっているが、40歳以上は約85%以上が「加入している」と回答しているのに対し、20歳代及び30歳代では「加入している」と回答しているのは60%台にとどまっている。

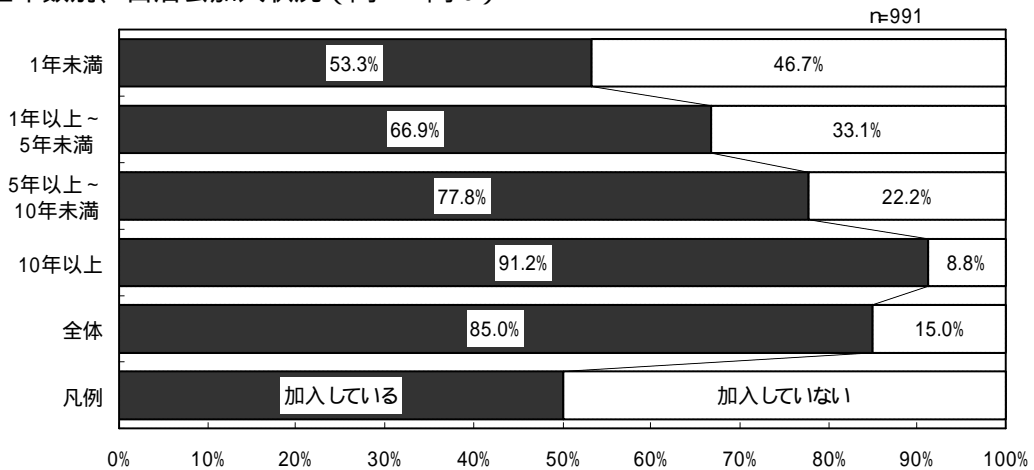
年齢構成別、自治会加入状況（問3×問9）



	加入している	加入していない	計
20歳～29歳	51 61.4%	32 38.6%	83 100.0%
30歳～39歳	109 64.5%	60 35.5%	169 100.0%
40歳～49歳	145 84.8%	26 15.2%	171 100.0%
50歳～59歳	142 92.8%	11 7.2%	153 100.0%
60歳～64歳	93 97.9%	2 2.1%	95 100.0%
65歳～69歳	106 97.2%	3 2.8%	109 100.0%
70歳～79歳	147 93.0%	11 7.0%	158 100.0%
80歳以上	56 93.3%	4 6.7%	60 100.0%
全体	849 85.1%	149 14.9%	998 100.0%

居住年数別の自治会への加入状況は、居住期間が長いほど「加入している」と回答している割合が高く、10年以上は91.2%以上となっているが、1年未満は53.3%と低かった。

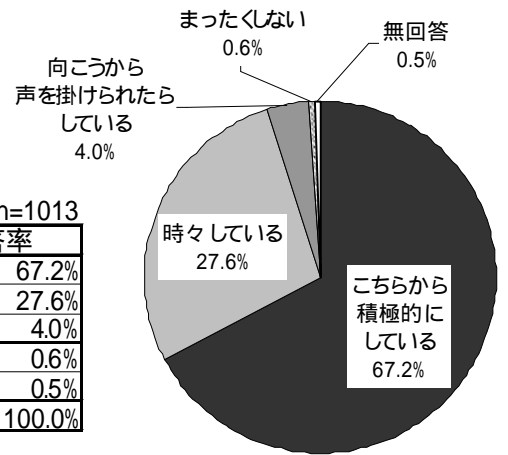
居住年数別、自治会加入状況（問4×問9）



	加入している	加入していない	計
1年未満	16 53.3%	14 46.7%	30 100.0%
1年以上～5年未満	93 66.9%	46 33.1%	139 100.0%
5年以上～10年未満	98 77.8%	28 22.2%	126 100.0%
10年以上	635 91.2%	61 8.8%	696 100.0%
全体	842 85.0%	149 15.0%	991 100.0%

問 10 近隣の人へのあいさつ・声かけ

近隣の人へのあいさつ・声かけは、98.8%とほとんどの回答者がしており、このうち 67.2%が「こちらから積極的にしている」と回答している。

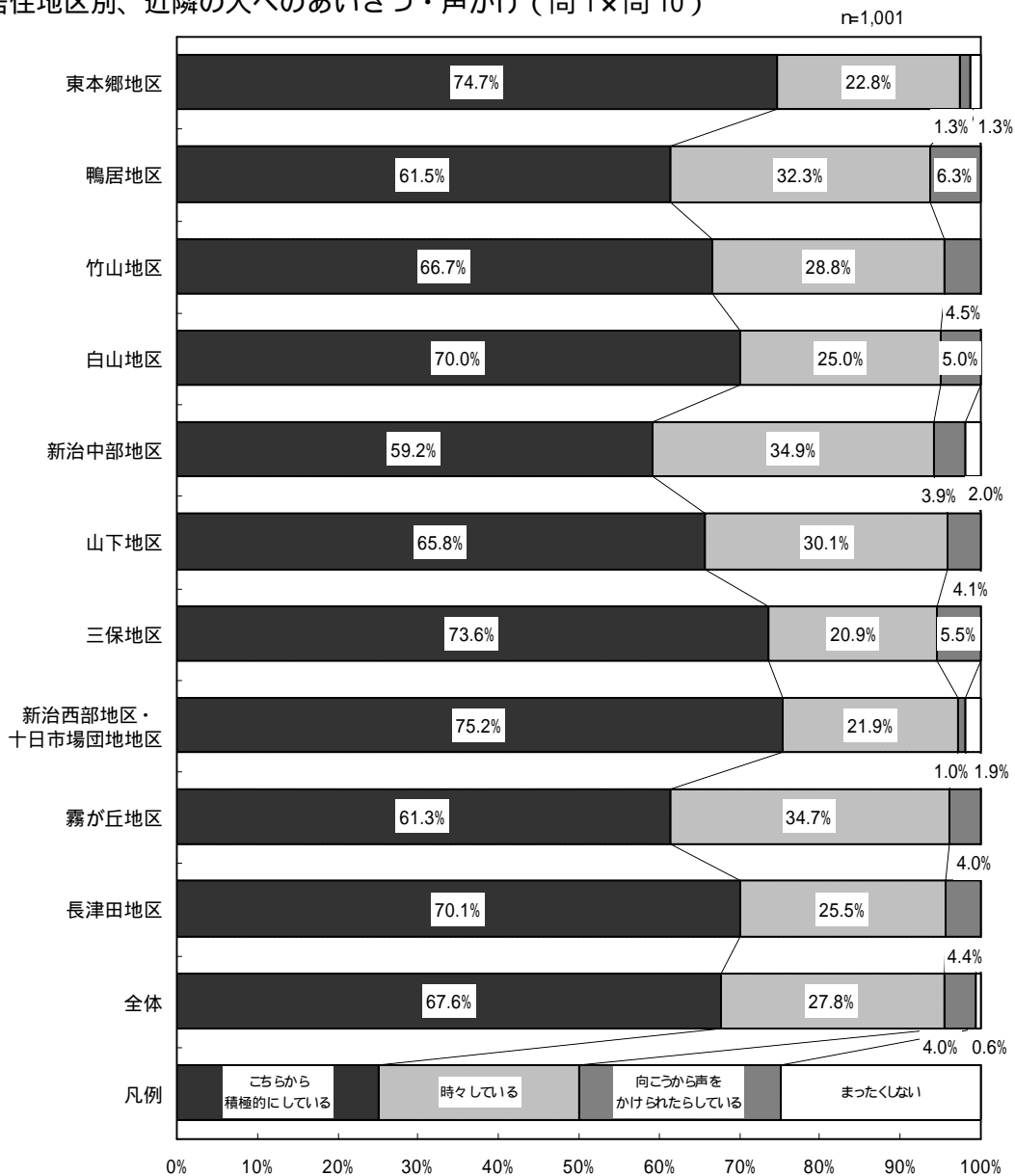


n=1013

選択肢	回答数	回答率
1. こちらから積極的にしている	681	67.2%
2. 時々している	280	27.6%
3. 向こうから声を掛けられたらしている	41	4.0%
4. まったくしない	6	0.6%
無回答	5	0.5%
計	1013	100.0%

居住地区別にみると、新治西部地区・十日市場団地地区が 75.2%と最も高く、次いで東本郷地区が 74.7%となっており、最も低かったのは新治中部地区の 59.2%であった。

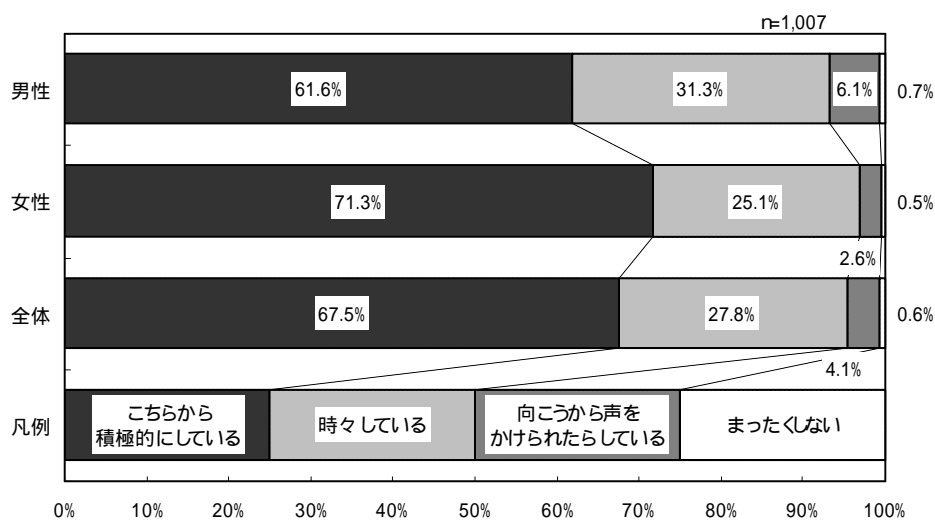
居住地区別、近隣の人へのあいさつ・声かけ (問 1×問 10)



	こちらから積極的にしている	時々している	向こうから声を掛けられたらしている	まったくしない	計
東本郷地区	59 74.7%	18 22.8%	1 1.3%	1 1.3%	79 100.0%
鴨居地区	59 61.5%	31 32.3%	6 6.3%	0 0.0%	96 100.0%
竹山地区	44 66.7%	19 28.8%	3 4.5%	0 0.0%	66 100.0%
白山地区	42 70.0%	15 25.0%	3 5.0%	0 0.0%	60 100.0%
新治中部地区	90 59.2%	53 34.9%	6 3.9%	3 2.0%	152 100.0%
山下地区	48 65.8%	22 30.1%	3 4.1%	0 0.0%	73 100.0%
三保地区	67 73.6%	19 20.9%	5 5.5%	0 0.0%	91 100.0%
新治西部地区・十日市場団地地区	79 75.2%	23 21.9%	1 1.0%	2 1.9%	105 100.0%
霧が丘地区	46 61.3%	26 34.7%	3 4.0%	0 0.0%	75 100.0%
長津田地区	143 70.1%	52 25.5%	9 4.4%	0 0.0%	204 100.0%
全体	677 67.6%	278 27.8%	40 4.0%	6 0.6%	1001 100.0%

男女別にみると、「こちらから積極的にしている」のは男性 61.6%、女性 71.3%と女性の方が高くなっている。

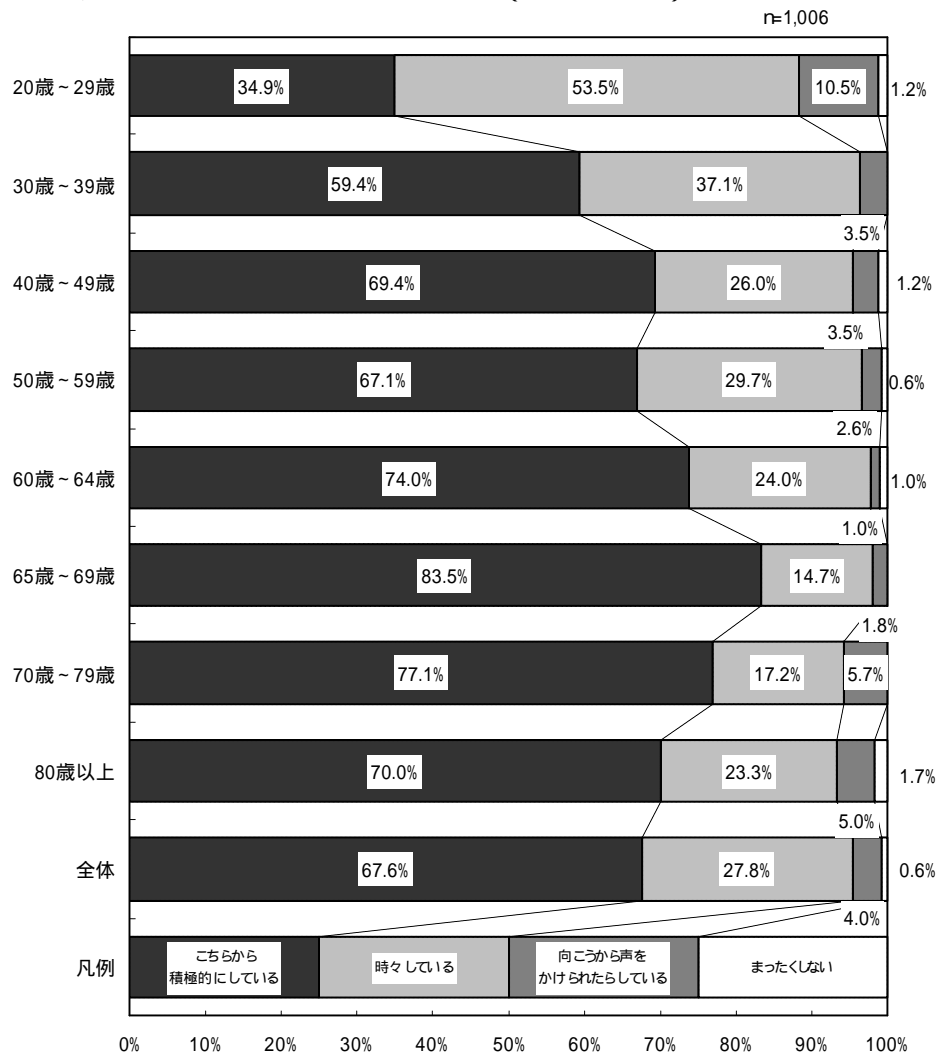
男女別、近隣の人へのあいさつ・声かけ（問2×問10）



	こちらから積極的にしている	時々している	向こうから声を掛けられたらしている	まったくしない	計
男性	262 61.8%	133 31.4%	26 6.1%	3 0.7%	424 100.0%
女性	418 71.7%	147 25.2%	15 2.6%	3 0.5%	583 100.0%
全体	680 67.5%	280 27.8%	41 4.1%	6 0.6%	1007 100.0%

年齢別では、「こちらから積極的にしている」と回答した割合は、65歳～69歳が83.5%と最も高く、40歳以上でも69.4%以上と高くなっているが、20～29歳では34.9%と低くなっている。

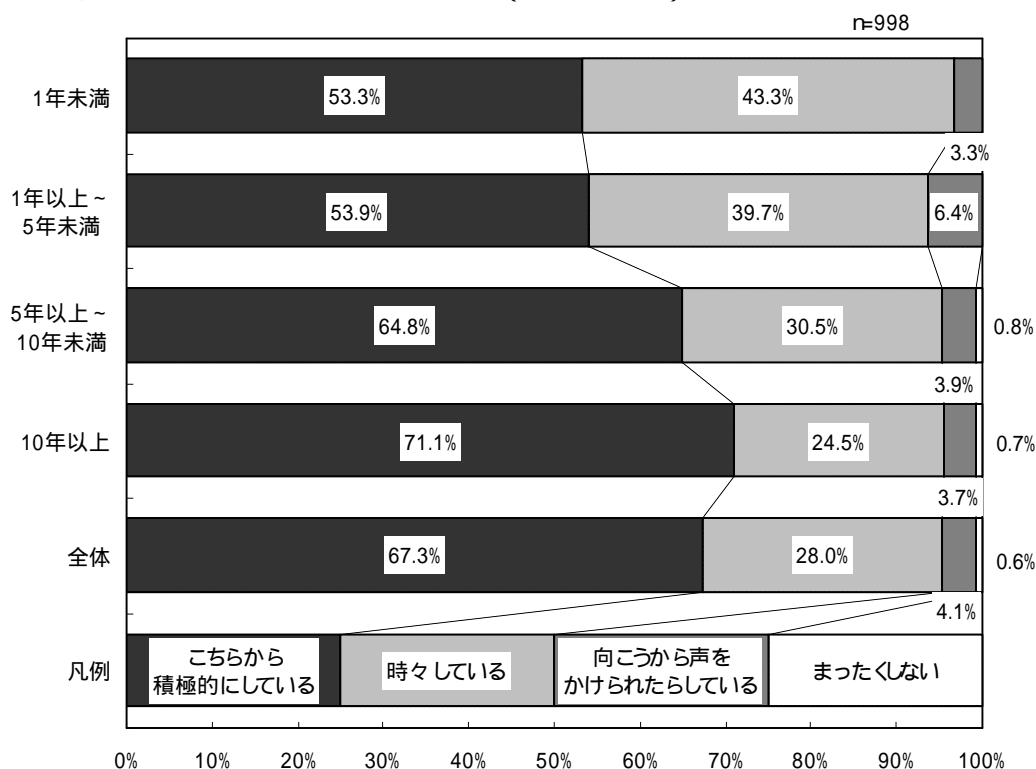
年齢構成別、近隣の人へのあいさつ・声かけ（問3×問10）



	こちらから積極的にしている	時々している	向こうから声をかけられたらしている	まったくしない	計
20歳～29歳	30 34.9%	46 53.5%	9 10.5%	1 1.2%	86 100.0%
30歳～39歳	101 59.4%	63 37.1%	6 3.5%	0 0.0%	170 100.0%
40歳～49歳	120 69.4%	45 26.0%	6 3.5%	2 1.2%	173 100.0%
50歳～59歳	104 67.1%	46 29.7%	4 2.6%	1 0.6%	155 100.0%
60歳～64歳	71 74.0%	23 24.0%	1 1.0%	1 1.0%	96 100.0%
65歳～69歳	91 83.5%	16 14.7%	2 1.8%	0 0.0%	109 100.0%
70歳～79歳	121 77.1%	27 17.2%	9 5.7%	0 0.0%	157 100.0%
80歳以上	42 70.0%	14 23.3%	3 5.0%	1 1.7%	60 100.0%
全体	680 67.6%	280 27.8%	40 4.0%	6 0.6%	1006 100.0%

居住年数別では、「こちらから積極的にしている」のは10年以上が71.1%と最も高く、居住年数が長くなるほど高くなる傾向にある。

居住年数別、近隣の人へのあいさつ・声かけ（問4×問10）

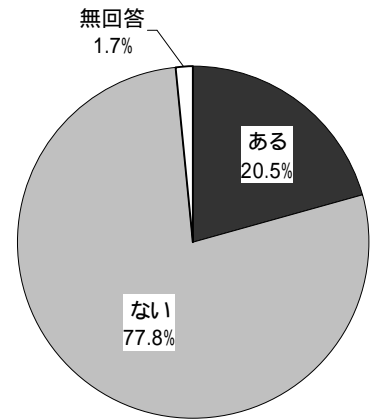


	こちらから積極的にしている	時々している	向こうから声を掛けられたらしている	まったくしない	計
1年未満	16 53.3%	13 43.3%	1 3.3%	0 0.0%	30 100.0%
1年以上～5年未満	76 53.9%	56 39.7%	9 6.4%	0 0.0%	141 100.0%
5年以上～10年未満	83 64.8%	39 30.5%	5 3.9%	1 0.8%	128 100.0%
10年以上	497 71.1%	171 24.5%	26 3.7%	5 0.7%	699 100.0%
全体	672 67.3%	279 28.0%	41 4.1%	6 0.6%	998 100.0%

問 11 地域での助け合いの個人的な実践

話し相手や困ったことの手伝いなど地域での助け合いを個人的にしたりされたりしたことが「ある」のは20.5%であった。

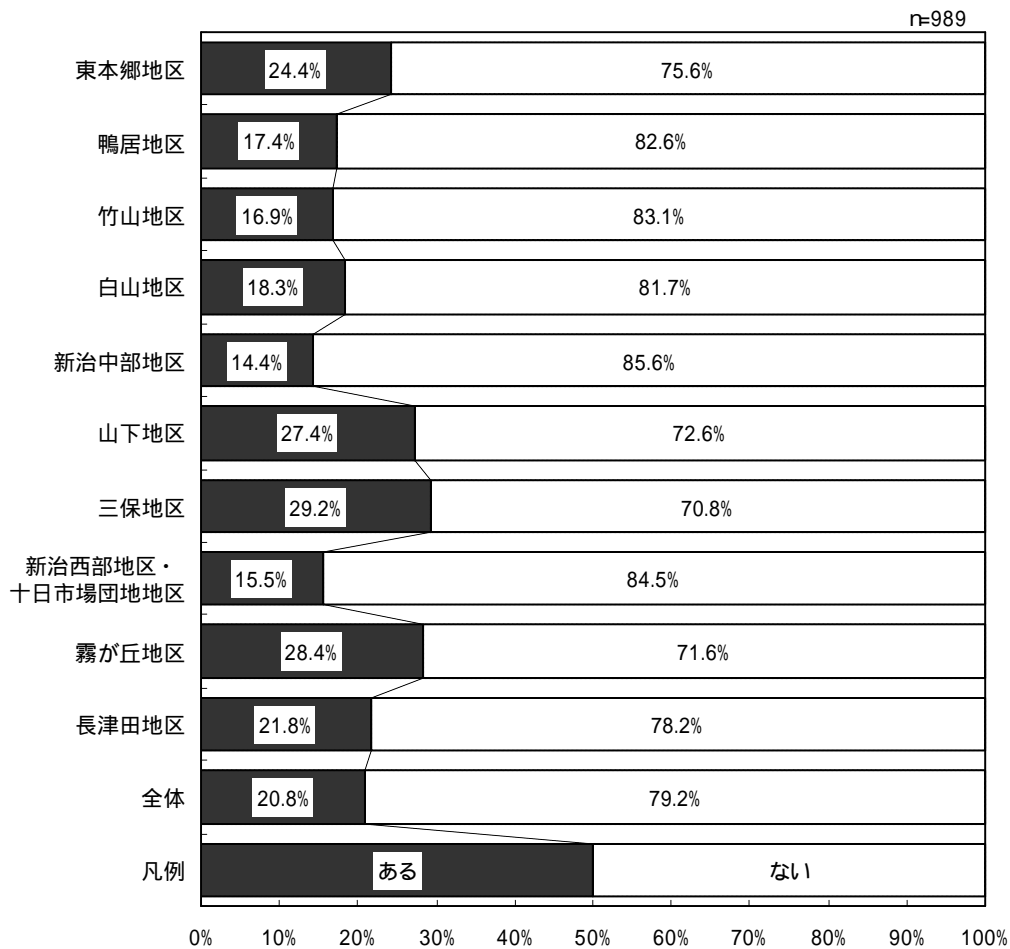
助け合いの具体的内容は、清掃、自治会等の団体での活動をはじめ、話し相手、保育、ゴミ出し、病院の付き添い、防犯等多岐に渡っている。



n=1013		
選択肢	回答数	回答率
1. ある	208	20.5%
2. ない	788	77.8%
無回答	17	1.7%
計	1013	100.0%

居住地区別にみると、平均以上であるのは、最も高い三保地区の29.2%、霧が丘地区の28.4%、山下地区の27.4%、東本郷地区の24.4%、長津田地区の21.8%となっており、最も低かったのは新治中部地区の14.4%であった。

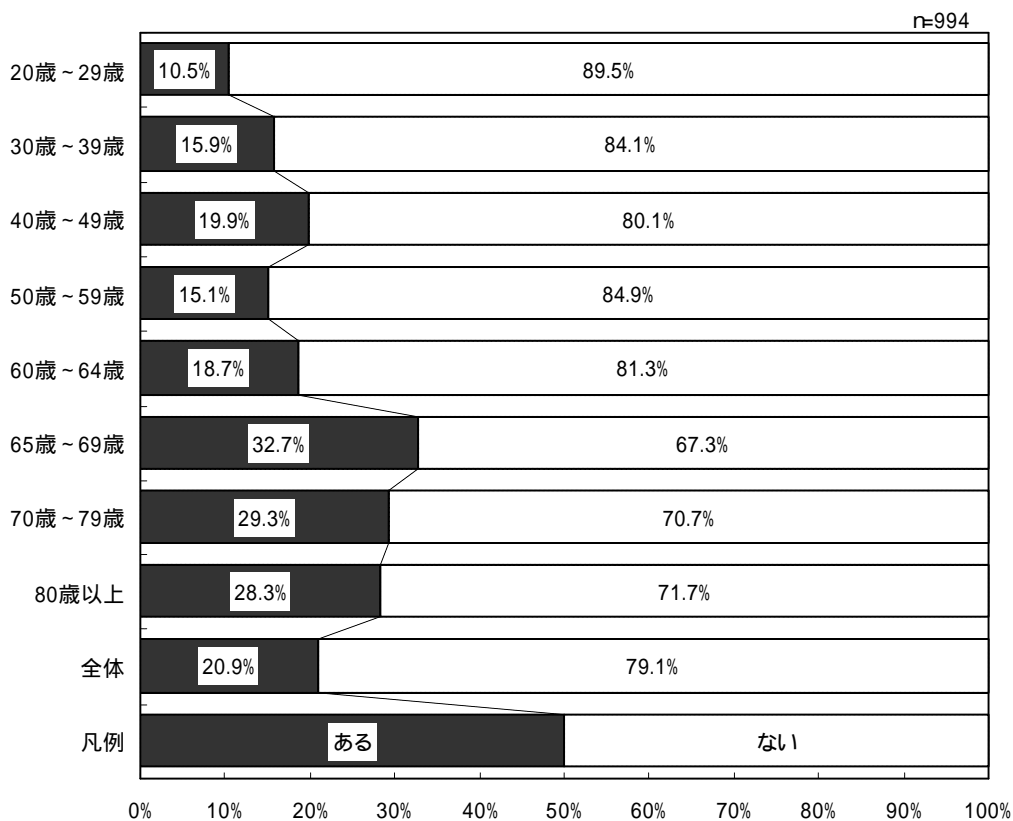
居住地区別、地域での助け合いの個人的な実践（問1×問11）



	ある	ない	計
東本郷地区	19 24.4%	59 75.6%	78 100.0%
鴨居地区	16 17.4%	76 82.6%	92 100.0%
竹山地区	11 16.9%	54 83.1%	65 100.0%
白山地区	11 18.3%	49 81.7%	60 100.0%
新治中部地区	22 14.4%	131 85.6%	153 100.0%
山下地区	20 27.4%	53 72.6%	73 100.0%
三保地区	26 29.2%	63 70.8%	89 100.0%
新治西部地区・ 十日市場団地地区	16 15.5%	87 84.5%	103 100.0%
霧が丘地区	21 28.4%	53 71.6%	74 100.0%
長津田地区	44 21.8%	158 78.2%	202 100.0%
全体	206 20.8%	783 79.2%	989 100.0%

年齢別では、65歳～69歳が32.7%と最も高く、65歳以上はすべての年齢層で平均以上となっているのに対し、65歳未満のすべての年齢層は平均以下であり、特に20歳代は10.5%と低くなっている。

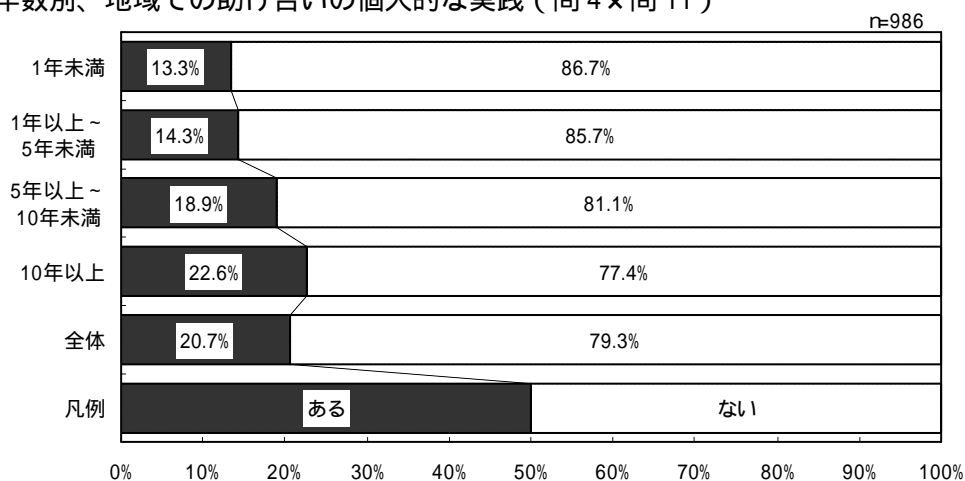
年齢構成別、地域での助け合いの個人的な実践（問3×問11）



	ある	ない	計
20歳～29歳	9 10.5%	77 89.5%	86 100.0%
30歳～39歳	27 15.9%	143 84.1%	170 100.0%
40歳～49歳	34 19.9%	137 80.1%	171 100.0%
50歳～59歳	23 15.1%	129 84.9%	152 100.0%
60歳～64歳	17 18.7%	74 81.3%	91 100.0%
65歳～69歳	35 32.7%	72 67.3%	107 100.0%
70歳～79歳	46 29.3%	111 70.7%	157 100.0%
80歳以上	17 28.3%	43 71.7%	60 100.0%
全体	208 20.9%	786 79.1%	994 100.0%

居住年数別では、10年以上が22.6%と最も高く、居住年数が長くなるほど高くなる傾向にある。

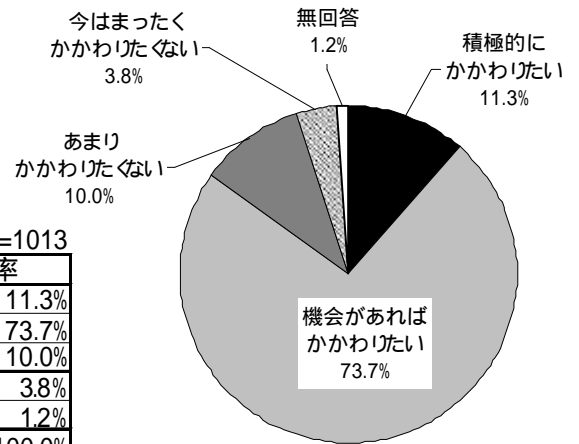
居住年数別、地域での助け合いの個人的な実践（問4×問11）



	ある	ない	計
1年未満	4 13.3%	26 86.7%	30 100.0%
1年以上～5年未満	20 14.3%	120 85.7%	140 100.0%
5年以上～10年未満	24 18.9%	103 81.1%	127 100.0%
10年以上	156 22.6%	533 77.4%	689 100.0%
全体	204 20.7%	782 79.3%	986 100.0%

問 12 地域の方との今後のかかわりたい程度

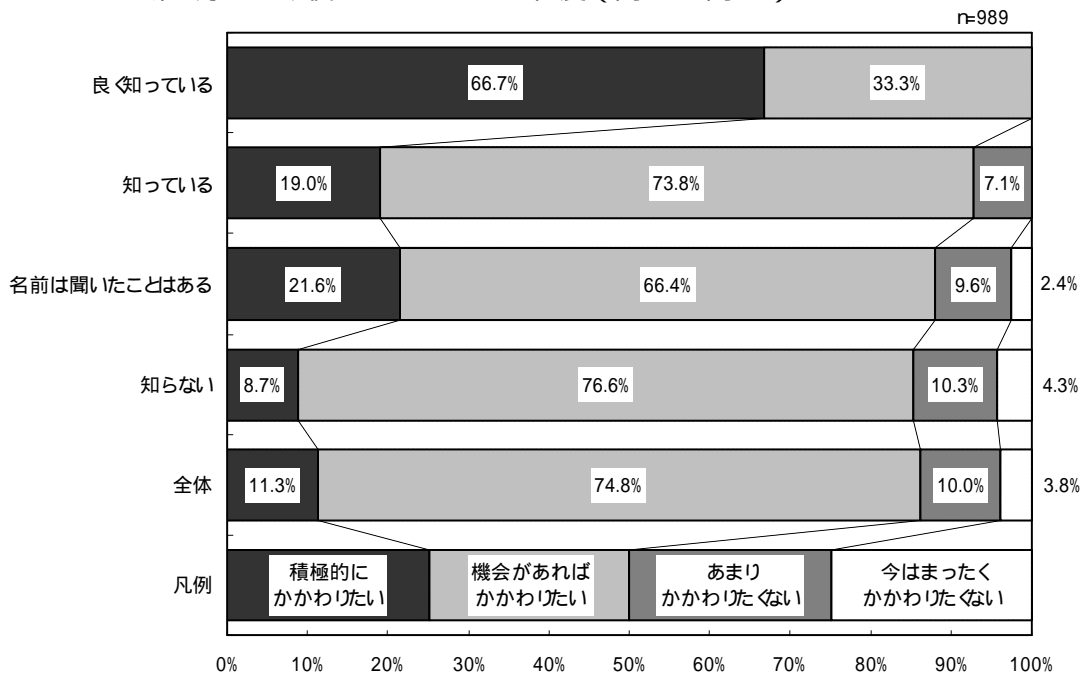
地域の方との今後の関わりたい程度(子供を含む)は、「機会があればかかわりたい」が73.7%と最も多く、「積極的にかかわりたい」を含めると85.0%がかかわりたいと回答している。



選択肢	回答数	回答率
1. 積極的にかかわりたい	114	11.3%
2. 機会があればかかわりたい	747	73.7%
3. あまりかかわりたくない	101	10.0%
4. 今はまったくかかわりたくない	39	3.8%
無回答	12	1.2%
計	1013	100.0%

『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度別にみた場合、「良く知っている」方の「積極的にかかわりたい」割合は66.7%と高く、「知っている」の19.0%、「名前は聞いたことがある」の21.6%、「知らない」の8.7%とは大きな開きがあり、『みどりのわ・ささえ愛プラン』の周知が地域とかかわりたいと考える意識の向上に影響が大きいと考えられる。

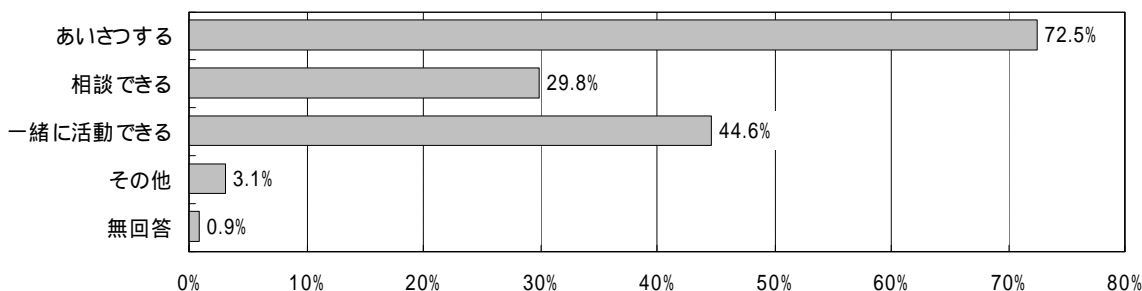
『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度別、
地域の方との今後のかかわりたい程度 (問 19×問 12)



	積極的にかかわりたい	機会があればかかわりたい	あまりかかわりたくない	今はまったくかかわりたくない	計
良く知っている	6 66.7%	3 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	9 100.0%
知っている	8 19.0%	31 73.8%	3 7.1%	0 0.0%	42 100.0%
名前は聞いたことがある	27 21.6%	83 66.4%	12 9.6%	3 2.4%	125 100.0%
知らない	71 8.7%	623 76.6%	84 10.3%	35 4.3%	813 100.0%
全体	112 11.3%	740 74.8%	99 10.0%	38 3.8%	989 100.0%

問 12-1 地域の方とかかわりたい内容(複数回答)

問 12 で「積極的にかかわりたい」または「機会があればかわりたい」と回答した方に対する地域の方とかかわりたい内容は、「あいさつする」が 72.5%と最も多く、次いで「一緒に活動できる」が 44.6%、「相談できる」が 29.8%であった。

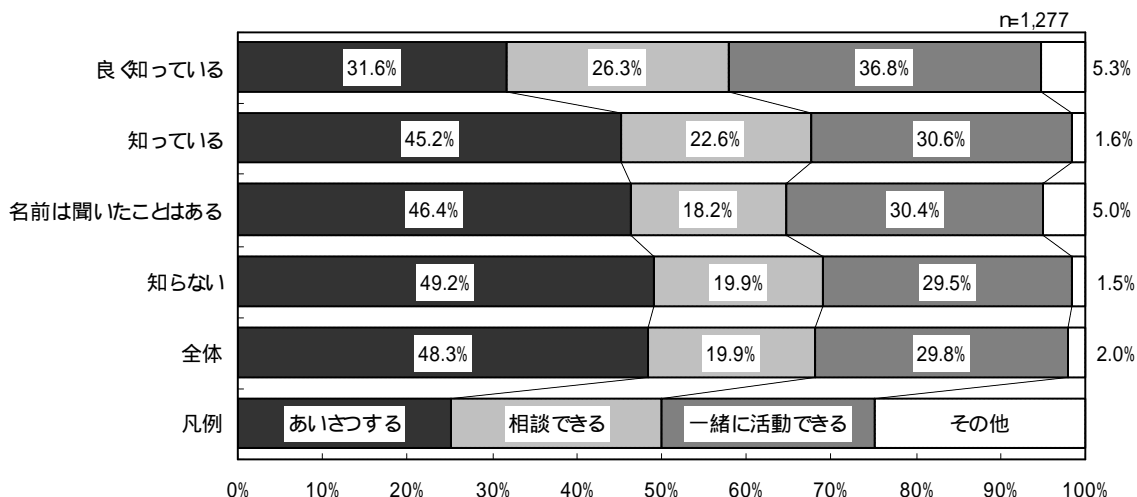


n=861

選択肢	回答数	回答率
1. あいさつする	624	72.5%
2. 相談できる	257	29.8%
3. 一緒に活動できる	384	44.6%
4. その他	27	3.1%
無回答	8	0.9%
計	1300	-

地域の方とかかわりたい内容について『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度別にみると、「良く知っている」場合は、「知っている」、「名前は聞いたことがある」、「知らない」と比べ、「相談できる」、「一緒に活動ができる」の割合が高くなっており、『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度が高いほど、より深く地域とかかわりたいと考える傾向にある。

『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度別、地域の方とかかわりたい内容(問 19×問 12-1)



	あいさつする	相談できる	一緒に活動できる	その他	計
良く知っている	6 31.6%	5 26.3%	7 36.8%	1 5.3%	19 100.0%
知っている	28 45.2%	14 22.6%	19 30.6%	1 1.6%	62 100.0%
名前は聞いたことはある	84 46.4%	33 18.2%	55 30.4%	9 5.0%	181 100.0%
知らない	499 49.2%	202 19.9%	299 29.5%	15 1.5%	1015 100.0%
全体	617 48.3%	254 19.9%	380 29.8%	26 2.0%	1277 100.0%

問 12-2 地域の方とかかわりたくない理由(自由回答)

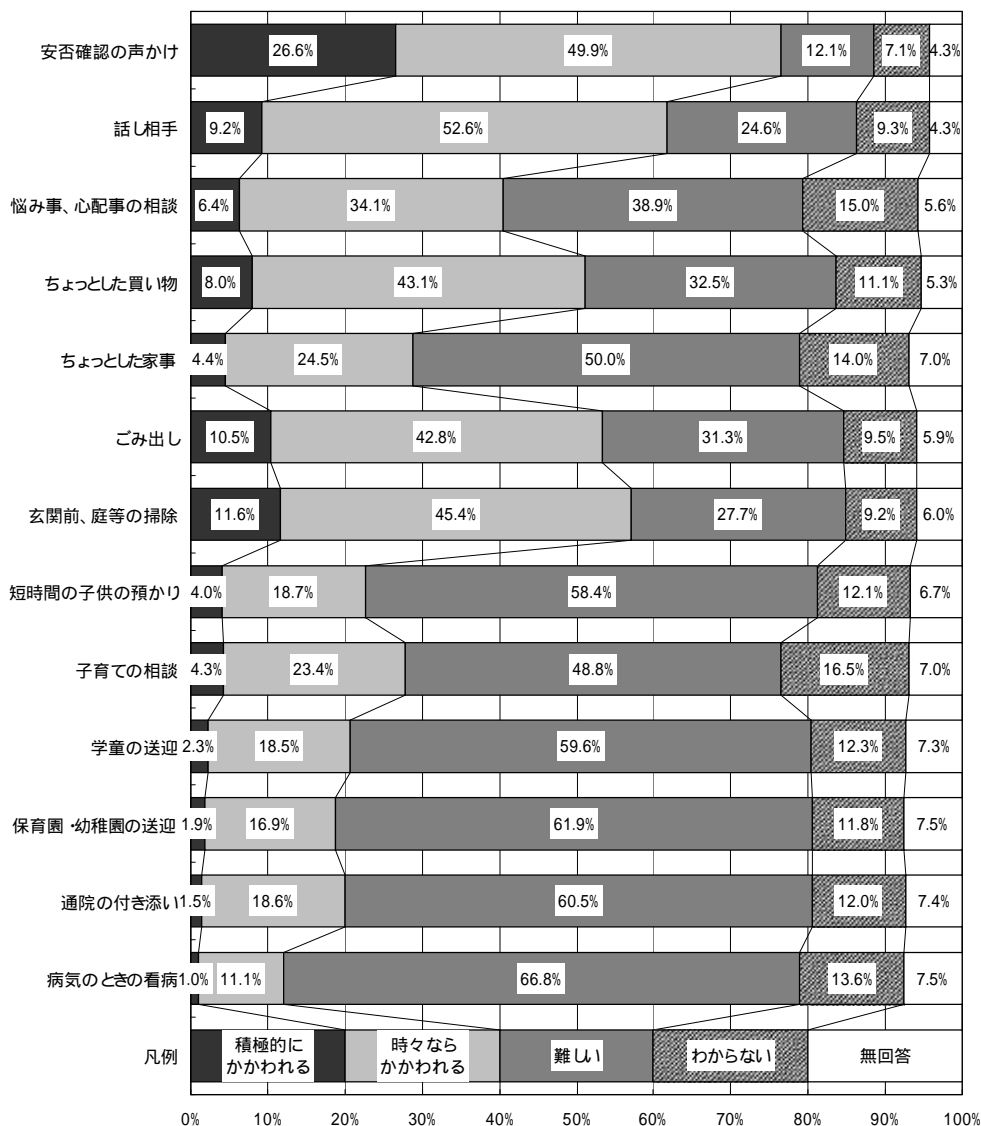
問 12 で「あまりかかわりたくない」または「今はかかわりたくない」と回答した方に対するかかわりたくない理由は、「年齢的、身体的な理由でできない」といった理由が最も多く、次いで「仕事や家事などで忙しい」といった理由が多かった。

問 13 隣近所の困っている方とかかわれる程度

隣近所で困っている方がいた場合のかかわれる程度については、「積極的にかかわれる」と「時々ならかかわれる」をあわせたものは、「安否確認の声かけ」が 76.4%と最も多く、次いで「話し相手」61.8%、「玄関前、庭等の掃除」57.1%、「ごみ出し」53.3%、「ちょっとした買い物」51.1%と 50%以上の方がかかわれると回答したのは、ついでにできるようなことがらが多かった。

30%未満の方しかかかわれると回答しなかったのは、最も少なかった「病気のときの看病」12.0%をはじめ、「保育園、幼稚園の送迎」18.8%、「病院の付き添い」20.0%、「学童の送迎」20.7%、「短時間の子供の預かり」22.7%、「子育ての相談」27.7%、「ちょっとした家事」28.9%であった。

その他、地域で困っている方にかかわれること(手助けできること)の内容については、選択肢にあげられていた項目の回答が多く、具体的な記入が少なかったが、ヘルパー、パソコン、造園、電気関係の修理といった特技を活かしたかかわり方の回答が目についた。



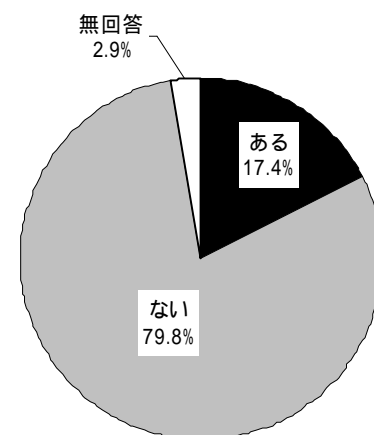
n=1013

	積極的に かかわれる	時々なら かかわれる	難しい	わからない	無回答	計
安否確認の声かけ	269 26.6%	505 49.9%	123 12.1%	72 7.1%	44 4.3%	1,013 100.0%
話し相手	93 9.2%	533 52.6%	249 24.6%	94 9.3%	44 4.3%	1,013 100.0%
悩み事、心配事の相談	65 6.4%	345 34.1%	394 38.9%	152 15.0%	57 5.6%	1,013 100.0%
ちょっとした買い物	81 8.0%	437 43.1%	329 32.5%	112 11.1%	54 5.3%	1,013 100.0%
ちょっとした家事	45 4.4%	248 24.5%	507 50.0%	142 14.0%	71 7.0%	1,013 100.0%
ごみ出し	106 10.5%	434 42.8%	317 31.3%	96 9.5%	60 5.9%	1,013 100.0%
玄関前、庭等の掃除	118 11.6%	460 45.4%	281 27.7%	93 9.2%	61 6.0%	1,013 100.0%
短時間の子供の預かり	41 4.0%	189 18.7%	592 58.4%	123 12.1%	68 6.7%	1,013 100.0%
子育ての相談	44 4.3%	237 23.4%	494 48.8%	167 16.5%	71 7.0%	1,013 100.0%
学童の送迎	23 2.3%	187 18.5%	604 59.6%	125 12.3%	74 7.3%	1,013 100.0%
保育園 幼稚園の送迎	19 1.9%	171 16.9%	627 61.9%	120 11.8%	76 7.5%	1,013 100.0%
通院の付き添い	15 1.5%	188 18.6%	613 60.5%	122 12.0%	75 7.4%	1,013 100.0%
病気のときの看病	10 1.0%	112 11.1%	677 66.8%	138 13.6%	76 7.5%	1,013 100.0%

問 14 ボランティア活動の参加経験

近年のボランティア活動の参加について「ある」と回答したのは17.4%であった。

参加したことがあるボランティア活動の具体的内容は、「清掃」、「防災・防犯活動」、「子供関連の活動」、「老人関連の活動」、「自治会活動」、「文化活動」、「保健推進活動」と多岐にわたる内容であった。



n=1013

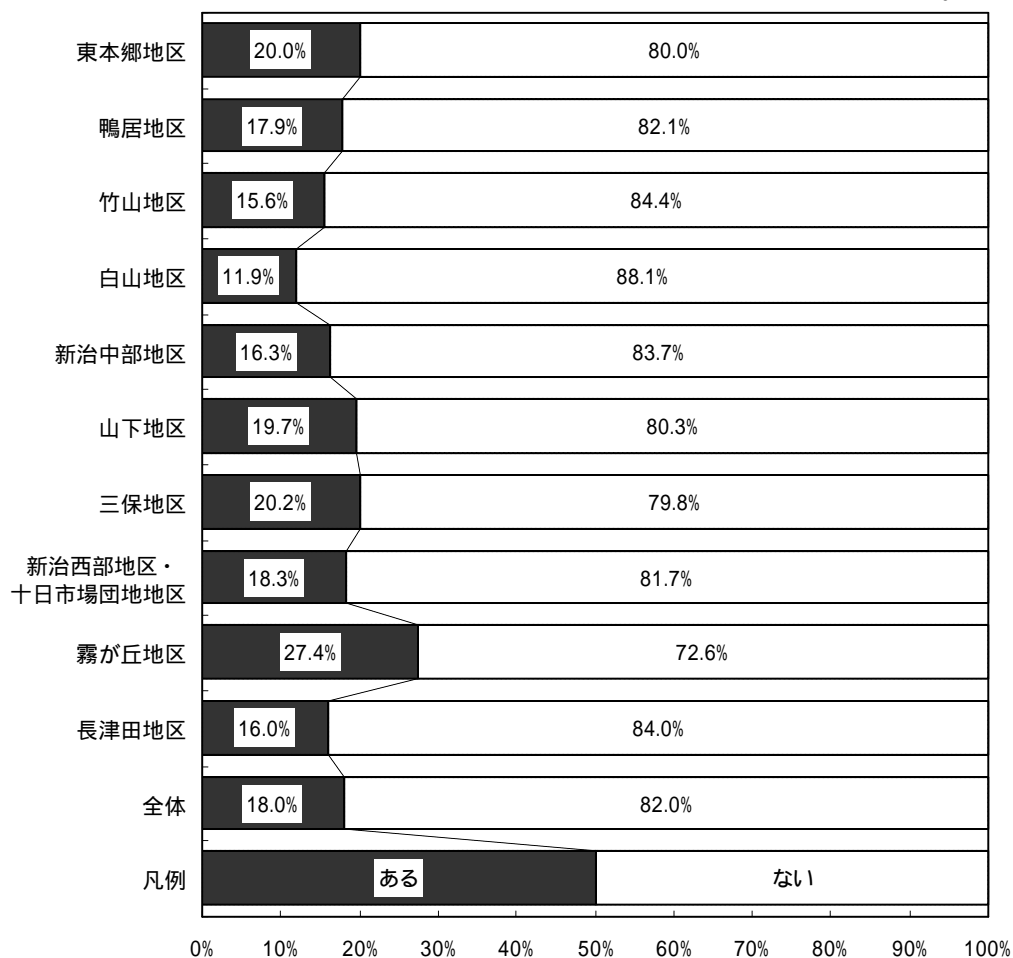
選択肢	回答数	回答率
1. ある	176	17.4%
2. ない	808	79.8%
無回答	29	2.9%
計	1013	100.0%

ボランティア活動の参加経験を居住地区別にみると、平均以上であるのは、最も高い霧が丘地区の27.4%及びそれにつづく、三保地区の20.2%、東本郷地区の20.0%、山下地区の19.7%、鴨居地区の17.9%となっており、最も低かったのは白山地区の11.9%であった。

また、年齢別にみると、65歳～69歳が35.8%と最も高く、40歳未満は10%以下と低くなっており、特に20歳～29歳のボランティア活動の参加経験は2.3%と非常に低かった。

居住地区別、ボランティア活動の参加経験（問1×問14）

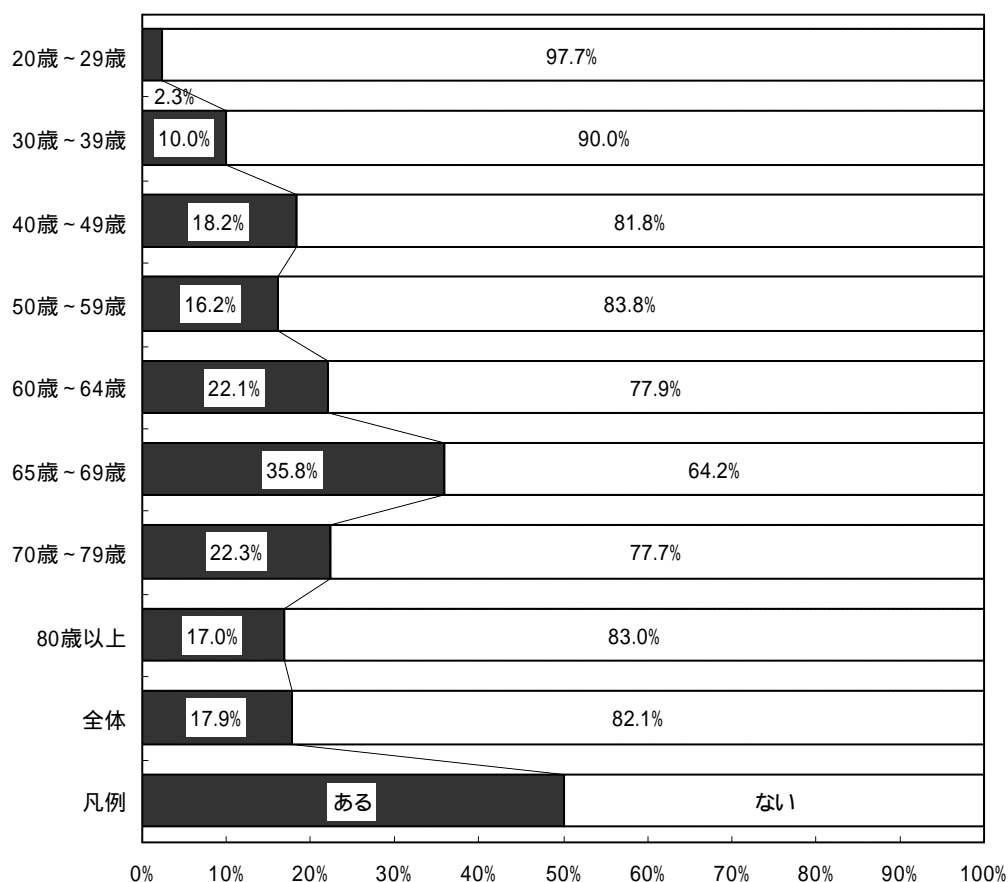
n=977



	ある	ない	計
東本郷地区	15 20.0%	60 80.0%	75 100.0%
鴨居地区	17 17.9%	78 82.1%	95 100.0%
竹山地区	10 15.6%	54 84.4%	64 100.0%
白山地区	7 11.9%	52 88.1%	59 100.0%
新治中部地区	24 16.3%	123 83.7%	147 100.0%
山下地区	14 19.7%	57 80.3%	71 100.0%
三保地区	18 20.2%	71 79.8%	89 100.0%
新治西部地区・十日市場団地地区	19 18.3%	85 81.7%	104 100.0%
霧が丘地区	20 27.4%	53 72.6%	73 100.0%
長津田地区	32 16.0%	168 84.0%	200 100.0%
全体	176 18.0%	801 82.0%	977 100.0%

年齢構成別、ボランティア活動の参加経験（問3×問14）

n=982



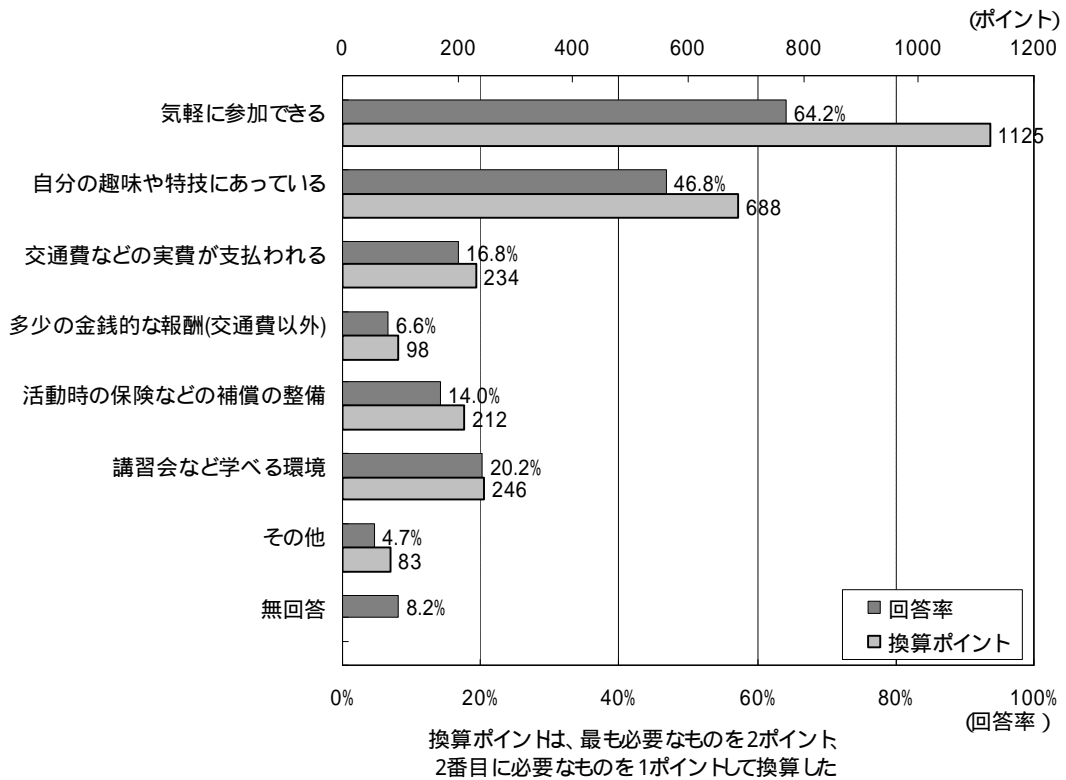
	ある	ない	計
20歳～29歳	2 2.3%	84 97.7%	86 100.0%
30歳～39歳	17 10.0%	153 90.0%	170 100.0%
40歳～49歳	31 18.2%	139 81.8%	170 100.0%
50歳～59歳	25 16.2%	129 83.8%	154 100.0%
60歳～64歳	21 22.1%	74 77.9%	95 100.0%
65歳～69歳	38 35.8%	68 64.2%	106 100.0%
70歳～79歳	33 22.3%	115 77.7%	148 100.0%
80歳以上	9 17.0%	44 83.0%	53 100.0%
全体	176 17.9%	806 82.1%	982 100.0%

問 15 ボランティア活動に参加するための必要事項(複数回答)

回答者がボランティア活動に参加するための必要事項は、「気軽に参加できる」が 64.2%と最も多く、次いで「自分の趣味や特技にあっている」が 46.8%と多い回答となっている。

最も必要なものを 2 ポイント、2 番目に必要なものを 1 ポイントとして計算した換算ポイントにおいても同様の傾向を示しているが、回答率が最も多かった「気軽に参加できる」がさらに際立っている。

その他の意見としては、「やりがいや必要性」、「時間」という回答が多かった。



n=1013

選択肢	回答数	ポイント	回答率
1. 気軽に参加できる	650	1125	64.2%
2. 自分の趣味や特技にあっている	474	688	46.8%
3. 交通費などの実費が支払われる	170	234	16.8%
4. 多少の金銭的な報酬(交通費以外)	67	98	6.6%
5. 活動時の保険などの補償の整備	142	212	14.0%
6. 講習会など学べる環境	205	246	20.2%
7. その他	48	83	4.7%
無回答	83	-	8.2%
計	1839	2686	-

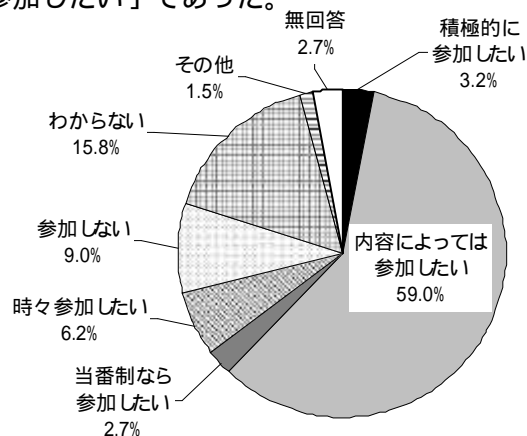
問 16 地域のボランティア活動参加依頼への対応

地域のボランティア活動への参加依頼に対しては、「内容によっては参加したい」が59.0%と最も多く、「積極的に参加したい」、「当番制なら参加したい」、「時々参加したい」を含めると71.1%を占め、地域のボランティア活動への参加意欲が高いことがうかがえる。

その他の内訳で多かったのは、「時間の都合がつけば参加したい」であった。

n=1013

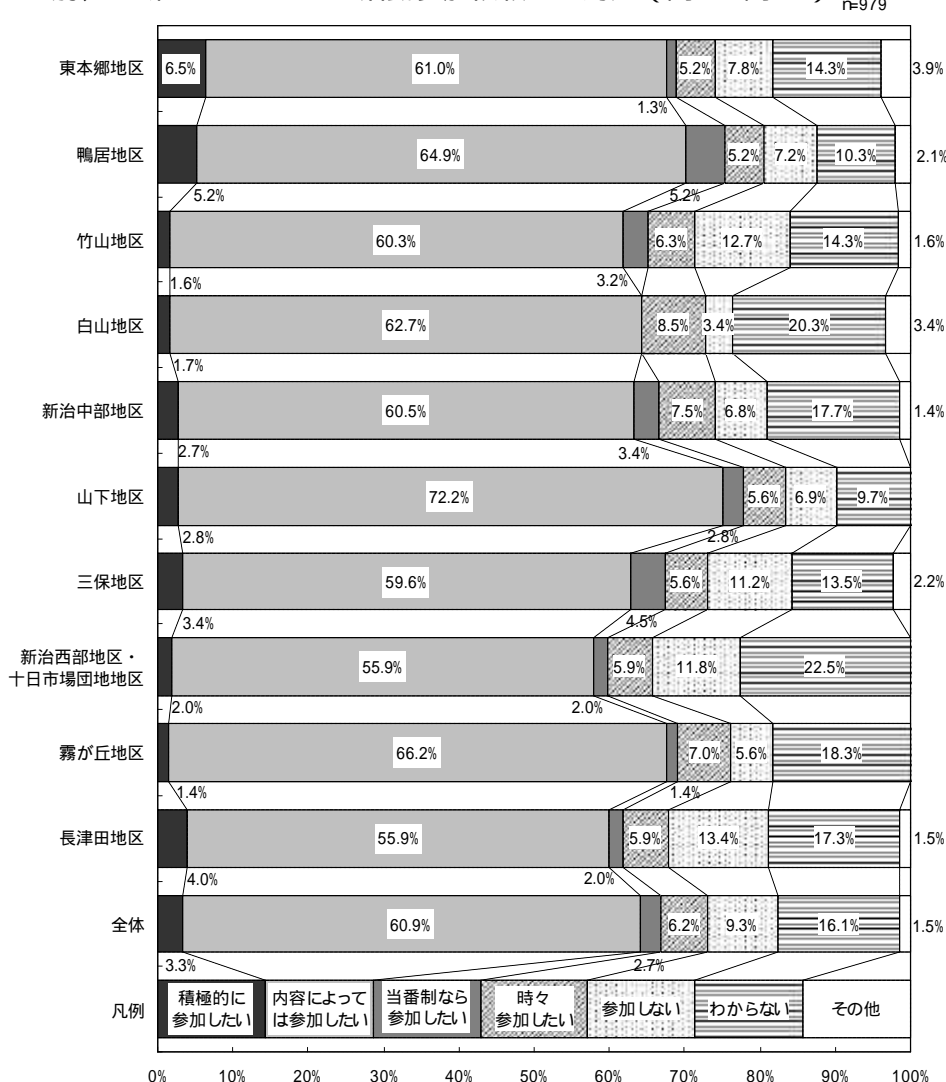
選択肢	回答数	回答率
1. 積極的に参加したい	32	3.2%
2. 内容によっては参加したい	598	59.0%
3. 当番制なら参加したい	27	2.7%
4. 時々参加したい	63	6.2%
5. 参加しない	91	9.0%
6. わからない	160	15.8%
7. その他	15	1.5%
無回答	27	2.7%
計	1013	100.0%



居住地区別にみると、「積極的に参加したい」との回答が最も高かったのは東本郷地区の6.5%で、「内容によっては参加したい」との回答が最も高かったのは山下地区の72.2%であった。

また、「参加しない」との回答が高かったのは長津田地区の13.4%となっている。

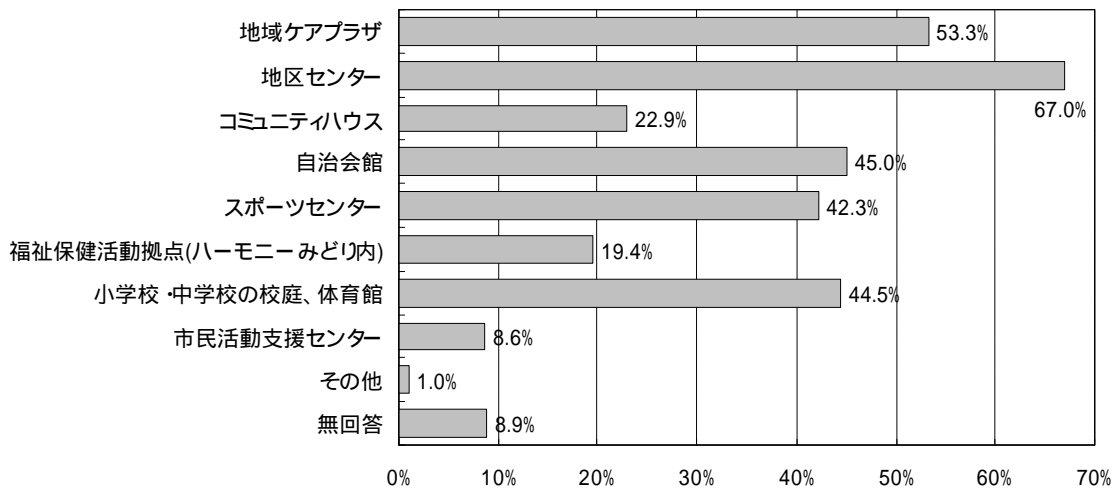
居住地区別、地域のボランティア活動参加依頼への対応（問1×問16）



	積極的に参加したい	内容によっては参加したい	当番制なら参加したい	時々参加したい	参加しない	わからない	その他	計
東本郷地区	5 6.5%	47 61.0%	1 1.3%	4 5.2%	6 7.8%	11 14.3%	3 3.9%	77 100.0%
鴨居地区	5 5.2%	63 64.9%	5 5.2%	5 5.2%	7 7.2%	10 10.3%	2 2.1%	97 100.0%
竹山地区	1 1.6%	38 60.3%	2 3.2%	4 6.3%	8 12.7%	9 14.3%	1 1.6%	63 100.0%
白山地区	1 1.7%	37 62.7%	0 0.0%	5 8.5%	2 3.4%	12 20.3%	2 3.4%	59 100.0%
新治中部地区	4 2.7%	89 60.5%	5 3.4%	11 7.5%	10 6.8%	26 17.7%	2 1.4%	147 100.0%
山下地区	2 2.8%	52 72.2%	2 2.8%	4 5.6%	5 6.9%	7 9.7%	0 0.0%	72 100.0%
三保地区	3 3.4%	53 59.6%	4 4.5%	5 5.6%	10 11.2%	12 13.5%	2 2.2%	89 100.0%
新治西部地区・十日市場団地地区	2 2.0%	57 55.9%	2 2.0%	6 5.9%	12 11.8%	23 22.5%	0 0.0%	102 100.0%
霧が丘地区	1 1.4%	47 66.2%	1 1.4%	5 7.0%	4 5.6%	13 18.3%	0 0.0%	71 100.0%
長津田地区	8 4.0%	113 55.9%	4 2.0%	12 5.9%	27 13.4%	35 17.3%	3 1.5%	202 100.0%
全体	32 3.3%	596 60.9%	26 2.7%	61 6.2%	91 9.3%	158 16.1%	15 1.5%	979 100.0%

問 17 地域のボランティア活動・余暇活動に利用できる施設の認知(複数回答)

地域のボランティア活動・余暇活動に利用できる施設の認知度は、「地区センター」が 67.0%と最も高く、「地域ケアプラザ」が 53.3%となっているが、「市民活動支援センター」は 8.6%、「福祉保健活動拠点(ハーモニーみどり内)」は 19.4%と低い結果であった。



n=1013

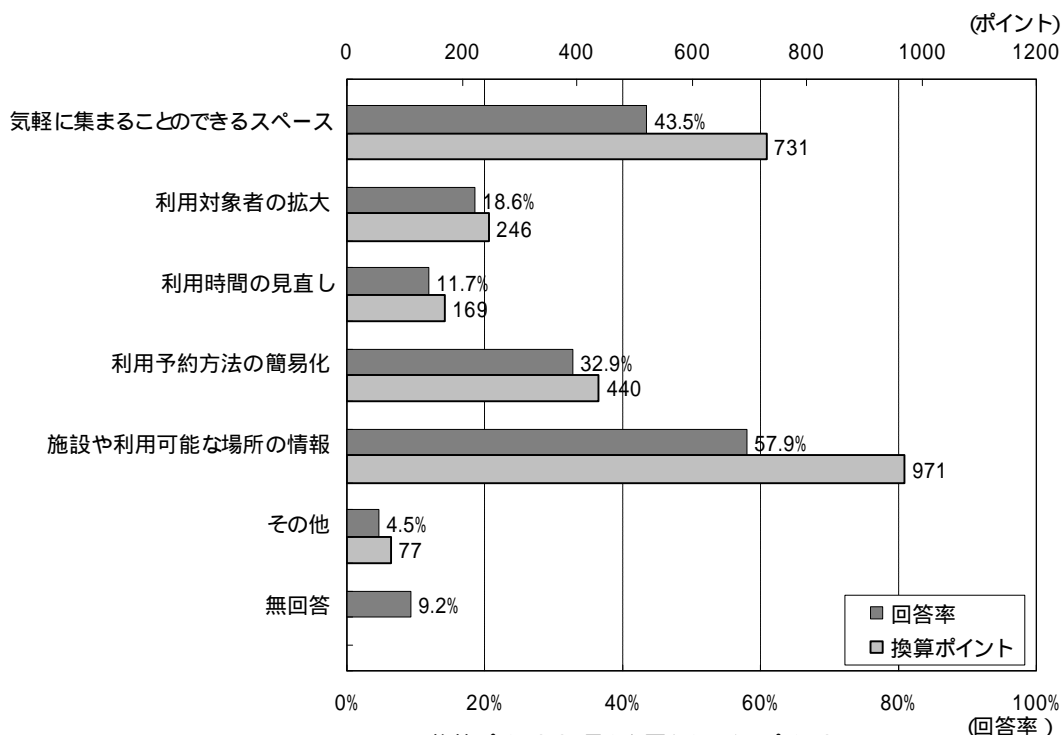
選択肢	回答数	回答率
1. 地域ケアプラザ	540	53.3%
2. 地区センター	679	67.0%
3. コミュニティハウス	232	22.9%
4. 自治会館	456	45.0%
5. スポーツセンター	428	42.3%
6. 福祉保健活動拠点(ハーモニーみどり内)	197	19.4%
7. 小学校・中学校の校庭、体育館	451	44.5%
8. 市民活動支援センター	87	8.6%
9. その他	10	1.0%
無回答	90	8.9%
計	3170	-

問 18 施設をより使いやすくするための必要な事項(複数回答)

回答者が地域のボランティア活動・余暇活動に利用できる施設を使いやすくするための必要事項は、「施設や利用可能な場所の情報」が 57.9%と最も多く、次いで「気軽に集まることのできるスペース」が 43.5%と多い回答となっている。

最も必要なものを 2 ポイント、2 番目に必要なものを 1 ポイントとして計算した換算ポイントにおいても同様の傾向を示している。

その他の意見として多かったのは、「駐車場やアクセスの利便性向上」、「料金の低額化」、「利用ルールの簡素化」、「施設の案内などの周知」という意見が多かった。

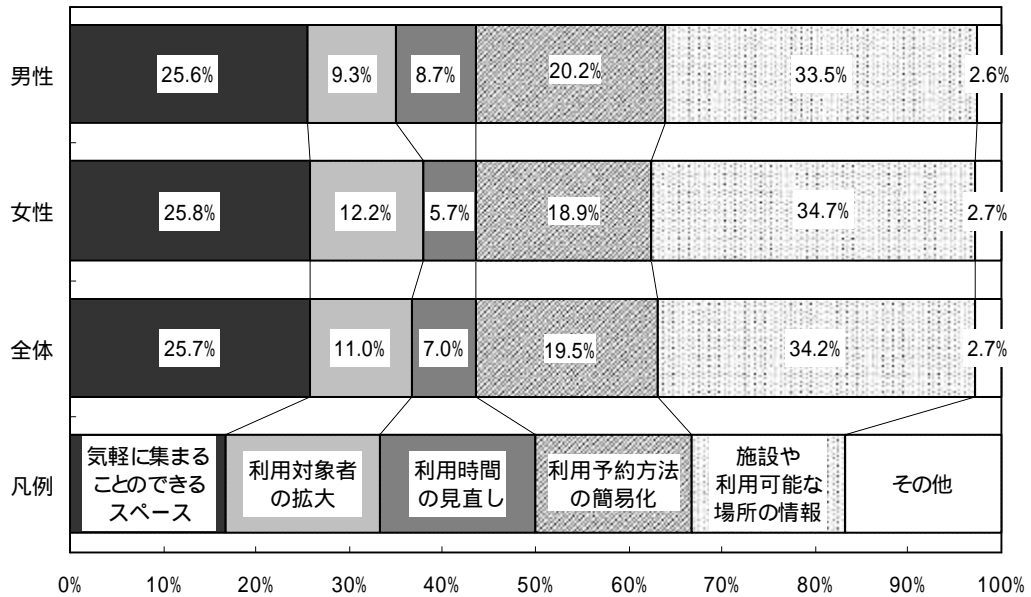


換算ポイントは、最も必要なものを2ポイント、2番目に必要なものを1ポイントして換算した

選択肢	回答数	ポイント	回答率
1. 気軽に集まることのできるスペース	441	731	43.5%
2. 利用対象者の拡大	188	246	18.6%
3. 利用時間の見直し	119	169	11.7%
4. 利用予約方法の簡易化	333	440	32.9%
5. 施設や利用可能な場所の情報	587	971	57.9%
6. その他	46	77	4.5%
無回答	93	-	9.2%
計	1807	2634	-

施設をより使いやすくするための必要な事項について男女別にみると、「利用対象者の拡大」でやや女性が多く、「利用時間の見直し」でやや男性が多かったものの、大きな違いはみられない。

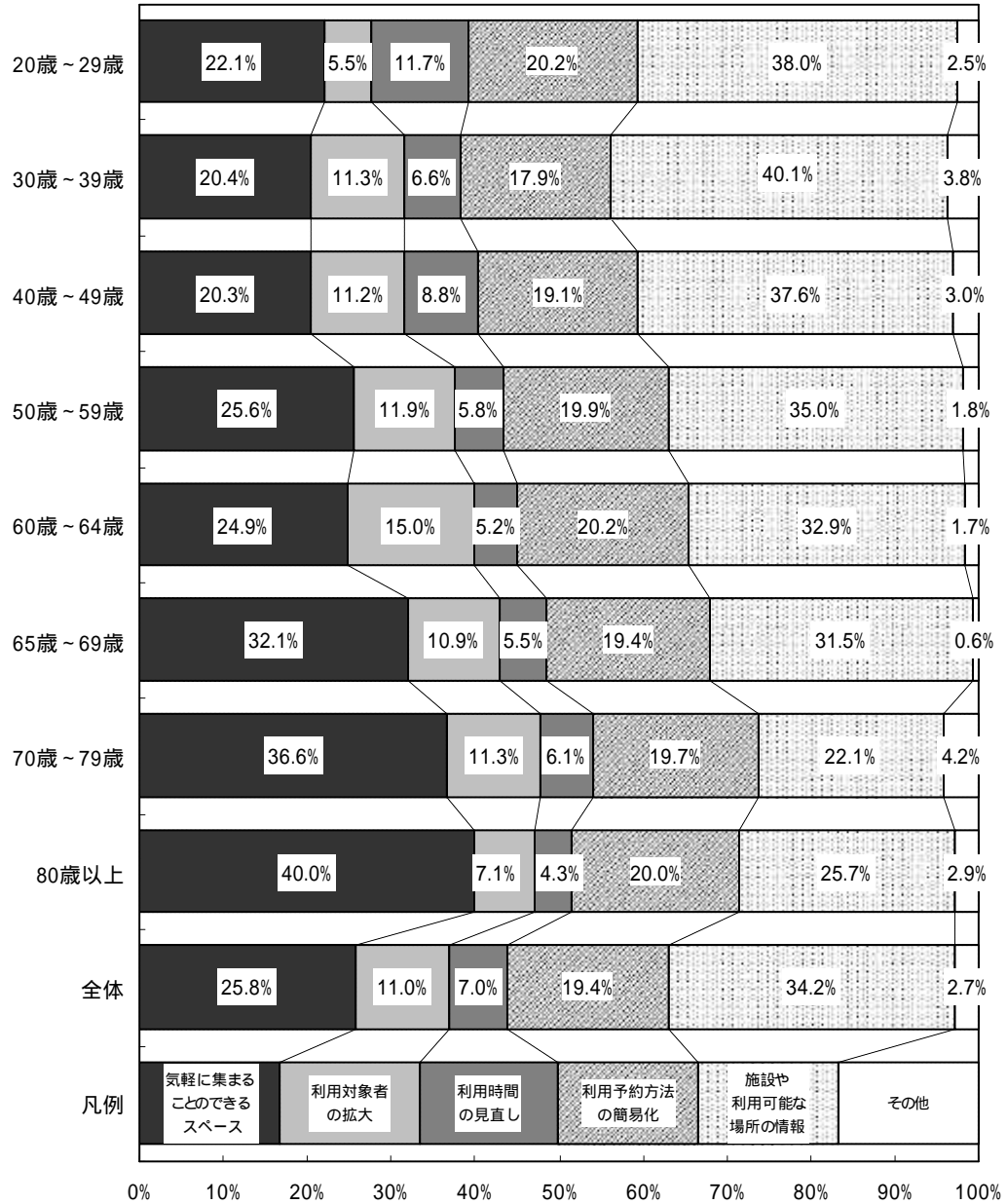
男女別、施設をより使いやすくするための必要な事項（問2×問18）



	気軽に集まることのできるスペース	利用対象者の拡大	利用時間の見直し	利用予約方法の簡易化	施設や利用可能な場所の情報	その他	計
男性	185 25.6%	67 9.3%	63 8.7%	146 20.2%	242 33.5%	19 2.6%	722 100.0%
女性	255 25.8%	121 12.2%	56 5.7%	187 18.9%	344 34.7%	27 2.7%	990 100.0%
全体	440 25.7%	188 11.0%	119 7.0%	333 19.5%	586 34.2%	46 2.7%	1712 100.0%

年齢構成別にみると、年齢層が高くなるほど「気軽に集まることのできるスペース」が必要と考える傾向が高く、50歳未満では20%程度であるのに対し、80歳以上では40.0%となっているが、「施設や利用可能な場所の情報」や「利用時間の見直し」が必要と考える割合は、年齢層が低いほど高くなる傾向にある。

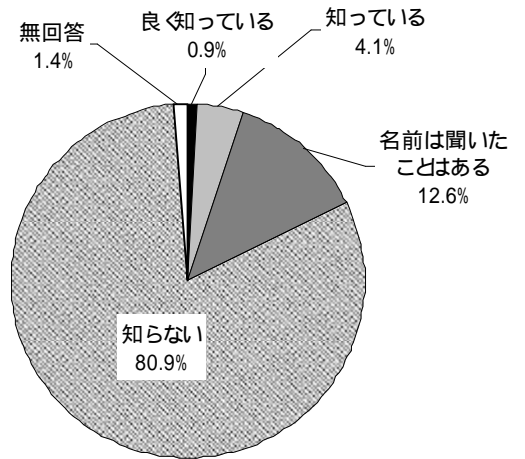
年齢構成別、施設をより使いやすくするための必要な事項（問3×問18）



	気軽に集まることのできるスペース	利用対象者の拡大	利用時間の見直し	利用予約方法の簡易化	施設や利用可能な場所の情報	その他	計
20歳～29歳	36 22.1%	9 5.5%	19 11.7%	33 20.2%	62 38.0%	4 2.5%	163 100.0%
30歳～39歳	65 20.4%	36 11.3%	21 6.6%	57 17.9%	128 40.1%	12 3.8%	319 100.0%
40歳～49歳	67 20.3%	37 11.2%	29 8.8%	63 19.1%	124 37.6%	10 3.0%	330 100.0%
50歳～59歳	71 25.6%	33 11.9%	16 5.8%	55 19.9%	97 35.0%	5 1.8%	277 100.0%
60歳～64歳	43 24.9%	26 15.0%	9 5.2%	35 20.2%	57 32.9%	3 1.7%	173 100.0%
65歳～69歳	53 32.1%	18 10.9%	9 5.5%	32 19.4%	52 31.5%	1 0.6%	165 100.0%
70歳～79歳	78 36.6%	24 11.3%	13 6.1%	42 19.7%	47 22.1%	9 4.2%	213 100.0%
80歳以上	28 40.0%	5 7.1%	3 4.3%	14 20.0%	18 25.7%	2 2.9%	70 100.0%
全体	441 25.8%	188 11.0%	119 7.0%	331 19.4%	585 34.2%	46 2.7%	1710 100.0%

問 19 『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度

『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度は、「良く知っている」と「知っている」の合計が 5.0%、「名前は聞いたことがある」をあわせると 17.6%ではあるが「知らない」が 80.9%と低い認知度を示している。



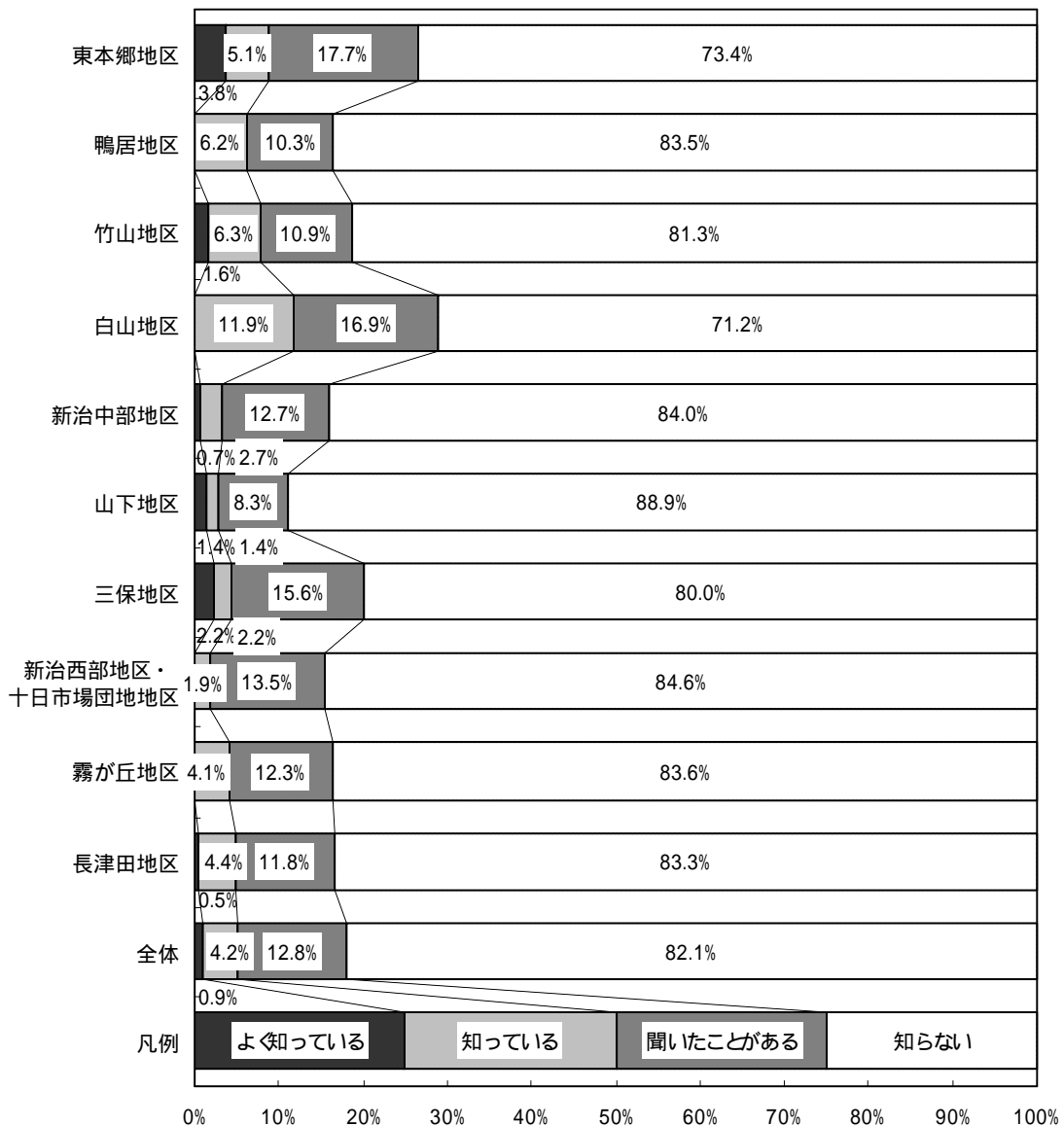
n=1013

選択肢	回答数	回答率
1. 良く知っている	9	0.9%
2. 知っている	42	4.1%
3. 名前は聞いたことがある	128	12.6%
4. 知らない	820	80.9%
無回答	14	1.4%
計	1013	100.0%

居住地区別にみると、「良く知っている」との回答が最も高かったのは東本郷地区の 3.8%で、「良く知っている」と「知っている」合計では白山地区の 11.9%が最も高かった。

居住地区別、『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度（問 1×問 19）

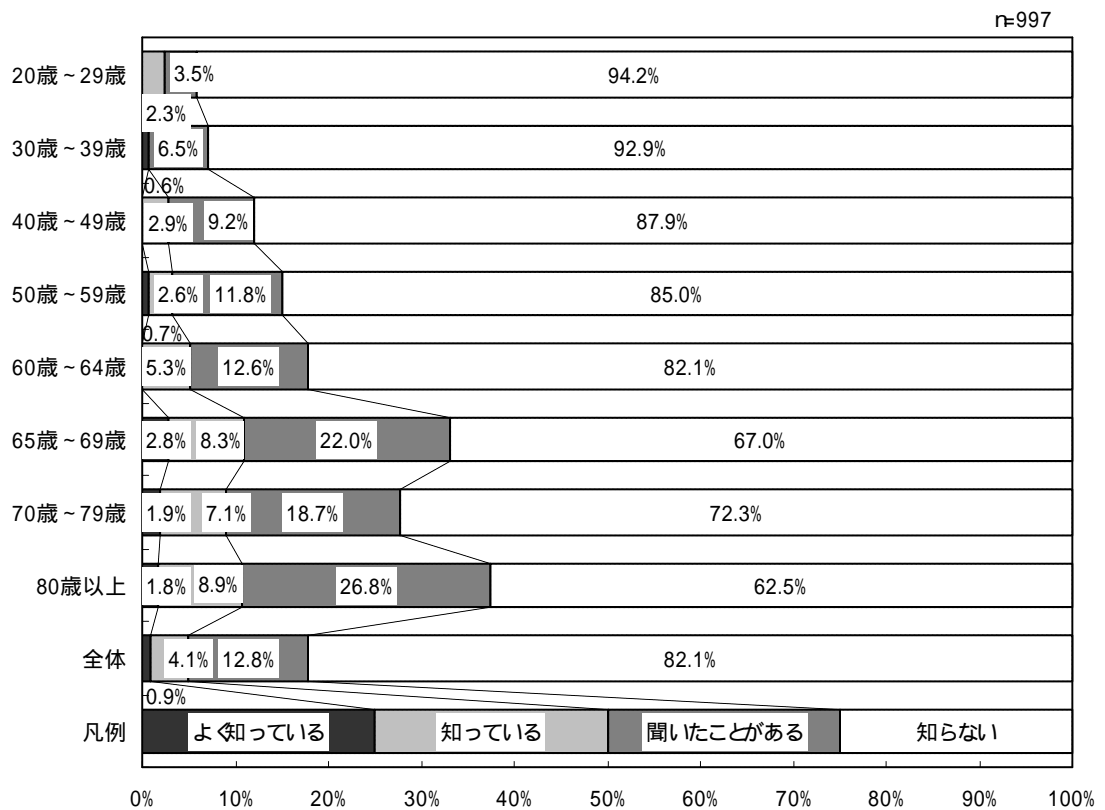
n=992



	良く知っている	知っている	名前は聞いた ことはある	知らない	計
東本郷地区	3 3.8%	4 5.1%	14 17.7%	58 73.4%	79 100.0%
鴨居地区	0 0.0%	6 6.2%	10 10.3%	81 83.5%	97 100.0%
竹山地区	1 1.6%	4 6.3%	7 10.9%	52 81.3%	64 100.0%
白山地区	0 0.0%	7 11.9%	10 16.9%	42 71.2%	59 100.0%
新治中部地区	1 0.7%	4 2.7%	19 12.7%	126 84.0%	150 100.0%
山下地区	1 1.4%	1 1.4%	6 8.3%	64 88.9%	72 100.0%
三保地区	2 2.2%	2 2.2%	14 15.6%	72 80.0%	90 100.0%
新治西部地区・ 十日市場団地	0 0.0%	2 1.9%	14 13.5%	88 84.6%	104 100.0%
霧が丘地区	0 0.0%	3 4.1%	9 12.3%	61 83.6%	73 100.0%
長津田地区	1 0.5%	9 4.4%	24 11.8%	170 83.3%	204 100.0%
全体	9 0.9%	42 4.2%	127 12.8%	814 82.1%	992 100.0%

年齢構成別にみると、「良く知っている」との回答が最も高かったのは65歳～69歳の2.8%で、「良く知っている」と「知っている」合計についても65歳～69歳が11.1%と高かった。また、20歳代及び30歳代においては、「知らない」との回答が90%を超えている。

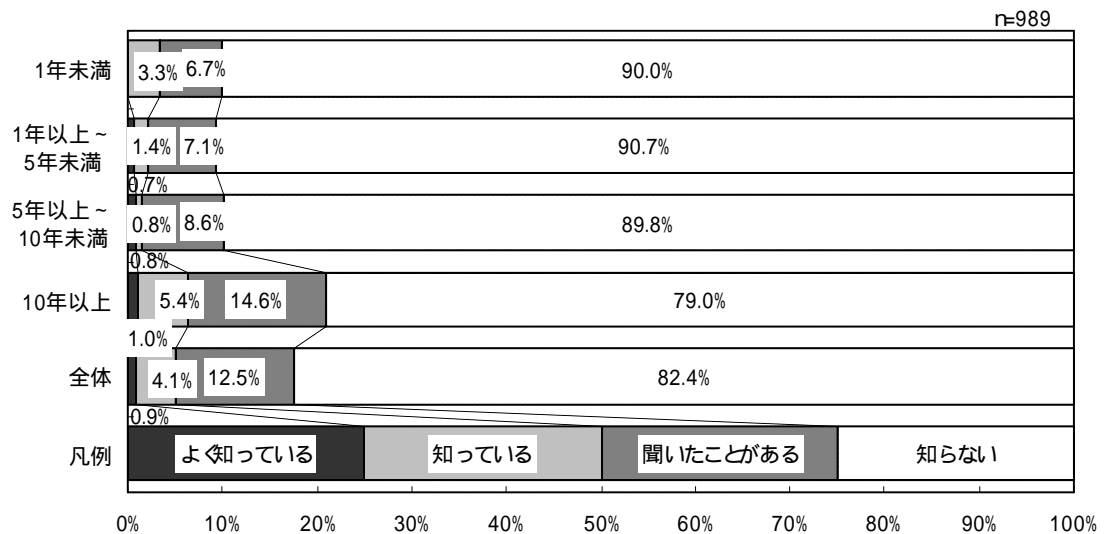
年齢構成別、『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度（問3×問19）



	良く知っている	知っている	名前は聞いた ことはある	知らない	計
20歳～29歳	0 0.0%	2 2.3%	3 3.5%	81 94.2%	86 100.0%
30歳～39歳	1 0.6%	0 0.0%	11 6.5%	158 92.9%	170 100.0%
40歳～49歳	0 0.0%	5 2.9%	16 9.2%	152 87.9%	173 100.0%
50歳～59歳	1 0.7%	4 2.6%	18 11.8%	130 85.0%	153 100.0%
60歳～64歳	0 0.0%	5 5.3%	12 12.6%	78 82.1%	95 100.0%
65歳～69歳	3 2.8%	9 8.3%	24 22.0%	73 67.0%	109 100.0%
70歳～79歳	3 1.9%	11 7.1%	29 18.7%	112 72.3%	155 100.0%
80歳以上	1 1.8%	5 8.9%	15 26.8%	35 62.5%	56 100.0%
全体	9 0.9%	41 4.1%	128 12.8%	819 82.1%	997 100.0%

居住年数別では、「良く知っている」と「知っている」合計で、10年以上が6.4%と最も高いが、10年未満では「知らない」との回答が約90%を超えている。

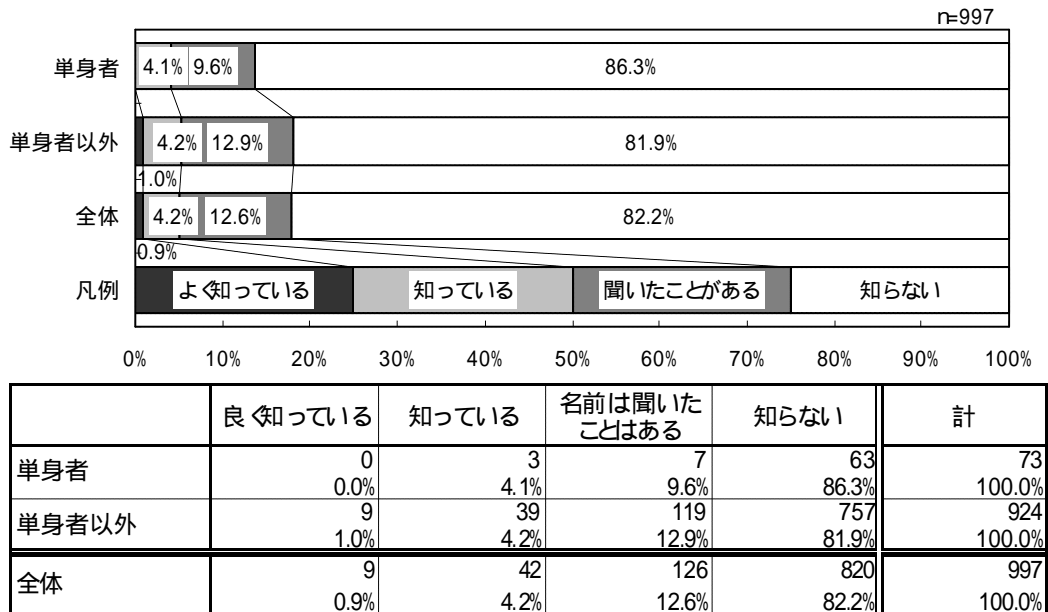
居住年数別、『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度（問4×問19）



	良く知っている	知っている	名前は聞いた ことはある	知らない	計
1年未満	0 0.0%	1 3.3%	2 6.7%	27 90.0%	30 3.3%
1年以上～ 5年未満	1 0.7%	2 1.4%	10 7.1%	127 90.7%	140 2.1%
5年以上～ 10年未満	1 0.8%	1 0.8%	11 8.6%	115 89.8%	128 1.6%
10年以上	7 1.0%	37 5.4%	101 14.6%	546 79.0%	691 6.4%
全体	9 0.9%	41 4.1%	124 12.5%	815 82.4%	989 5.1%

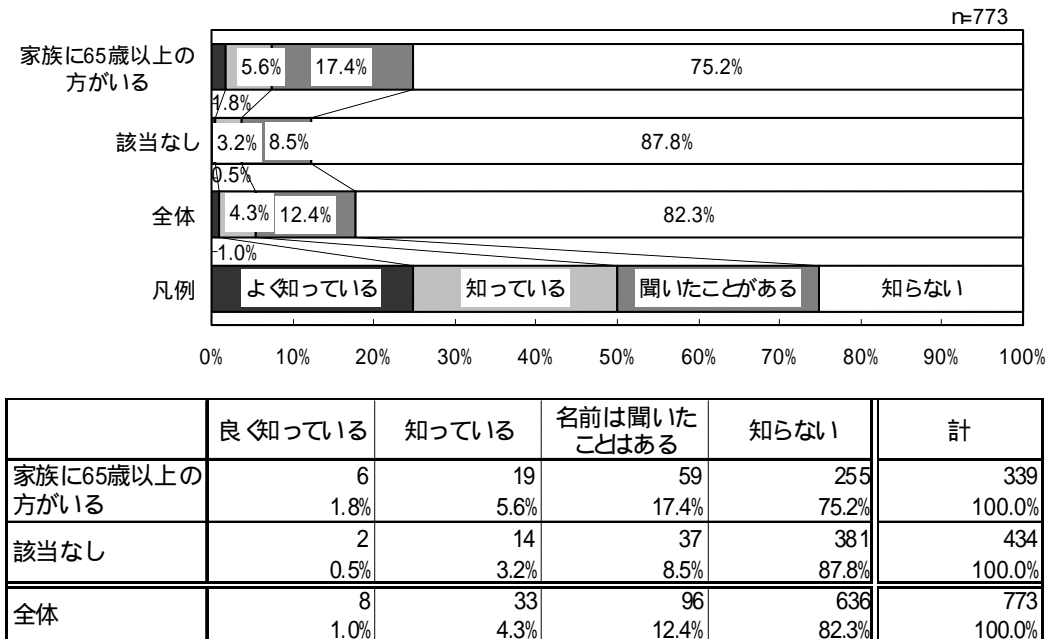
単身者が単身者以外の別でみると、「良く知っている」と「知っている」合計では、単身者以外が5.2%であるのに対し、単身者では4.1%となっている。

同居者の関係別、『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度（問6×問19）



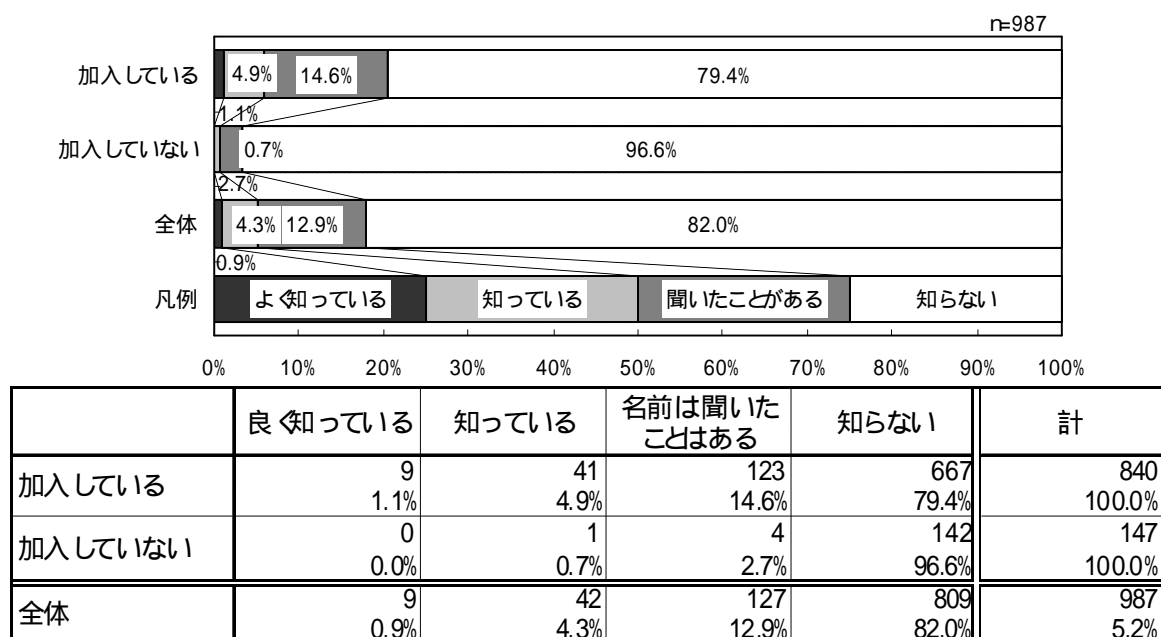
65歳以上の家族の有無別では、「良く知っている」と「知っている」合計で、「家族に65歳以上の方がいる」場合7.4%であるのに対し、そうでない場合は3.7%と「家族に65歳以上の方がいる」場合の方が認知度が高い。

65歳以上の家族の有無別、『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度（問7×問19）



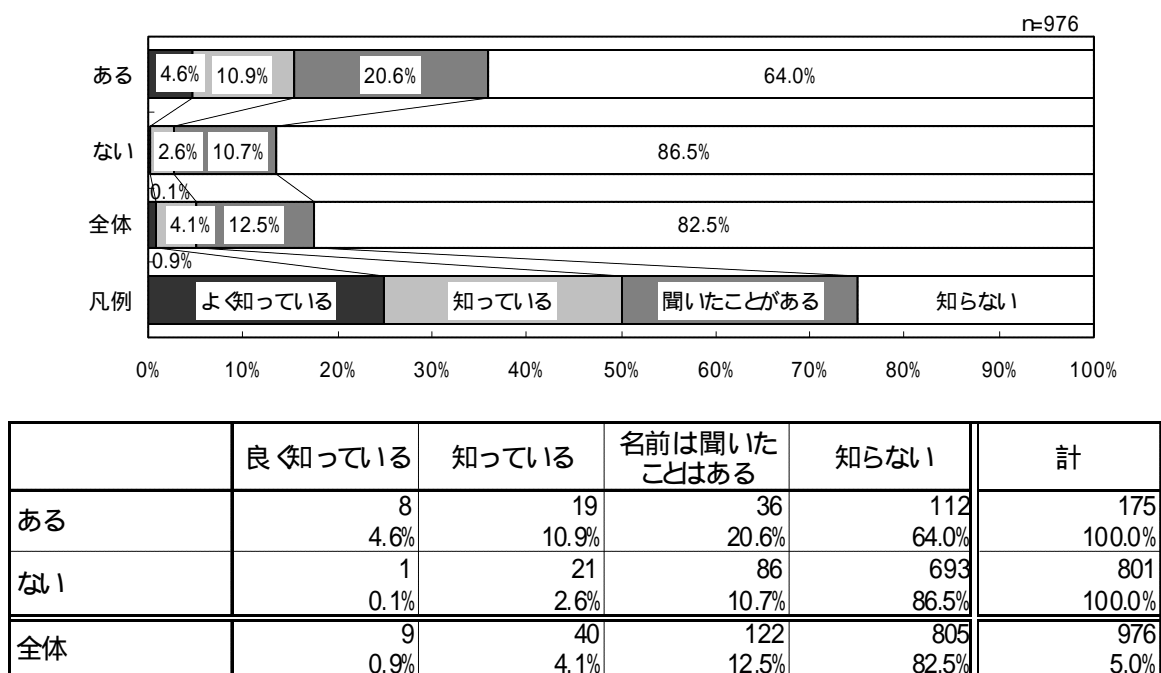
自治会加入状況別では、「良く知っている」と「知っている」合計で、「加入している」場合 6.0% であるのに対し、「加入していない」場合は 0.7%と認知度に明らかな差が見られる。

自治会加入状況別、『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度（問 9×問 19）



ボランティア活動の参加経験別では、「良く知っている」と「知っている」合計で、「参加経験がある」場合 15.5%であるのに対し、「ない」場合は 2.7%と、自治会加入の有無以上に認知度に大きな差が見られた。

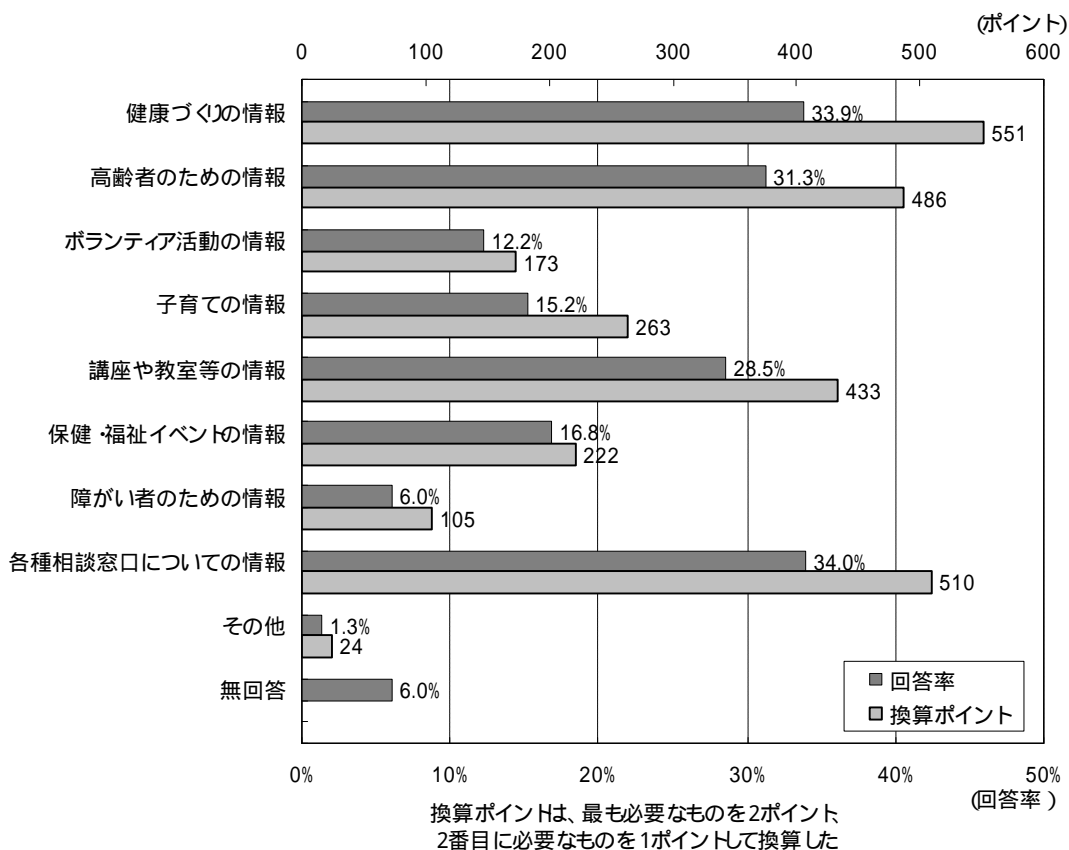
ボランティア活動の参加経験別、『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度（問 14×問 19）



問 20 知りたいと思う地域の福祉保健情報(複数回答)

回答者が知りたいと思う地域の福祉保健情報は、「各種相談窓口についての情報」が 34.0%と最も多く、次いで「健康づくりの情報」が 33.9%、「高齢者のための情報」が 31.3%、「講座や教室等の情報」が 28.5%と続く。

最も知りたいものを 2 ポイント、2 番目に知りたいものを 1 ポイントとして計算した換算ポイントにおいても同様の傾向を示しているが、「健康づくりの情報」を最も知りたいものとした回答が多かったため、換算ポイントでは「各種相談窓口についての情報」を上回っている。

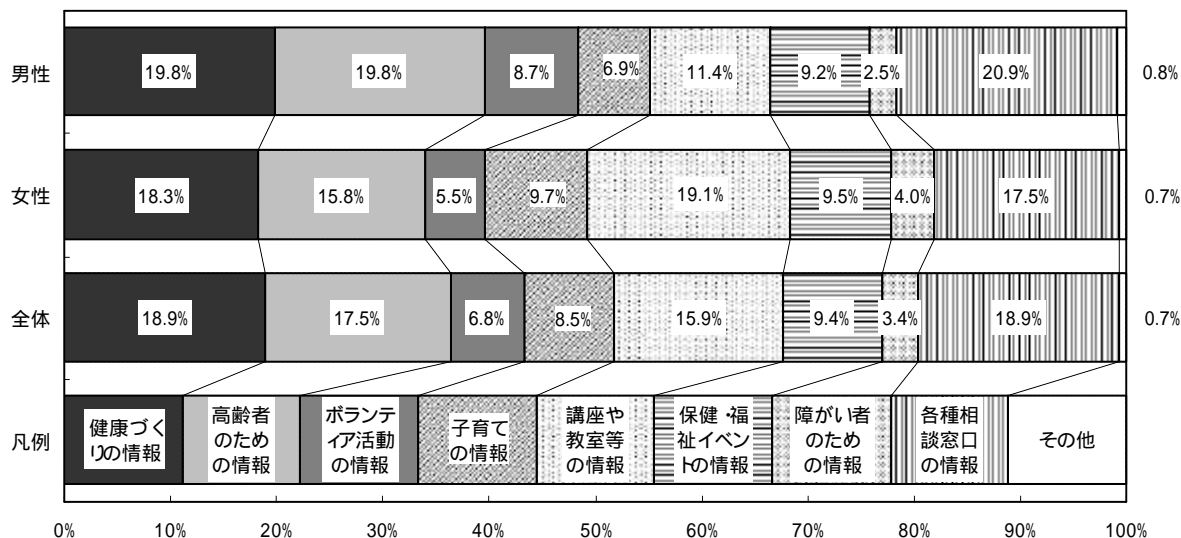


n=1013

選択肢	回答数	回答率
1. 健康づくりの情報	343	33.9%
2. 高齢者のための情報	317	31.3%
3. ボランティア活動の情報	124	12.2%
4. 子育ての情報	154	15.2%
5. 講座や教室等の情報	289	28.5%
6. 保健・福祉イベントの情報	170	16.8%
7. 障がい者のための情報	61	6.0%
8. 各種相談窓口についての情報	344	34.0%
9. その他	13	1.3%
無回答	61	6.0%
計	1876	-

知りたいと思う地域の福祉保健情報について男女別にみると、「高齢者のための情報」と「ボランティア活動の情報」は男性の方が高く、「子育ての情報」と「講座や教室等の情報」では女性の方が高くなっている。

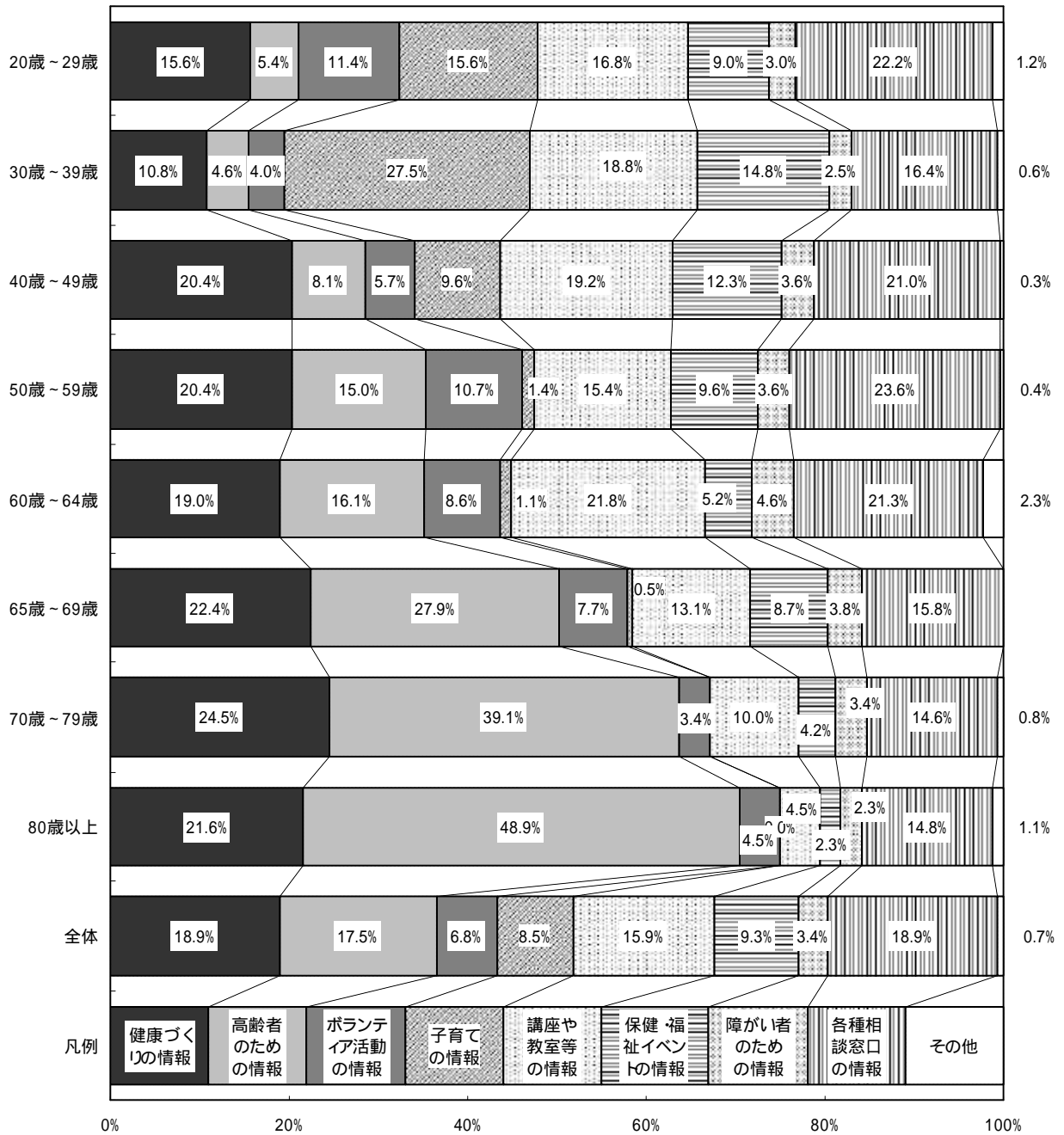
男女別、知りたいと思う地域の福祉保健情報（問2×問20）



	健康づくりの情報	高齢者のための情報	ボランティア活動の情報	子育ての情報	講座や教室等の情報	保健・福祉イベントの情報	障がい者のための情報	各種相談窓口の情報	その他	計
男性	150 19.8%	150 19.8%	66 8.7%	52 6.9%	86 11.4%	70 9.2%	19 2.5%	158 20.9%	6 0.8%	757 100.0%
女性	193 18.3%	167 15.8%	58 5.5%	102 9.7%	202 19.1%	100 9.5%	42 4.0%	185 17.5%	7 0.7%	1056 100.0%
全体	343 18.9%	317 17.5%	124 6.8%	154 8.5%	288 15.9%	170 9.4%	61 3.4%	343 18.9%	13 0.7%	1813 100.0%

年齢構成別にみると、「高齢者のための情報」については年齢層が高いほど高く、「子育ての情報」、「講座や教室等の情報」、「福祉保健のイベントの情報」については年齢層が低いほど高くなる傾向にある。

年齢構成別、知りたいと思う地域の福祉保健情報（問3×問20）



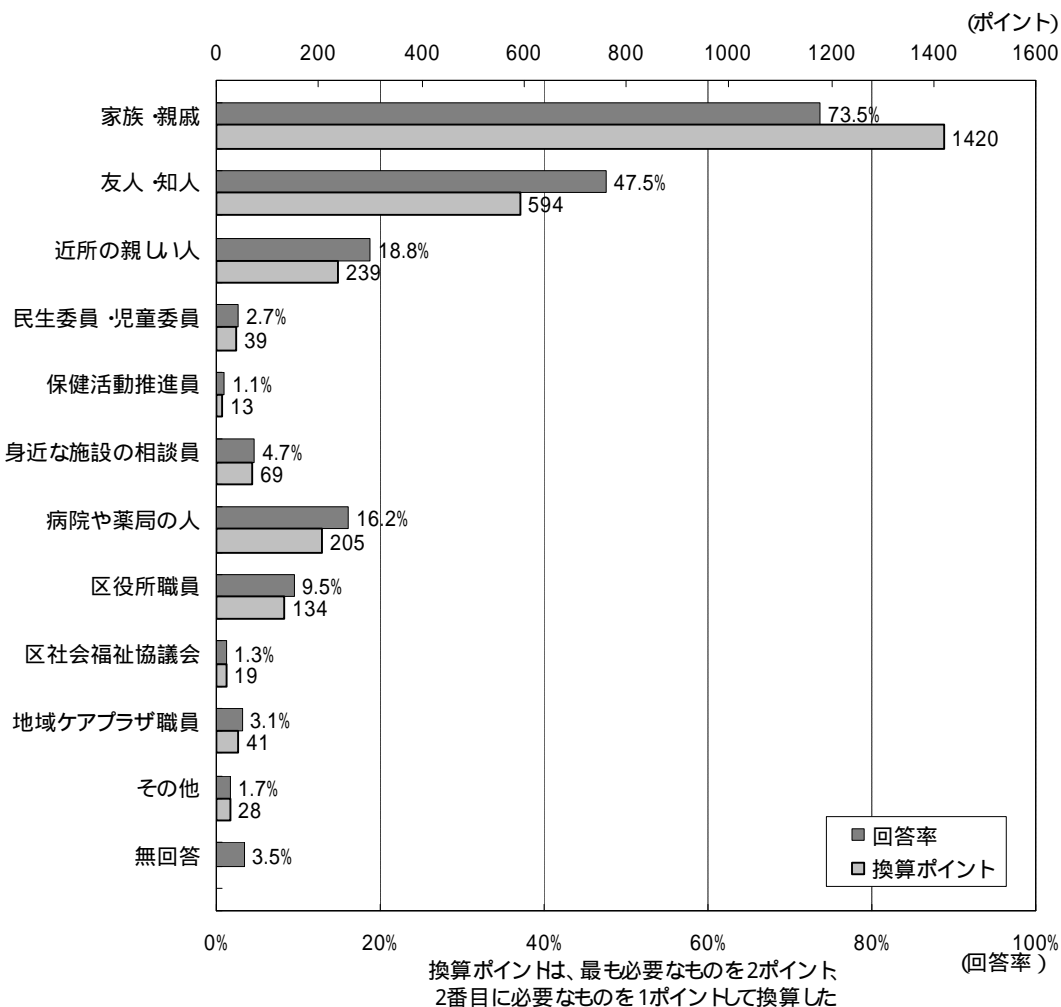
	健康づくりの情報	高齢者のための情報	ボランティア活動の情報	子育ての情報	講座や教室等の情報	保健・福祉イベントの情報	障がい者ための情報	各種相談窓口の情報	その他	計
20歳～29歳	26	9	19	26	28	15	5	37	2	167
30歳～39歳	35	15	13	89	61	48	8	53	2	324
40歳～49歳	68	27	19	32	64	41	12	70	1	334
50歳～59歳	57	42	30	4	43	27	10	66	1	280
60歳～64歳	33	28	15	2	38	9	8	37	4	174
65歳～69歳	41	51	14	1	24	16	7	29	0	183
70歳～79歳	64	102	9	0	26	11	9	38	2	261
80歳以上	19	43	4	0	4	2	2	13	1	88
全体	343	317	123	154	288	169	61	343	13	1811

問 21 地域の福祉保健に関する身近な相談相手(複数回答)

地域の福祉保健に関する身近な相談相手で多いのは、「家族・親戚」の73.5%、次いで「友人・知人」の47.5%であり、回答者数の5%未満と少なかったのは、「保健活動推進員」(1.1%)、「区社会福祉協議会」(1.3%)、「民生委員・児童委員」(2.7%)、「地域ケアプラザ職員」(3.1%)、「身近な施設の相談員」(4.7%)となっており、日頃からそばにいる人へ相談する機会が多いことがわかる。

最も身近な相談相手を2ポイント、2番目に身近な相談相手を1ポイントとして計算した換算ポイントにおいても同様の傾向を示している。

その他の内訳で多かったのは「いない」で、次いで「ケアマネジャー」となっている。



n=1013

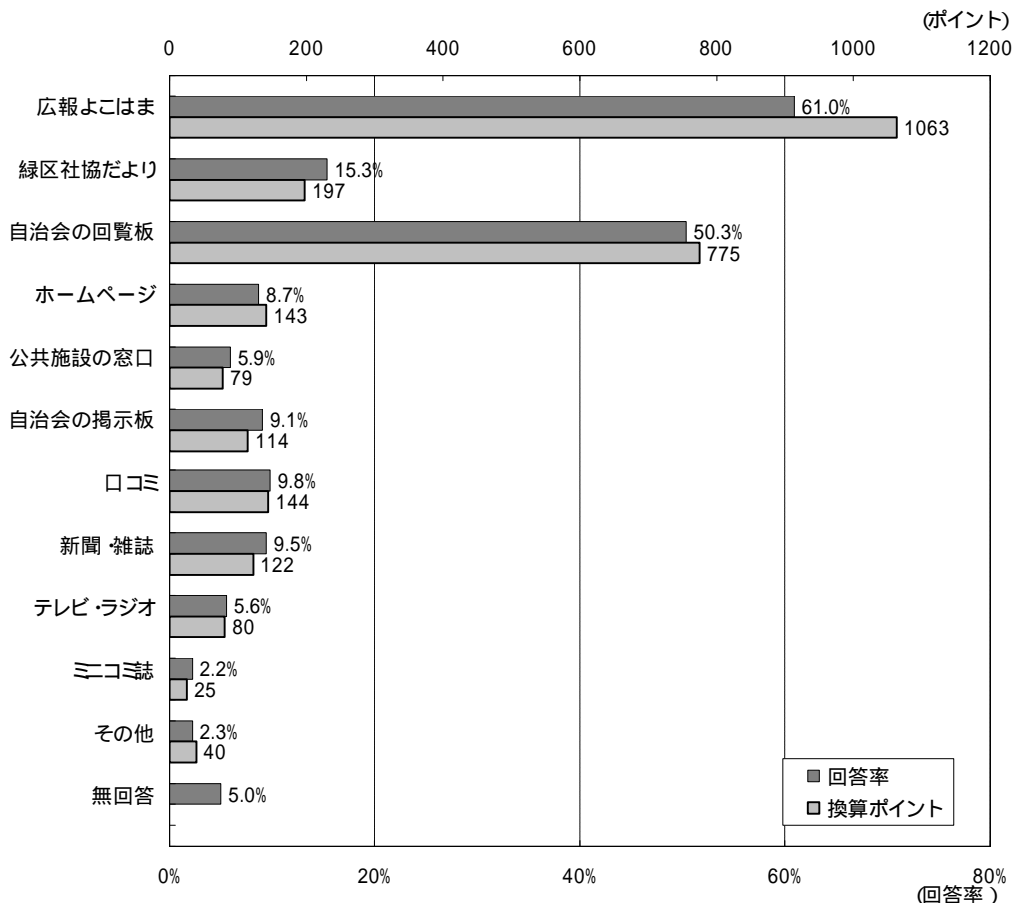
選択肢	回答数	ポイント	回答率
1. 家族・親戚	745	1420	73.5%
2. 友人・知人	481	594	47.5%
3. 近所の親しい人	190	239	18.8%
4. 民生委員・児童委員	27	39	2.7%
5. 保健活動推進員	11	13	1.1%
6. 身近な施設の相談員	48	69	4.7%
7. 病院や薬局の人	164	205	16.2%
8. 区役所職員	96	134	9.5%
9. 区社会福祉協議会職員	13	19	1.3%
10. 地域ケアプラザ職員	31	41	3.1%
11. その他	17	28	1.7%
無回答	35	-	3.5%
計	1858	2801	-

問 22 地域の福祉保健に関する情報の取得手段(複数回答)

回答者が地域の福祉保健に関する情報を取得する手段として最も多かったのは、「広報よこはま」で61.0%、次いで「自治会の回覧板」が50.3%になっている。

最も知りたいものを2ポイント、2番目に知りたいものを1ポイントとして計算した換算ポイントにおいても同様の傾向を示している。

その他の半数以上は、「情報を得たことがない」であった。



換算ポイントは、最も必要なものを2ポイント、2番目に必要なものを1ポイントして換算した

n=1013

選択肢	回答数	ポイント	回答率
1. 広報よこはま	618	1063	61.0%
2. 緑区社協だより	155	197	15.3%
3. 自治会の回覧板	510	775	50.3%
4. ホームページ	88	143	8.7%
5. 公共施設の窓口	60	79	5.9%
6. 自治会の掲示板	92	114	9.1%
7. 口コミ	99	144	9.8%
8. 新聞・雑誌	96	122	9.5%
9. テレビ・ラジオ	57	80	5.6%
10. ミニコミ誌	22	25	2.2%
11. その他	23	40	2.3%
無回答	51	-	5.0%
計	1871	2782	-

地域の福祉保健に関する情報を取得する手段について居住地区別にみると、多くの地区が第1位が「広報よこはま」、第2位「自治会の回覧板」となっているが、東本郷地区、竹山地区、霧が丘地区では「自治会の回覧板」の方が多くなっている。

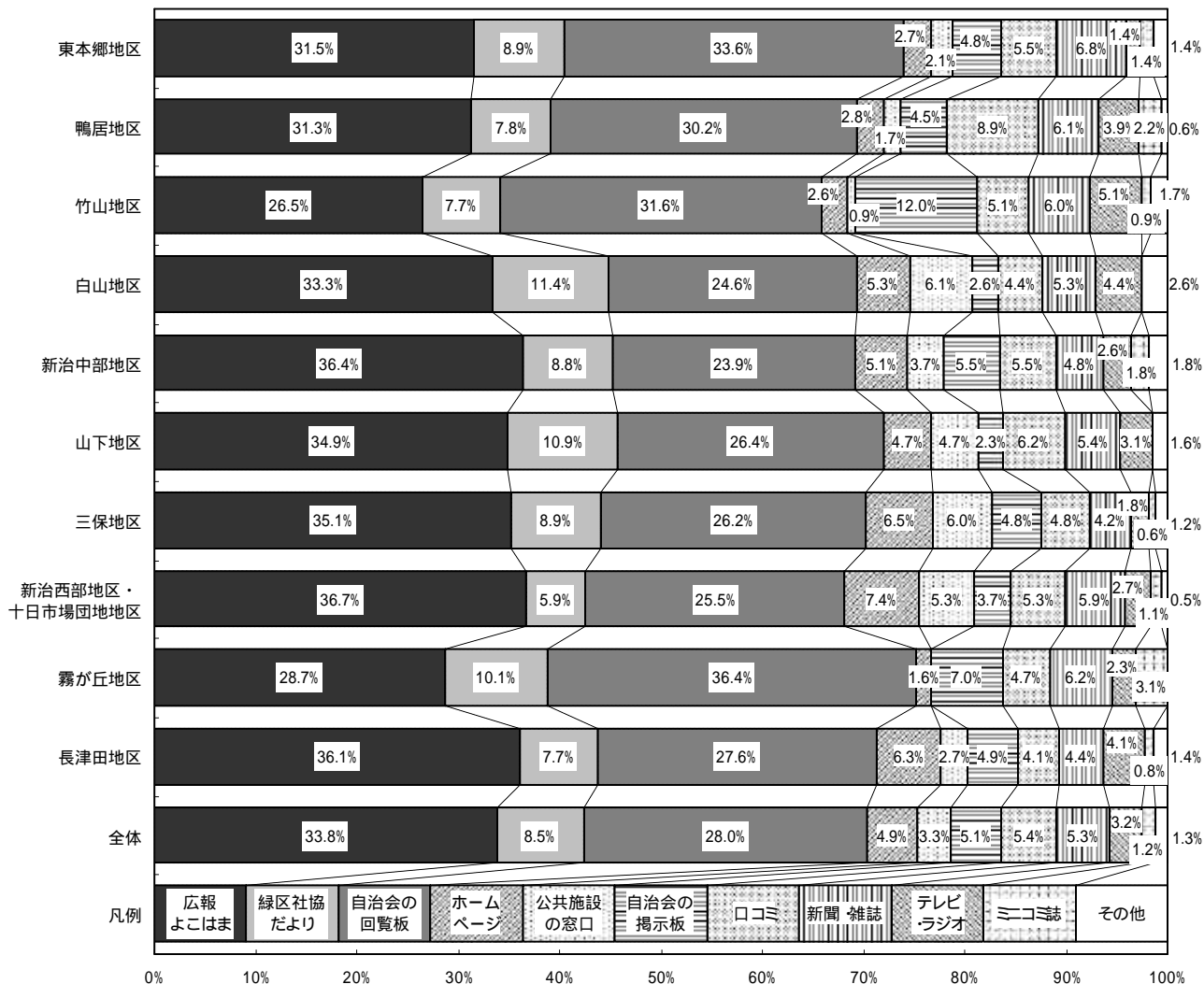
次いで多い「緑区社協だより」による情報取得の割合が10%を超えているのは、白山地区11.4%、

山下地区 10.9%、霧が丘地区 10.1%の3地区であった。

「ホームページ」による情報取得の割合が他の地区に比べ高いのは、新治西部地区・十日市場団地地区の7.4%、三保地区の6.5%、長津田地区の6.3%である。

また、竹山地区では、「自治会の掲示」が12.0%と、他の地区に比べ特に多くなっている。

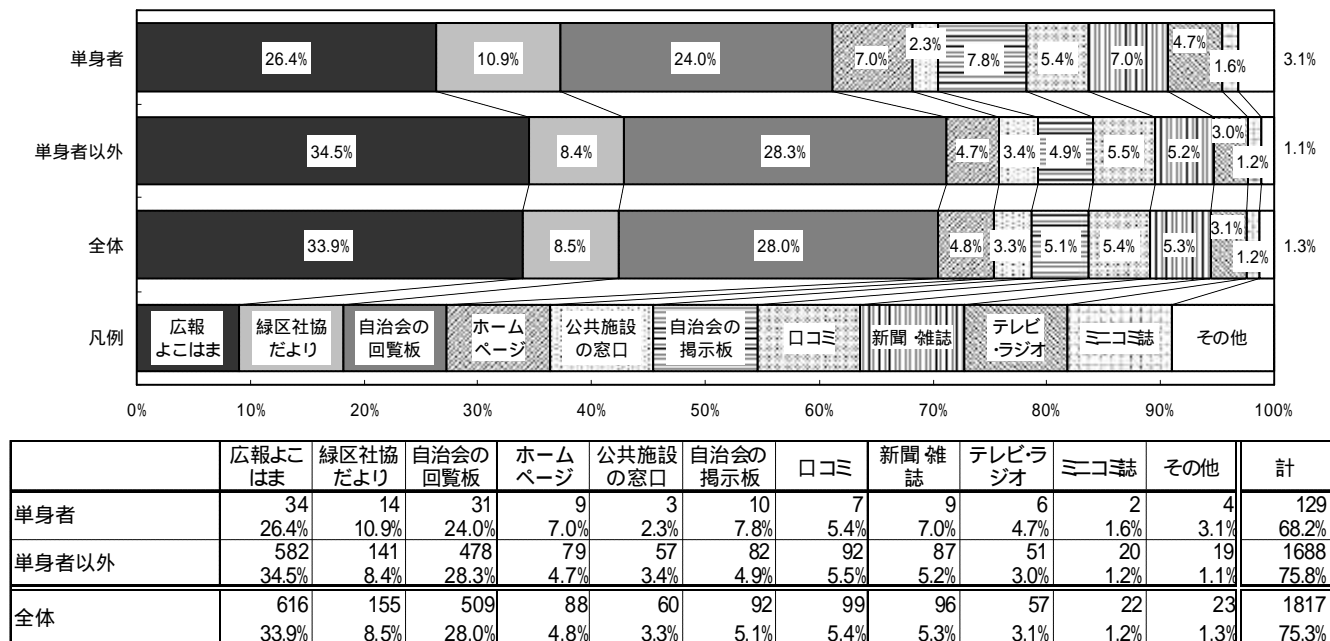
居住地区別、地域の福祉保健に関する情報の取得手段（問1×問22）



	広報よこはま	緑区社協だより	自治会の回覧板	ホームページ	公共施設の窓口	自治会の掲示板	口コミ	新聞雑誌	テレビラジオ	ミニコミ誌	その他
東本郷地区	46	13	49	4	3	7	8	10	2	2	2
	31.5%	8.9%	33.6%	2.7%	2.1%	4.8%	5.5%	6.8%	1.4%	1.4%	1.4%
鴨居地区	56	14	54	5	3	8	16	11	7	4	1
	31.3%	7.8%	30.2%	2.8%	1.7%	4.5%	8.9%	6.1%	3.9%	2.2%	0.6%
竹山地区	31	9	37	3	1	14	6	7	6	1	2
	26.5%	7.7%	31.6%	2.6%	0.9%	12.0%	5.1%	6.0%	5.1%	0.9%	1.7%
白山地区	38	13	28	6	7	3	5	6	5	0	3
	33.3%	11.4%	24.6%	5.3%	6.1%	2.6%	4.4%	5.3%	4.4%	0.0%	2.6%
新治中部地区	99	24	65	14	10	15	15	13	7	5	5
	36.4%	8.8%	23.9%	5.1%	3.7%	5.5%	5.5%	4.8%	2.6%	1.8%	1.8%
山下地区	45	14	34	6	6	3	8	7	4	0	2
	34.9%	10.9%	26.4%	4.7%	4.7%	2.3%	6.2%	5.4%	3.1%	0.0%	1.6%
三保地区	59	15	44	11	10	8	8	7	3	1	2
	35.1%	8.9%	26.2%	6.5%	6.0%	4.8%	4.8%	4.2%	1.8%	0.6%	1.2%
新治西部地区・十日市場団地地区	69	11	48	14	10	7	10	11	5	2	1
	36.7%	5.9%	25.5%	7.4%	5.3%	3.7%	5.3%	5.9%	2.7%	1.1%	0.5%
霧が丘地区	37	13	47	2	0	9	6	8	3	4	0
	28.7%	10.1%	36.4%	1.6%	0.0%	7.0%	4.7%	6.2%	2.3%	3.1%	0.0%
長津田地区	132	28	101	23	10	18	15	16	15	3	5
	36.1%	7.7%	27.6%	6.3%	2.7%	4.9%	4.1%	4.4%	4.1%	0.8%	1.4%
全体	612	154	507	88	60	92	97	96	57	22	23
	33.8%	8.5%	28.0%	4.9%	3.3%	5.1%	5.4%	5.3%	3.2%	1.2%	1.3%

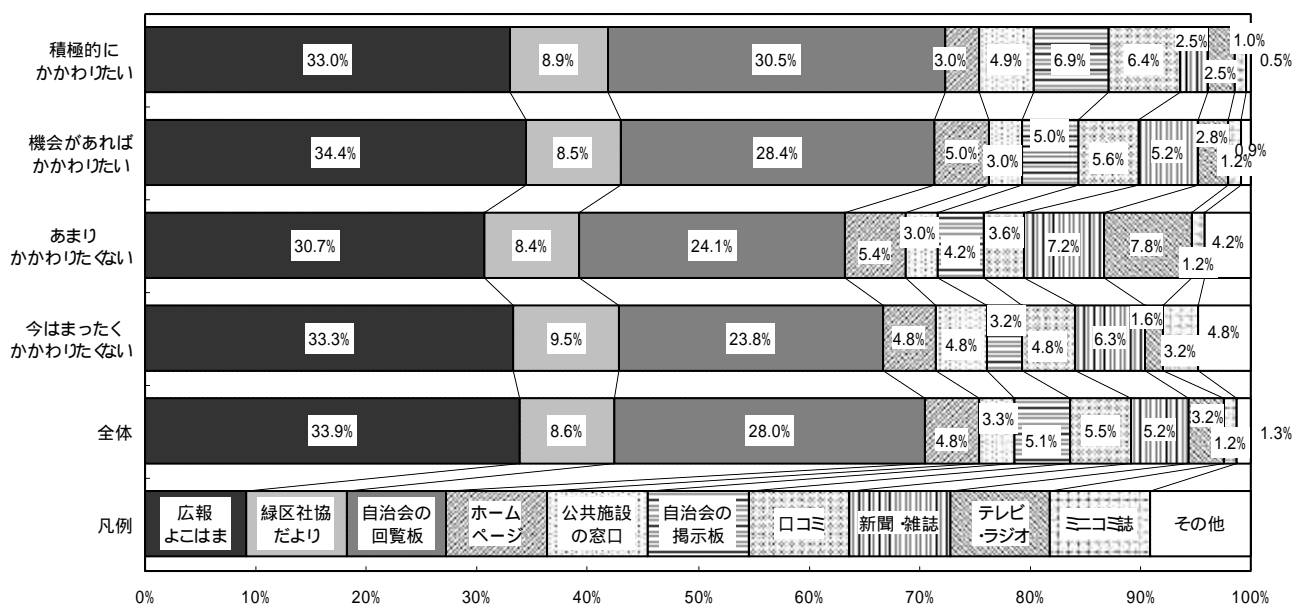
単身者が単身者以外の別でみると、単身者の場合、単身者以外に比べ「広報よこはま」及び「自治会の回覧板」の割合が低く、「ホームページ」、「自治会の掲示板」、「新聞・雑誌」等の割合が高くなっている。

同居者の関係別、地域の福祉保健に関する情報の取得手段（問6×問22）



地域の方とかかわりたい程度別では、「あまりかかわりたくない」方で「新聞・雑誌」及び「テレビ・ラジオ」の割合がやや高い以外には、情報の取得手段に大きな特徴はみられなかった。

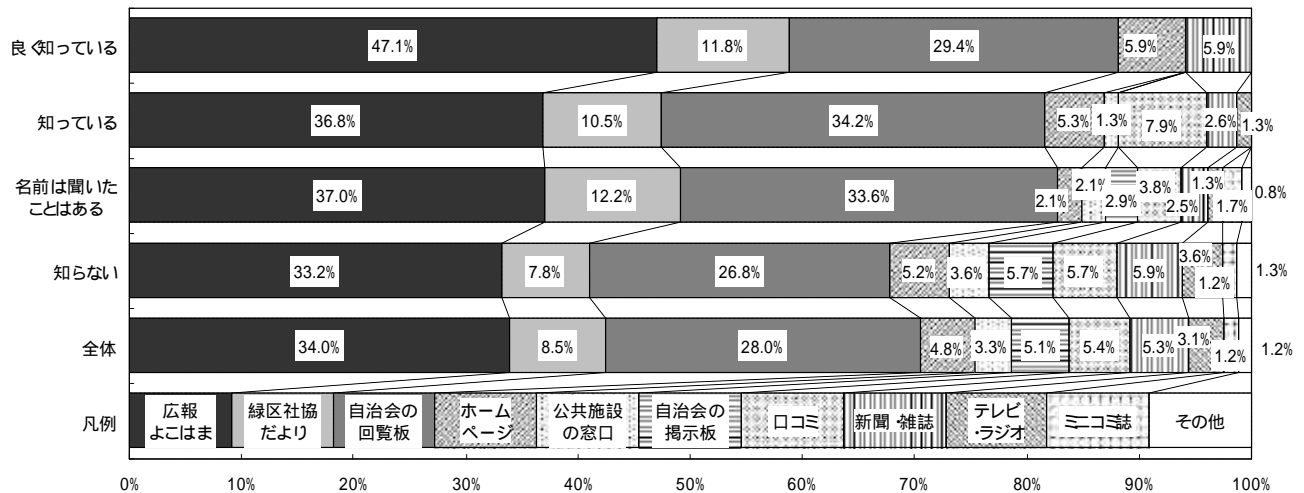
地域の方とかかわりたい程度別、地域の福祉保健に関する情報の取得手段（問12×問22）



	広報よこ はま	緑区社協 だより	自治会の 回覧板	ホーム ページ	公共施設 の窓口	自治会の 掲示板	口コミ	新聞 雑 誌	テレビ・ラ ジオ	ミニコミ誌	その他	計
積極的に かかわりたい	67	18	62	6	10	14	13	5	5	2	1	203
機会があれば かかわりたい	33.0%	8.9%	30.5%	3.0%	4.9%	6.9%	6.4%	2.5%	2.5%	1.0%	0.5%	100.0%
あまり かかわりたくない	472	117	389	69	41	69	77	72	38	16	12	1372
今はまったく かかわりたくない	34.4%	8.5%	28.4%	5.0%	3.0%	5.0%	5.6%	5.2%	2.8%	1.2%	0.9%	100.0%
全体	51	14	40	9	5	7	6	12	13	2	7	166
	30.7%	8.4%	24.1%	5.4%	3.0%	4.2%	3.6%	7.2%	7.8%	1.2%	4.2%	100.0%
	21	6	15	3	3	2	3	4	1	2	3	63
	33.3%	9.5%	23.8%	4.8%	4.8%	3.2%	4.8%	6.3%	1.6%	3.2%	4.8%	100.0%
全体	611	155	506	87	59	92	99	93	57	22	23	1804
	33.9%	8.6%	28.0%	4.8%	3.3%	5.1%	5.5%	5.2%	3.2%	1.2%	1.3%	100.0%

『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度別でみると、「良く知っている」方の情報取得手段として「広報よこはま」は 47.1%と高く、「名前は聞いたことがある」や「知らない」場合には、情報取得手段が多岐にわたっていることがわかる。

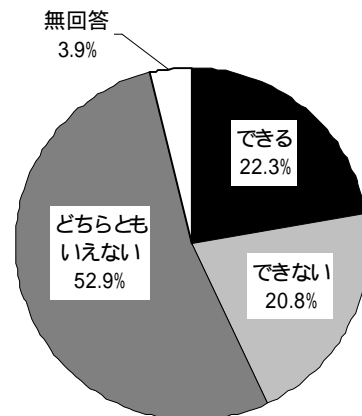
『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度別、
地域の福祉保健に関する情報の取得手段（問 19×問 22）



	広報よこ はま	緑区社協 だより	自治会の 回覧板	ホーム ページ	公共施設 の窓口	自治会の 掲示板	口コミ	新聞 雑 誌	テレビ・ラ ジオ	ミニコミ誌	その他	計
良く知っている	8	2	5	1	0	0	0	1	0	0	0	17
	47.1%	11.8%	29.4%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
知っている	28	8	26	4	1	0	6	2	1	0	0	76
	36.8%	10.5%	34.2%	5.3%	1.3%	0.0%	7.9%	2.6%	1.3%	0.0%	0.0%	100.0%
名前は聞いた ことはある	88	29	80	5	5	7	9	6	3	4	2	238
	37.0%	12.2%	33.6%	2.1%	2.1%	2.9%	3.8%	2.5%	1.3%	1.7%	0.8%	100.0%
知らない	493	116	398	78	54	85	84	87	53	18	20	1486
	33.2%	7.8%	26.8%	5.2%	3.6%	5.7%	5.7%	5.9%	3.6%	1.2%	1.3%	100.0%
全体	617	155	509	88	60	92	99	96	57	22	22	1817
	34.0%	8.5%	28.0%	4.8%	3.3%	5.1%	5.4%	5.3%	3.1%	1.2%	1.2%	100.0%

問 23 地域の福祉保健情報の入手における容易さ

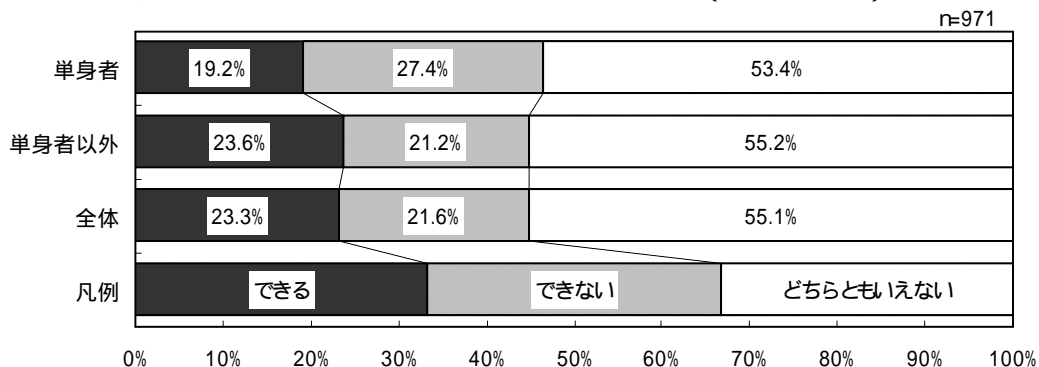
回答者が地域の福祉保健情報を入手する場合、容易に入手できるかどうかについては、「どちらともいえない」が52.9%と最も多く、「できる」は22.3%、「できない」は20.8%とほぼ同数であった。



選択肢	回答数	回答率
1. できる	226	22.3%
2. できない	211	20.8%
3. どちらともいえない	536	52.9%
無回答	40	3.9%
計	1013	100.0%

単身者が単身者以外の別でみると、単身者の方が地域の福祉保健情報の入手は容易に「できない」とする回答が多い。

同居者の関係別、地域の福祉保健情報の入手における容易さ (問6×問23)

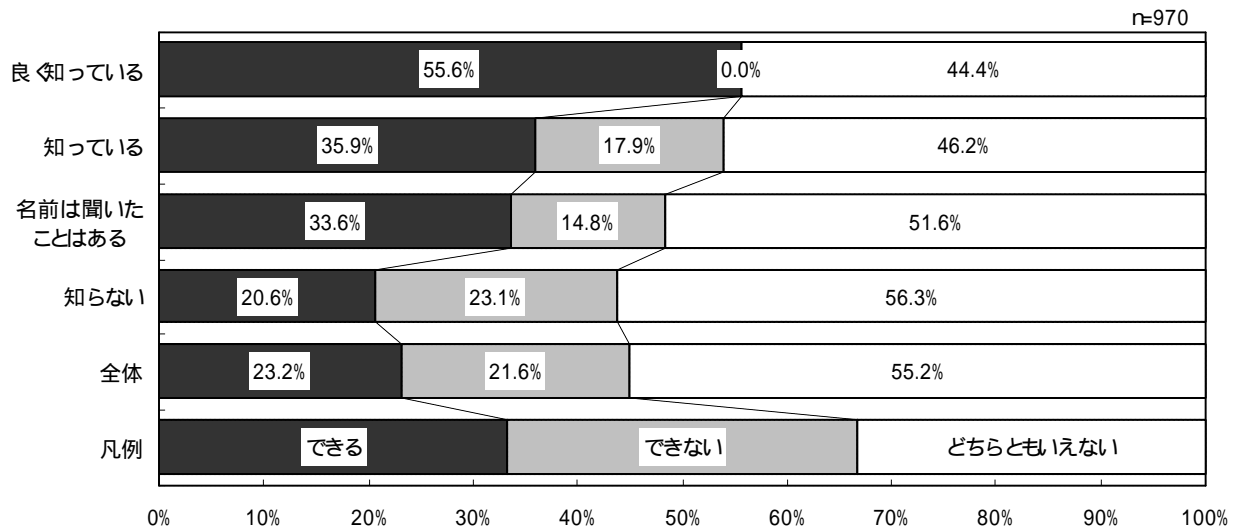


関係別	できる	できない	どちらともいえない	計
単身者	14	20	39	73
単身者以外	212	190	496	898
全体	226	210	535	971

『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度別で見ると、「良く知っている」方の55.6%が地域の福祉保健情報の入手は容易に「できる」と回答しており、「できない」との回答はまったくなかった。

『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度が「知っている」、「名前は聞いたことがある」、「知らない」と下がっていくに従い、地域の福祉保健情報の入手は容易に「できる」割合は徐々に減っている。

『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度別、
地域の福祉保健情報の入手における容易さ（問19×問23）

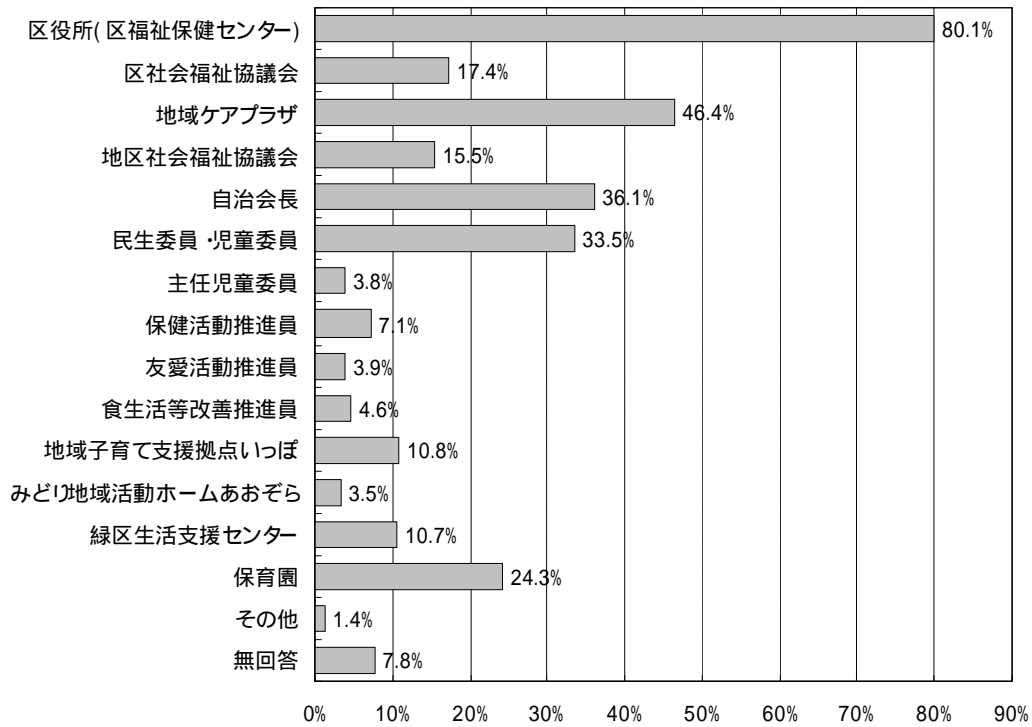


	できる	できない	どちらともいえない	計
良く知っている	5 55.6%	0 0.0%	4 44.4%	9 100.0%
知っている	14 35.9%	7 17.9%	18 46.2%	39 100.0%
名前は聞いたことがある	41 33.6%	18 14.8%	63 51.6%	122 100.0%
知らない	165 20.6%	185 23.1%	450 56.3%	800 100.0%
全体	225 23.2%	210 21.6%	535 55.2%	970 100.0%

問 24 知っている地域の福祉保健に関する施設・団体・委員（複数回答）

知っている地域の福祉保健に関する施設・団体・委員は、「区役所(福祉保健センター)」が 80.1%と最も多く、次いで「地域ケアプラザ」が 46.4%、「自治会長」が 36.1%、「民生委員・児童委員」が 33.5%と続く。

その他の内訳をみると、選択肢に示した福祉保健に関する施設・団体・委員を「まったく知らない」との回答が多く、これは全体の 0.8%にあたる。



n=1013

選択肢	回答数	回答率
1. 区役所(区福祉保健センター)	811	80.1%
2. 区社会福祉協議会	176	17.4%
3. 地域ケアプラザ	470	46.4%
4. 地区社会福祉協議会	157	15.5%
5. 自治会長	366	36.1%
6. 民生委員・児童委員	339	33.5%
7. 主任児童委員	39	3.8%
8. 保健活動推進員	72	7.1%
9. 友愛活動推進員	40	3.9%
10. 食生活等改善推進員	47	4.6%
11. 地域子育て支援拠点いっぽ	109	10.8%
12. みどり地域活動ホームあおぞら	35	3.5%
13. 緑区生活支援センター	108	10.7%
14. 保育園	246	24.3%
15. その他	14	1.4%
無回答	79	7.8%
計	3108	-

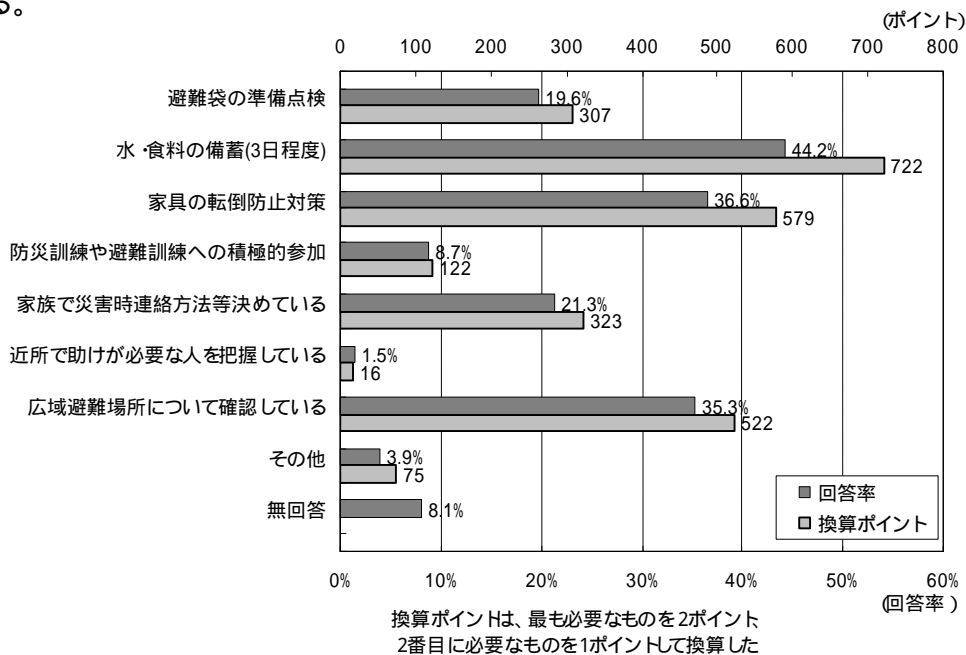
問 25 日頃、防災に関して配慮していること(複数回答・回答数)

回答者が日頃、防災に関して配慮していることは、「水・食料の備蓄(3日程度)」が最も多く44.2%、次いで「家具の転倒防止対策」が36.6%、「広域避難場所について確認している」が35.3%と個人的にできることが多い傾向にある。

しかしながら、周囲との連携が必要なことからである「近所で助けが必要な人を把握している」は1.5%、「防災訓練や避難訓練への積極的参加」は8.7%と非常に少ない。

最も配慮しているものを2ポイント、2番目に配慮しているものを1ポイントとして計算した換算ポイントにおいても同様の傾向を示している。

その他の内訳をみると、「配慮していない」との回答が大半をしめており、これは全体の3.3%にあたる。



n=1013

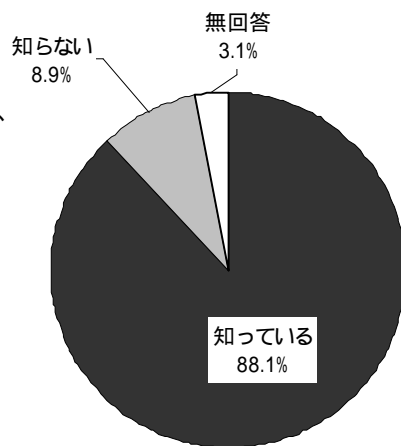
選択肢	回答数	ポイント	回答率
1. 避難袋の準備点検	199	307	19.6%
2. 水・食料の備蓄(3日程度)	448	722	44.2%
3. 家具の転倒防止対策	371	579	36.6%
4. 防災訓練や避難訓練への積極的参加	88	122	8.7%
5. 家族で災害時連絡方法等決めている	216	323	21.3%
6. 近所で助けが必要な人を把握している	15	16	1.5%
7. 広域避難場所について確認している	358	522	35.3%
8. その他	40	75	3.9%
無回答	82	-	8.1%
計	1817	2666	-

問 26 市立小学校、中学校が防災拠点になっていることの認知度

市立小学校、中学校が防災拠点になっていることの認知度は、「知っている」が88.1%で、高い認知度を示している。

n=1013

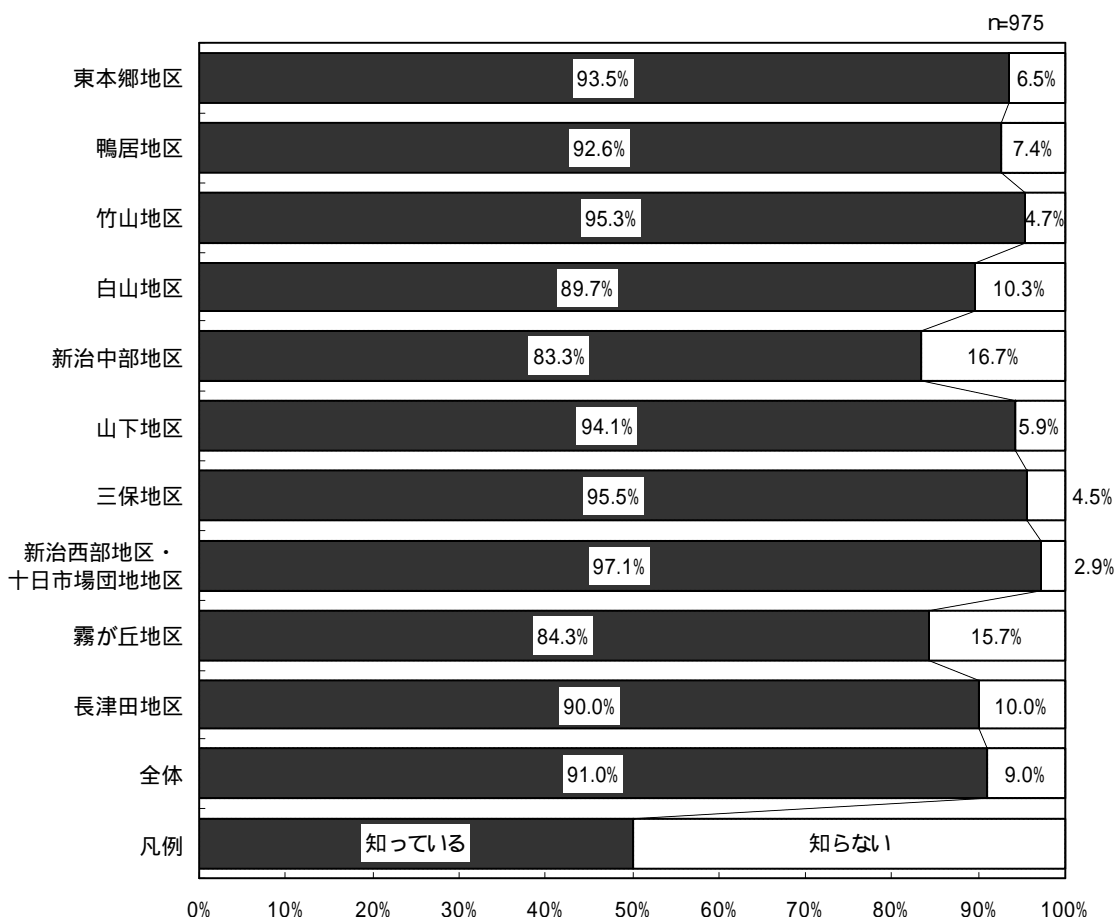
選択肢	回答数	回答率
1. 知っている	892	88.1%
2. 知らない	90	8.9%
無回答	31	3.1%
計	1013	100.0%



居住地区別にみると、いずれの地区も認知度は高く、最も高かったのは新治西部地区・十日市場団地地区で97.1%、次いで三保地区95.5%、竹山地区95.3%と続く。

最も低かったのは新治中部地区83.3%で、以下90%に満たないのは、霧が丘地区84.3%、白山地区89.7%の3地区であった。

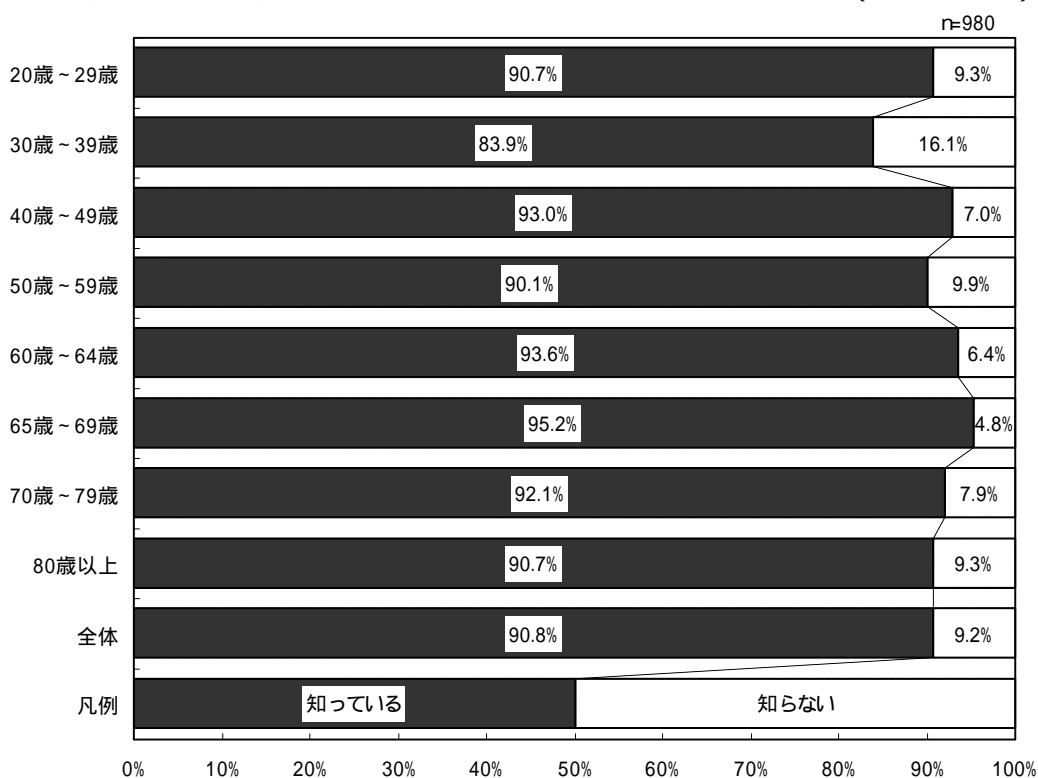
居住地区別、市立小学校、中学校が防災拠点になっていることの認知度（問1×問26）



	知っている	知らない	計
東本郷地区	72 93.5%	5 6.5%	77 100.0%
鴨居地区	88 92.6%	7 7.4%	95 100.0%
竹山地区	61 95.3%	3 4.7%	64 100.0%
白山地区	52 89.7%	6 10.3%	58 100.0%
新治中部地区	125 83.3%	25 16.7%	150 100.0%
山下地区	64 94.1%	4 5.9%	68 100.0%
三保地区	85 95.5%	4 4.5%	89 100.0%
新治西部地区・十日市場団地地区	101 97.1%	3 2.9%	104 100.0%
霧が丘地区	59 84.3%	11 15.7%	70 100.0%
長津田地区	180 90.0%	20 10.0%	200 100.0%
全体	887 91.0%	88 9.0%	975 100.0%

年齢構成別にみると、30歳代の83.9%を除き、いずれの年齢層も90以上の認知度であり、最も高かったのは65歳～69歳の95.2%であった。

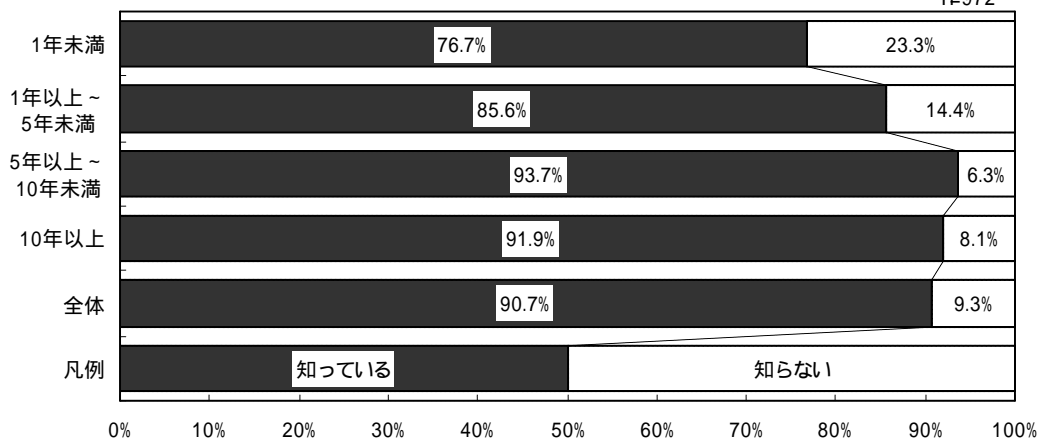
年齢構成別、市立小学校、中学校が防災拠点になっていることの認知度（問3×問26）



	知っている	知らない	計
20歳～29歳	78 90.7%	8 9.3%	86 100.0%
30歳～39歳	141 83.9%	27 16.1%	168 100.0%
40歳～49歳	159 93.0%	12 7.0%	171 100.0%
50歳～59歳	137 90.1%	15 9.9%	152 100.0%
60歳～64歳	88 93.6%	6 6.4%	94 100.0%
65歳～69歳	99 95.2%	5 4.8%	104 100.0%
70歳～79歳	139 92.1%	12 7.9%	151 100.0%
80歳以上	49 90.7%	5 9.3%	54 100.0%
全体	890 90.8%	90 9.2%	980 100.0%

居住年数別では、5年以上の居住年数の場合90%以上の認知度を示しており、5年以上～10年未満が93.7%と最も高かったが、1年未満では76.7%と全体平均を大きく下回っている。

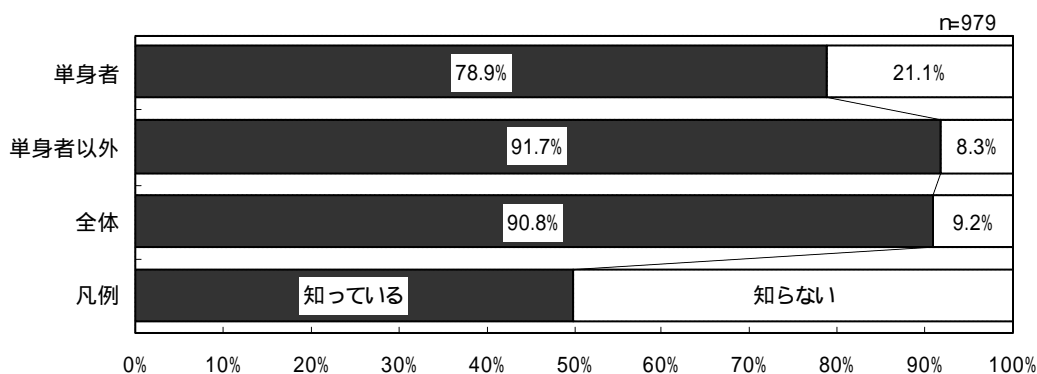
居住年数別、市立小学校、中学校が防災拠点になっていることの認知度（問4×問26）
n=972



	知っている	知らない	計
1年未満	23 76.7%	7 23.3%	30 100.0%
1年以上～5年未満	119 85.6%	20 14.4%	139 100.0%
5年以上～10年未満	118 93.7%	8 6.3%	126 100.0%
10年以上	622 91.9%	55 8.1%	677 100.0%
全体	882 90.7%	90 9.3%	972 100.0%

単身者と単身者以外の別では、単身者以外の場合91.7%であるが、単身者の場合78.9%と認知度低かった。

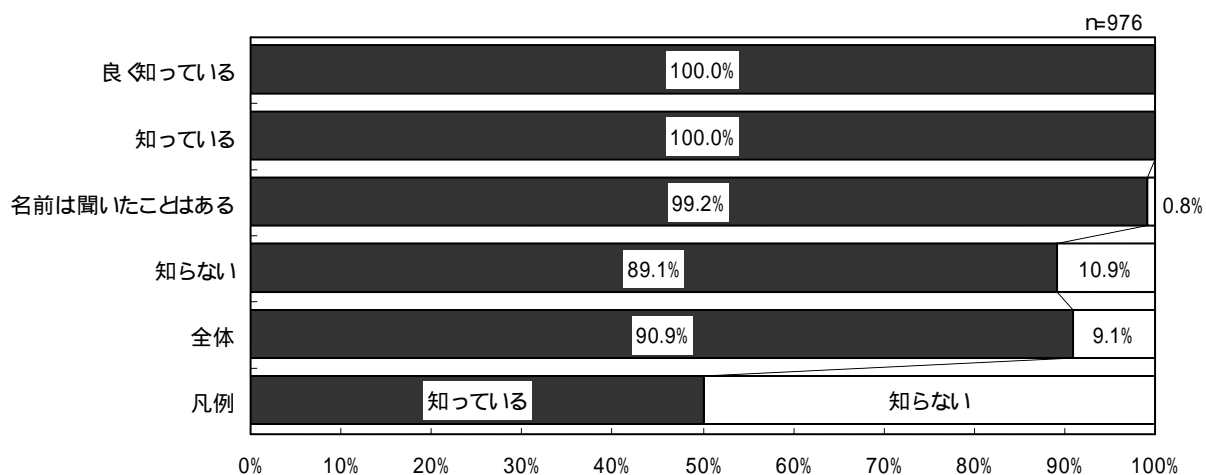
同居者の関係別、市立小学校、中学校が防災拠点になっていることの認知度（問6×問26）
n=979



	知っている	知らない	計
単身者	56 78.9%	15 21.1%	71 100.0%
単身者以外	833 91.7%	75 8.3%	908 100.0%
全体	889 90.8%	90 9.2%	979 100.0%

『みどりのわ・ささえ愛プラン』について「良く知っている」及び「知っている」方は、全員が市立小学校、中学校が防災拠点になっていることを「知っている」と回答しており、『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度が高いほど、市立小学校、中学校が防災拠点になっていることの認知度が高いことがわかる。

『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度別、
市立小学校、中学校が防災拠点になっていることの認知度（問 19×問 26）



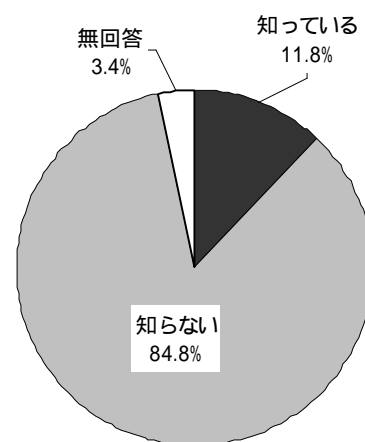
	知っている	知らない	計
良く知っている	8	0	8
	100.0%	0.0%	100.0%
知っている	41	0	41
	100.0%	0.0%	100.0%
名前は聞いたことはある	118	1	119
	99.2%	0.8%	100.0%
知らない	720	88	808
	89.1%	10.9%	100.0%
全体	887	89	976
	90.9%	9.1%	100.0%

問 27 「防災ささえあいカード」の認知度

緑区の災害時要援護者把握のための「防災ささえあいカード」の認知度は、「知っている」が 11.8%となっており、認知度は高くない。

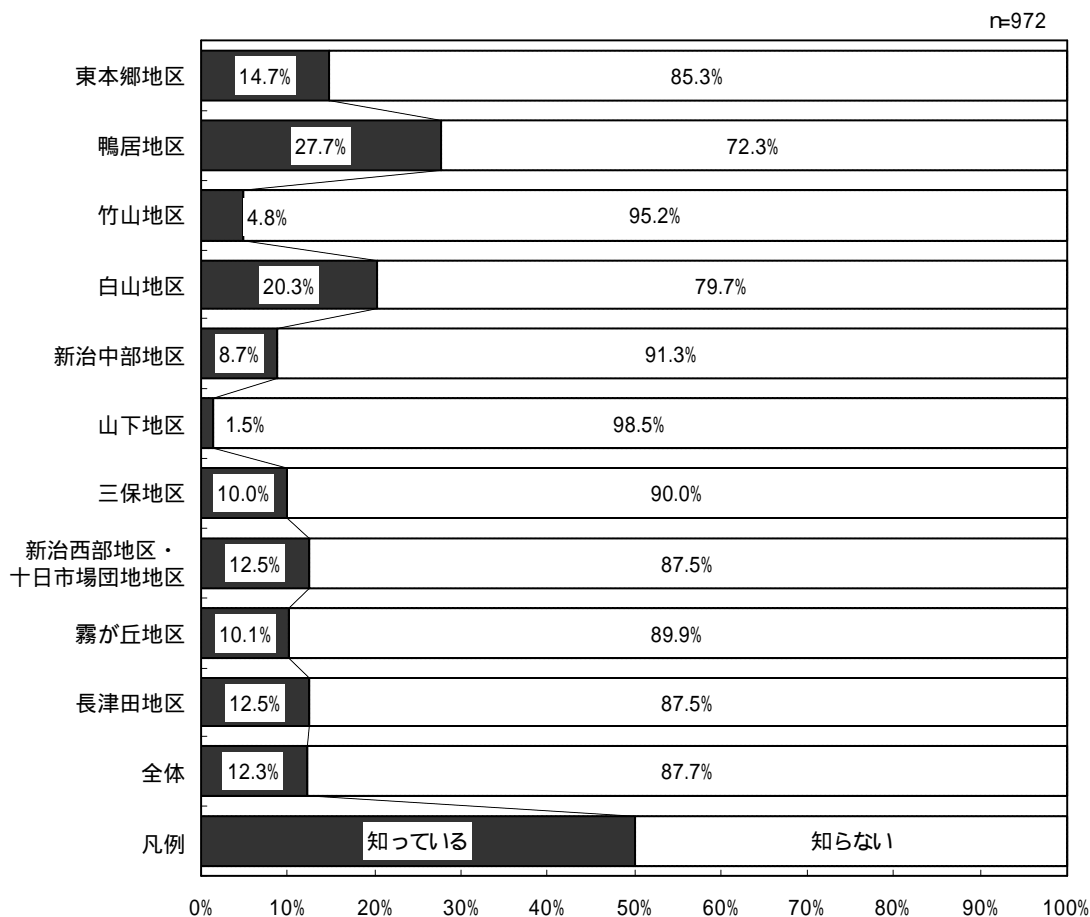
n=1013

選択肢	回答数	回答率
1. 知っている	120	11.8%
2. 知らない	859	84.8%
無回答	34	3.4%
計	1013	100.0%



「防災ささえあいカード」の認知度を居住地区別にみると、地区によるばらつきが多く、最も高かった鴨居地区の27.7%と白山地区の20.3%が他の地区に比べ高い認知度であったのに対し、山下地区1.5%、竹山地区4.8%、新治中部地区8.7%の3地区における認知度は10%に満たなかった。

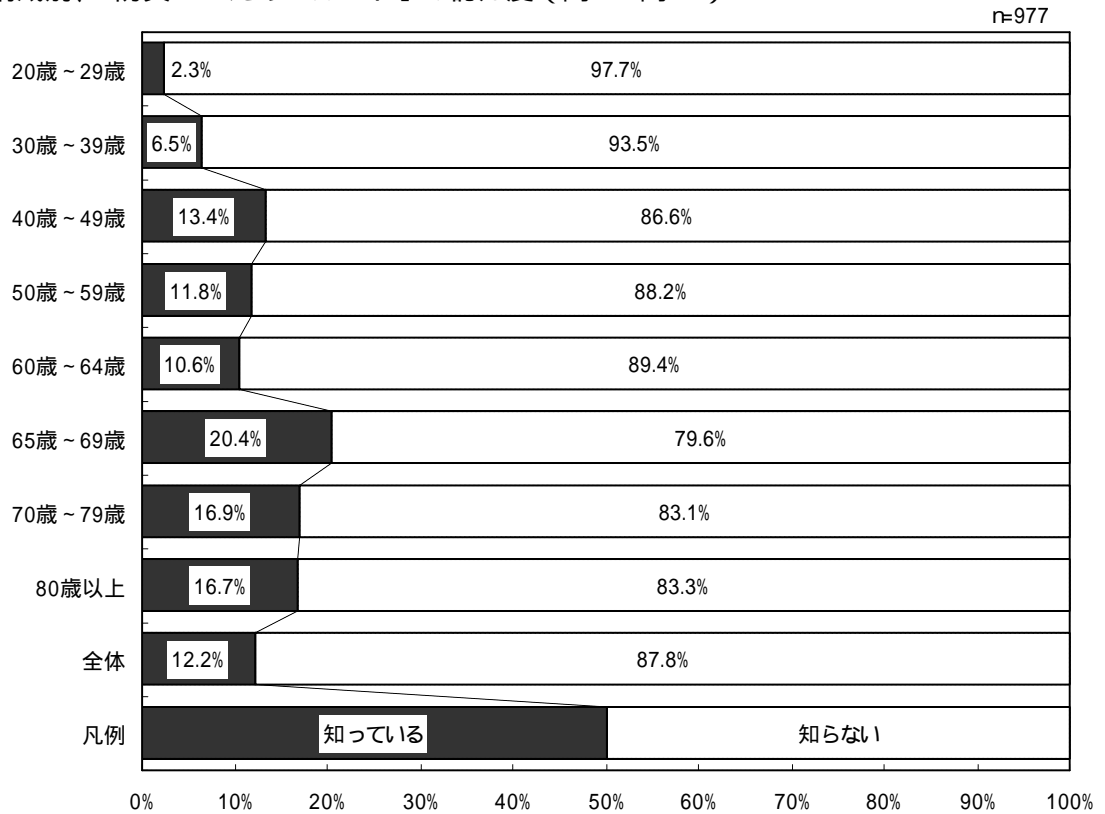
居住地区別、「防災ささえあいカード」の認知度（問1×問27）



	知っている	知らない	計
東本郷地区	11 14.7%	64 85.3%	75 100.0%
鴨居地区	26 27.7%	68 72.3%	94 100.0%
竹山地区	3 4.8%	60 95.2%	63 100.0%
白山地区	12 20.3%	47 79.7%	59 100.0%
新治中部地区	13 8.7%	137 91.3%	150 100.0%
山下地区	1 1.5%	67 98.5%	68 100.0%
三保地区	9 10.0%	81 90.0%	90 100.0%
新治西部地区・十日市場団地地区	13 12.5%	91 87.5%	104 100.0%
霧が丘地区	7 10.1%	62 89.9%	69 100.0%
長津田地区	25 12.5%	175 87.5%	200 100.0%
全体	120 12.3%	852 87.7%	972 100.0%

年齢構成別で「防災ささえあいカード」の認知度が最も高かったのは、65歳～69歳の20.4%で、次いで70歳代の16.9%、80歳以上の16.7%と高齢者の方が認知度が高かったが、40歳未満の認知度は10%未満となっており、特に20歳代では2.3%と非常に低かった。

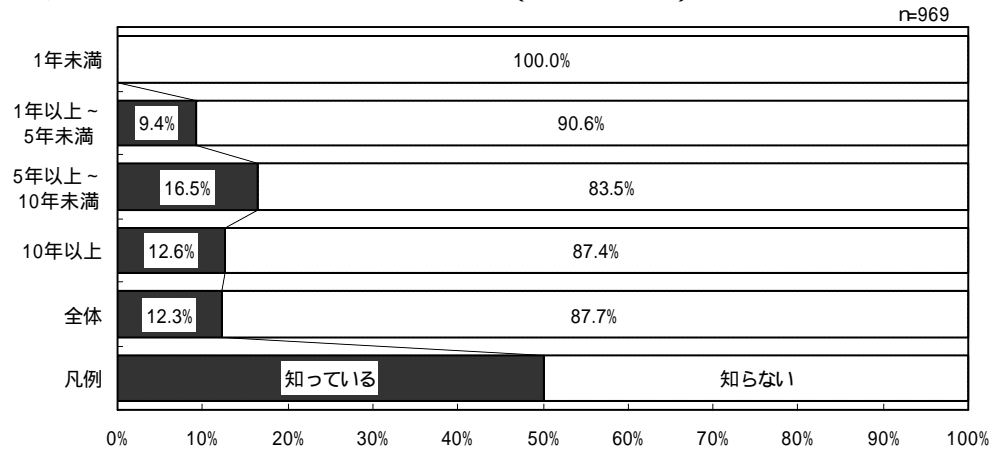
年齢構成別、「防災ささえあいカード」の認知度（問3×問27）



	知っている	知らない	計
20歳～29歳	2 2.3%	84 97.7%	86 100.0%
30歳～39歳	11 6.5%	157 93.5%	168 100.0%
40歳～49歳	23 13.4%	149 86.6%	172 100.0%
50歳～59歳	18 11.8%	134 88.2%	152 100.0%
60歳～64歳	10 10.6%	84 89.4%	94 100.0%
65歳～69歳	21 20.4%	82 79.6%	103 100.0%
70歳～79歳	25 16.9%	123 83.1%	148 100.0%
80歳以上	9 16.7%	45 83.3%	54 100.0%
全体	119 12.2%	858 87.8%	977 100.0%

居住年数別で「防災ささえあいカード」の認知度が最も高かったのは、5年以上～10年未満の16.5%であったが、5年未満の認知度は10%未満となっており、特に1年未満で知っている方はまったくいなかった。

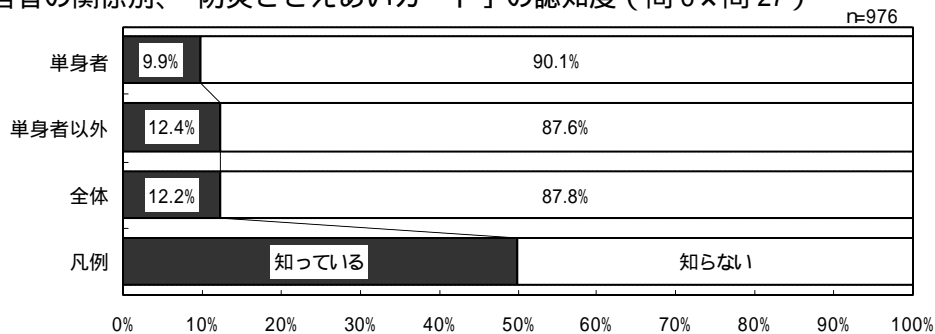
居住年数別、「防災ささえあいカード」の認知度（問4×問27）



	知っている	知らない	計
1年未満	0 0.0%	30 100.0%	30 100.0%
1年以上～5年未満	13 9.4%	126 90.6%	139 100.0%
5年以上～10年未満	21 16.5%	106 83.5%	127 100.0%
10年以上	85 12.6%	588 87.4%	673 100.0%
全体	119 12.3%	850 87.7%	969 100.0%

単身者と単身者以外の別では、単身者以外の場合12.4%であるが、単身者の場合9.9%と認知度低かった。

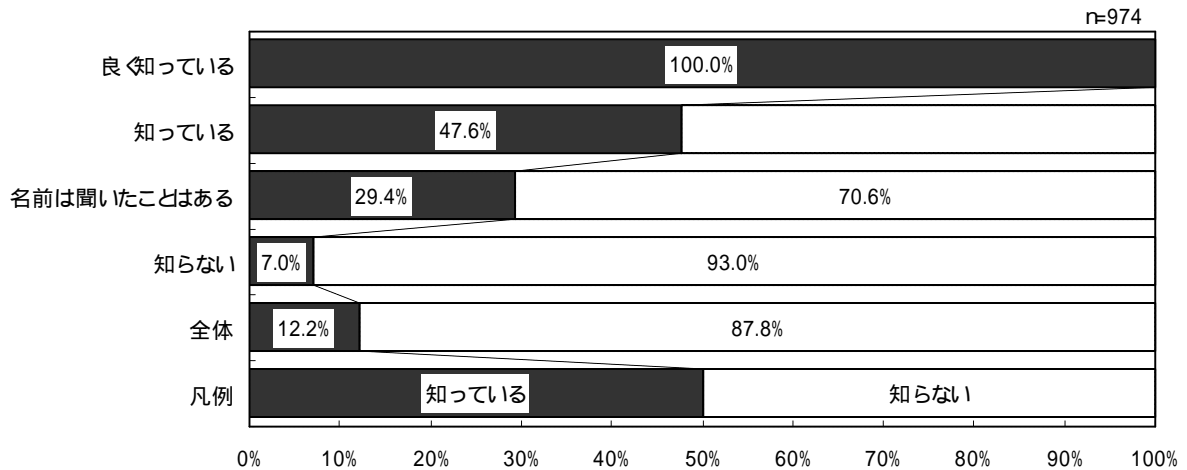
同居者の関係別、「防災ささえあいカード」の認知度（問6×問27）



	知っている	知らない	計
単身者	7 9.9%	64 90.1%	71 100.0%
単身者以外	112 12.4%	793 87.6%	905 100.0%
全体	119 12.2%	857 87.8%	976 100.0%

『みどりのわ・ささえ愛プラン』について「良く知っている」方は、全員が「防災ささえあいカード」について「知っている」と回答しており、「知っている」で47.6%、「名前は聞いたことがある」で29.4%、「知らない」では7.0%と「防災ささえあいカード」の認知度は徐々に減少しており、『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度が高いほど、「防災ささえあいカード」の認知度が高いことがわかる。

『みどりのわ・ささえ愛プラン』の認知度別、「防災ささえあいカード」の認知度（問19×問27）



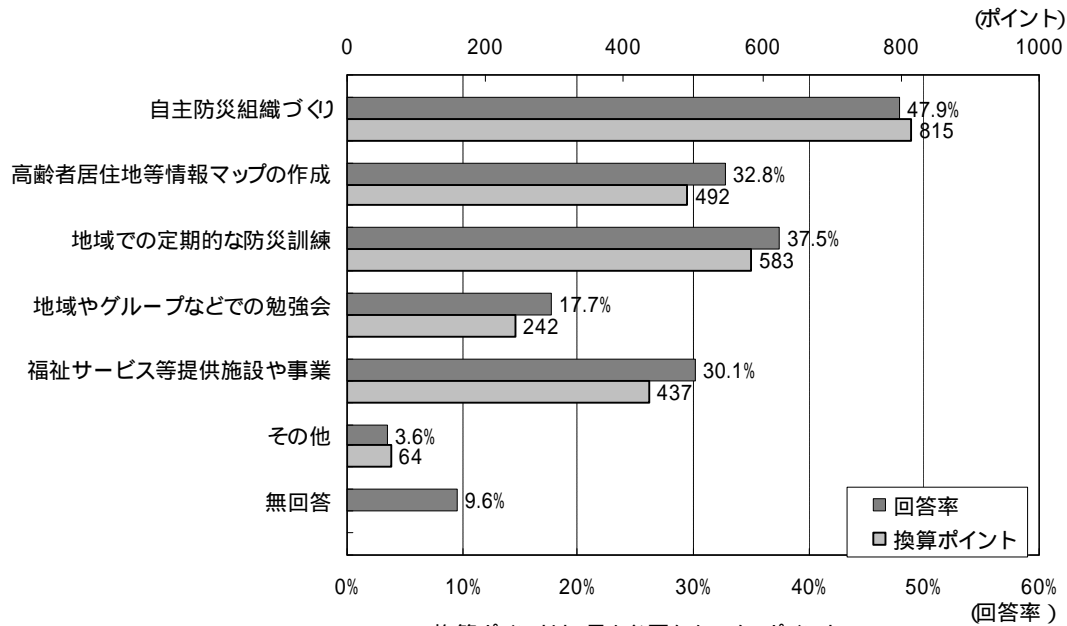
	知っている	知らない	計
良く知っている	8 100.0%	0 0.0%	8 100.0%
知っている	20 47.6%	22 52.4%	42 100.0%
名前は聞いたことはある	35 29.4%	84 70.6%	119 100.0%
知らない	56 7.0%	749 93.0%	805 100.0%
全体	119 12.2%	855 87.8%	974 100.0%

問 28 「防災時に住民が支えあう地域づくり」に必要なこと(複数回答)

「防災時に住民が支えあう地域づくり」に必要なと思うことは、「自主防災組織づくり」が最も多く 47.9%、次いで「地域での定期的な防災訓練」が 37.5%、「高齢者居住地等情報マップの作成」が 32.8%、「福祉サービス等提供施設や事業者との連携」が 30.1%と続く。

最も知りたいものを 2 ポイント、2 番目に知りたいものを 1 ポイントとして計算した換算ポイントにおいても同様の傾向を示している。

その他の内訳をみると半数以上が、声かけ、付き合いなど「日頃からのコミュニケーション」が必要であると回答している。



換算ポイントは、最も必要なものを2ポイント、2番目に必要なものを1ポイントして換算した

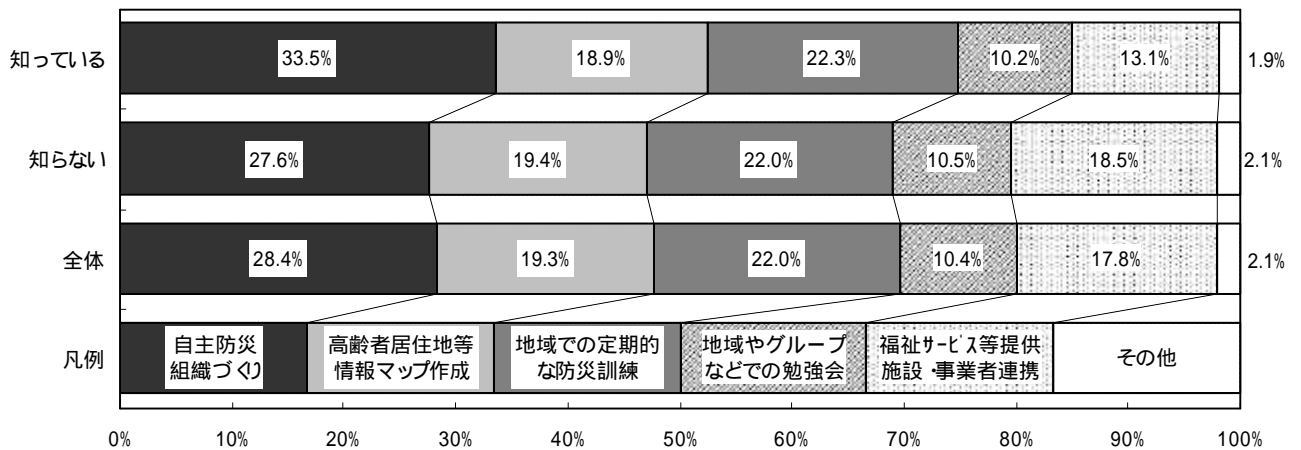
n=1013

選択肢	回答数	ポイント	回答率
1. 自主防災組織づくり	485	815	47.9%
2. 高齢者居住地等情報マップの作成	332	492	32.8%
3. 地域での定期的な防災訓練	380	583	37.5%
4. 地域やグループなどでの勉強会	179	242	17.7%
5. 福祉サービス等提供施設や事業者との連携	305	437	30.1%
6. その他	36	64	3.6%
無回答	97	-	9.6%
計	1814	2633	-

「防災ささえあいカード」を「知っている」、「知らない」にかかわらず、「防災時に住民が支えあう地域づくり」に必要なことで回答の多かったのは、「自主防災組織づくり」、「地域での定期的な防災訓練」、「高齢者居住地等情報マップの作成」、「福祉サービス等提供施設や事業者との連携」、「地域やグループなどでの勉強会」の順であった。

その回答率をみてみると、「防災ささえあいカード」を「知っている」場合は、「知らない」場合よりも「自主防災組織づくり」の割合が高く、「福祉サービス等提供施設や事業者との連携」の割合が低いことがわかる。

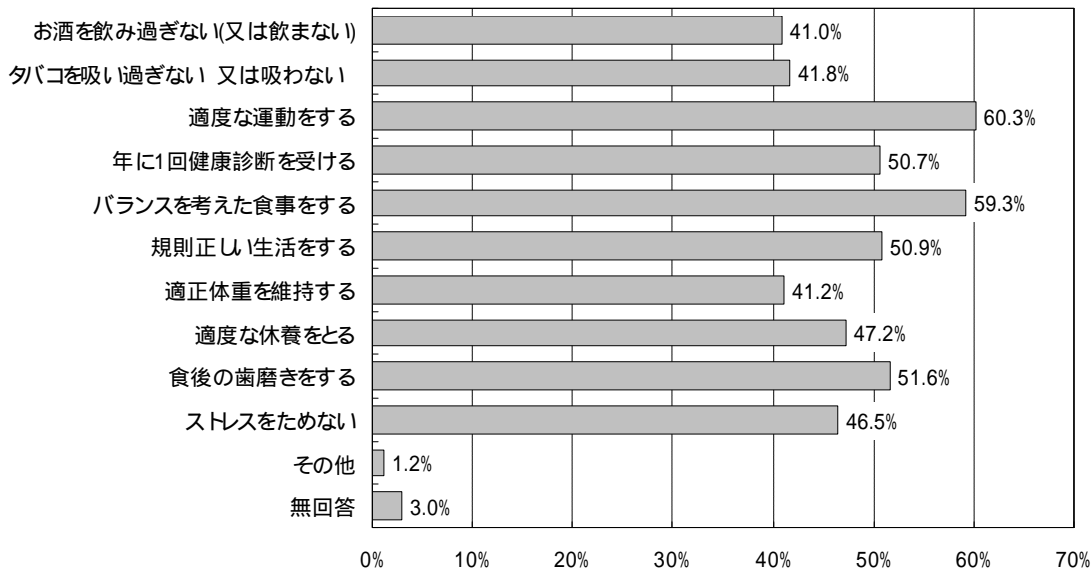
「防災ささえあいカード」の認知度別、
「防災時に住民が支えあう地域づくり」に必要なこと（問27×問28）



	自主防災組織づくり	高齢者居住地等情報マップの作成	地域での定期的な防災訓練	地域やグループなどでの勉強会	福祉サービス等提供施設や事業者との連携	その他	計
知っている	69 33.5%	39 18.9%	46 22.3%	21 10.2%	27 13.1%	4 1.9%	206 100.0%
知らない	415 27.6%	291 19.4%	330 22.0%	157 10.5%	277 18.5%	31 2.1%	1501 100.0%
全体	484 28.4%	330 19.3%	376 22.0%	178 10.4%	304 17.8%	35 2.1%	1707 100.0%

問 29 日頃から健康のために心がけていること（複数回答）

回答者が日頃から健康のために心がけていることは、「適度な運動をする」が 60.3%と最も多く、次いで「バランスを考えた食事をする」が 59.3%となっているが、いずれの選択肢についても 40%以上の高い回答率となっており、日頃から健康に心がけている人が多いことがわかる。

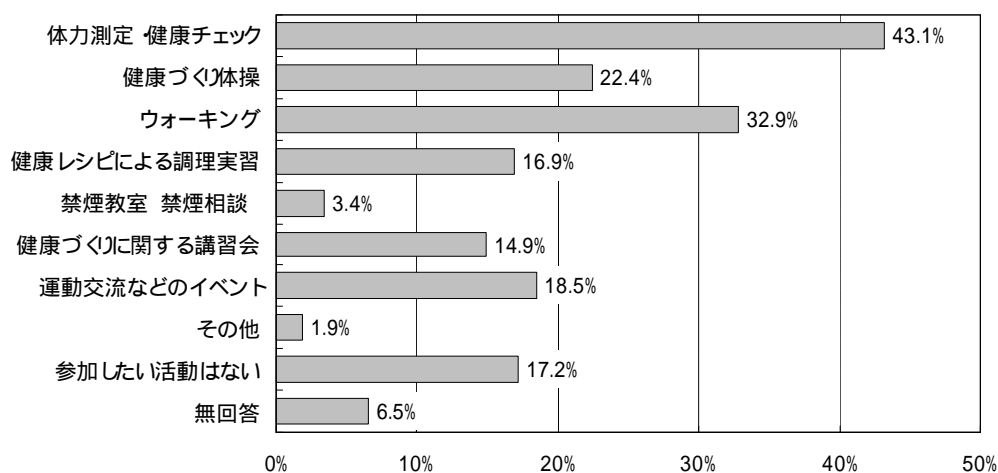


n=1013

選択肢	回答数	回答率
1. お酒を飲み過ぎない(又は飲まない)	415	41.0%
2. タバコを吸い過ぎない 又は吸わない	423	41.8%
3. 適度な運動をする	611	60.3%
4. 年に1回健康診断を受ける	514	50.7%
5. バランスを考えた食事をする	601	59.3%
6. 規則正しい生活をする	516	50.9%
7. 適正体重を維持する	417	41.2%
8. 適度な休養をとる	478	47.2%
9. 食後の歯磨きをする	523	51.6%
10. ストレスをためない	471	46.5%
11. その他	12	1.2%
無回答	30	3.0%
計	5011	-

問 30 自身の健康のために参加したいと思う活動（複数回答）

回答者が自身の健康のために参加したいと思う活動は、「体力測定・健康チェック」が 43.1%と最も多く、次いで「ウォーキング」が 32.9%となっている。



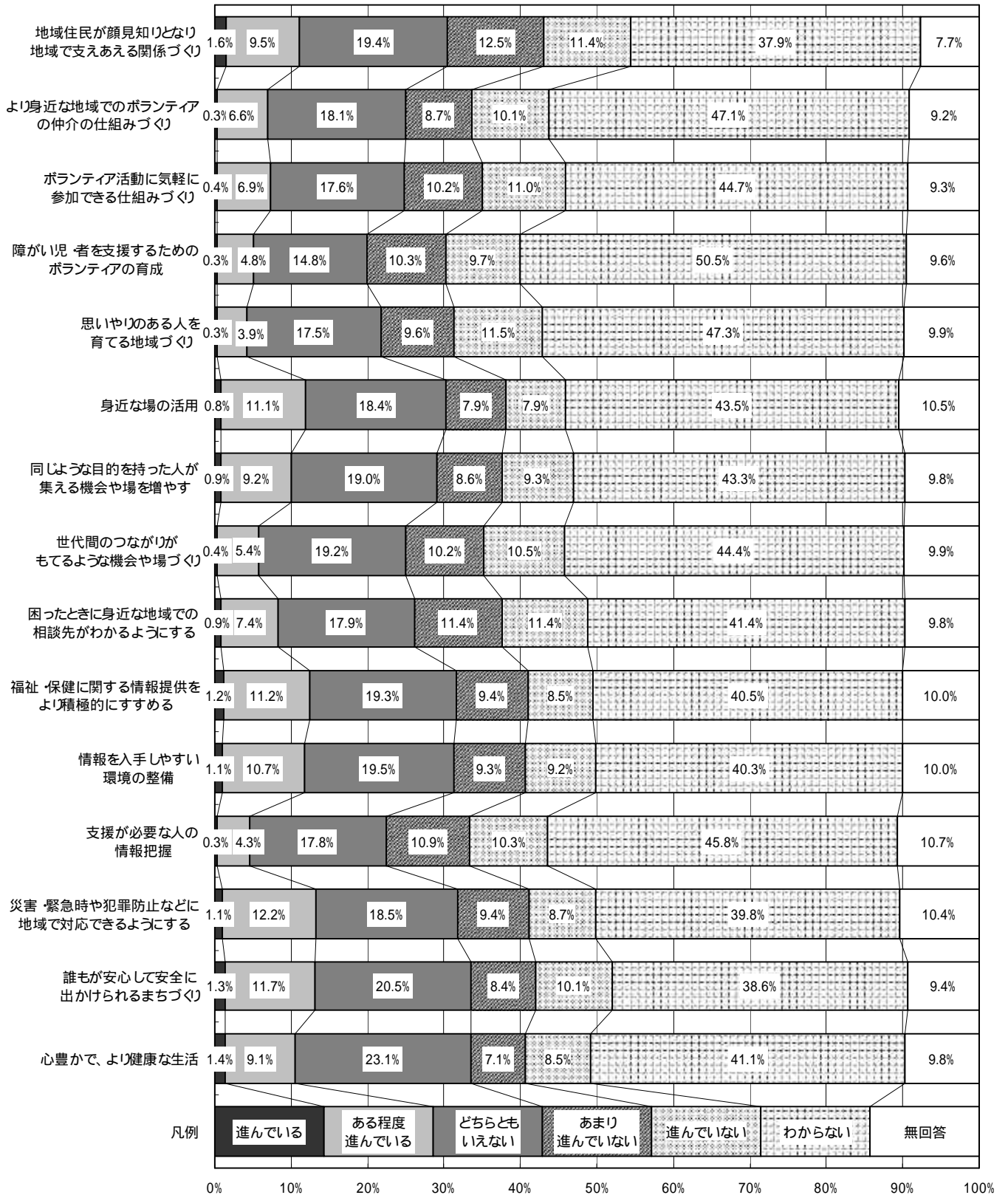
n=1013

選択肢	回答数	回答率
1. 体力測定・健康チェック	437	43.1%
2. 健康づくり体操	227	22.4%
3. ウォーキング	333	32.9%
4. 健康レシピによる調理実習	171	16.9%
5. 禁煙教室 禁煙相談	34	3.4%
6. 健康づくりに関する講習会	151	14.9%
7. 運動交流などのイベント	187	18.5%
8. その他	19	1.9%
9. 参加したい活動はない	174	17.2%
無回答	66	6.5%
計	1799	-

問 31 第 1 期みどりのわ・ささえ愛プランにおける取り組みの進捗度

第 1 期みどりのわ・ささえ愛プランにおける取り組みの進捗度については、「わからない」が全項目にわたり 37.9%～50.5%と最も多かった。

なお、「進んでいる」と「ある程度進んでいる」をあわせたものは、「災害・緊急時や犯罪防止などに地域で対応できるようにする」が 13.3%と最も多く、次いで「誰もが安心して安全に出かけられるまちづくり」が 13.0%となっている。



	進んでいる	ある程度 進んでいる	どちらとも いえない	あまり進ん でいない	進んで いない	わからない	無回答	計
1. 地域住民が顔見知りとなり地域で支えあえる関係づくり	16 1.6%	96 9.5%	197 19.4%	127 12.5%	115 11.4%	384 37.9%	78 7.7%	1,013 100.0%
2. より身近な地域でのボランティアの仲介の仕組みづくり	3 0.3%	67 6.6%	183 18.1%	88 8.7%	102 10.1%	477 47.1%	93 9.2%	1,013 100.0%
3. ボランティア活動に気軽に参加できる仕組みづくり	4 0.4%	70 6.9%	178 17.6%	103 10.2%	111 11.0%	453 44.7%	94 9.3%	1,013 100.0%
4. 障がい児・者を支援するためのボランティアの育成	3 0.3%	49 4.8%	150 14.8%	104 10.3%	98 9.7%	512 50.5%	97 9.6%	1,013 100.0%
5. 思いやりのある人を育てる地域づくり	3 0.3%	40 3.9%	177 17.5%	97 9.6%	117 11.5%	479 47.3%	100 9.9%	1,013 100.0%
6. 身近な場の活用	8 0.8%	112 11.1%	186 18.4%	80 7.9%	80 7.9%	441 43.5%	106 10.5%	1,013 100.0%
7. 同じような目的を持った人が集える機会や場を増やす	9 0.9%	93 9.2%	192 19.0%	87 8.6%	94 9.3%	439 43.3%	99 9.8%	1,013 100.0%
8. 世代間のつながりがもてるような機会や場づくり	4 0.4%	55 5.4%	195 19.2%	103 10.2%	106 10.5%	450 44.4%	100 9.9%	1,013 100.0%
9. 困ったときに身近な地域での相談先がわかるようにする	9 0.9%	75 7.4%	181 17.9%	115 11.4%	115 11.4%	419 41.4%	99 9.8%	1,013 100.0%
10. 福祉・保健に関する情報提供をより積極的にすすめる	12 1.2%	113 11.2%	196 19.3%	95 9.4%	86 8.5%	410 40.5%	101 10.0%	1,013 100.0%
11. 情報を入手しやすい環境の整備	11 1.1%	108 10.7%	198 19.5%	94 9.3%	93 9.2%	408 40.3%	101 10.0%	1,013 100.0%
12. 支援が必要な人の情報把握	3 0.3%	44 4.3%	180 17.8%	110 10.9%	104 10.3%	464 45.8%	108 10.7%	1,013 100.0%
13. 災害・緊急時や犯罪防止などに地域で対応できるようにする	11 1.1%	124 12.2%	187 18.5%	95 9.4%	88 8.7%	403 39.8%	105 10.4%	1,013 100.0%
14. 誰もが安心して安全に出かけられるまちづくり	13 1.3%	119 11.7%	208 20.5%	85 8.4%	102 10.1%	391 38.6%	95 9.4%	1,013 100.0%
15. 心豊かで、より健康な生活	14 1.4%	92 9.1%	234 23.1%	72 7.1%	86 8.5%	416 41.1%	99 9.8%	1,013 100.0%

第1期みどりのわ・ささえ愛プランにおける取り組みの小項目ごとに、どの程度進んでいると思っているかを「進んでいる」と「ある程度進んでいる」の合計で居住地区別にみてる。

「地域住民が顔見知りとなり地域で支えあえる関係づくり」については、竹山地区の20.0%が最も多く、次いで霧が丘地区16.6%、三保地区14.1%、最も少なかったのは山下地区の6.0%であった。

「より身近な地域でのボランティアの仲介の仕組みづくり」については、霧が丘地区の19.1%が最も多く、次いで白山地区11.9%、竹山地区11.7%、最も少なかったのは山下地区の1.5%であった。

「ボランティア活動に気軽に参加できる仕組みづくり」については、竹山地区の16.9%が最も多く、次いで霧が丘地区12.7%、新治中部地区10.0%、最も少なかったのは山下地区の3.0%であった。

「障がい児・者を支援するためのボランティアの育成」については、各地区ともに進んでいると思う割合が低く、ほぼ同程度である。このうち、山下地区の7.6%が最も多く、次いで三保地区7.2%、新治中部地区7.1%、最も少なかったのは東本郷地区及び鴨居地区の4.5%であった。

「思いやりのある人を育てる地域づくり」についても、各地区ともに進んでいると思う割合は低い、わずかであるが地区による差が見られる。最も多かったのは新治西部地区・十日市場団地地区の8.5%、次いで霧が丘地区7.9%、東本郷地区7.5%、最も少なかったのは鴨居地区の1.1%であった。

「身近な場の活用」については、竹山地区の22.4%が最も多く、次いで霧が丘地区17.5%、新治西部地区・十日市場団地地区14.0%、最も少なかったのは白山地区の8.8%であった。

「同じような目的をもった人が集える機会や場を増やす」については、霧が丘地区の17.5%が最も多く、次いで竹山地区16.7%、白山地区15.5%、最も少なかったのは鴨居地区の5.6%であった。

「世代間のつながりがもてるような機会や場づくり」については、霧が丘地区の9.5%が最も多く、次いで東本郷地区9.0%、竹山地区8.5%、最も少なかったのは鴨居地区の2.3%であった。

「困ったときに身近な地域での相談先がわかるようにする」については、竹山地区の17.2%が最も多く、次いで霧が丘地区及び長津田地区の12.7%、最も少なかったのは白山地区の5.1%であった。

「福祉・保健に関する情報提供をより積極的にすすめる」については、霧が丘地区の23.8%が最も多く、次いで竹山地区18.3%、東本郷地区16.6%、最も少なかったのは山下地区の9.1%であった。

「情報を入手しやすい環境の整備」については、霧が丘地区の20.7%が最も多く、次いで東本郷地区20.0%、長津田地区14.3%、最も少なかったのは三保地区の7.3%であった。

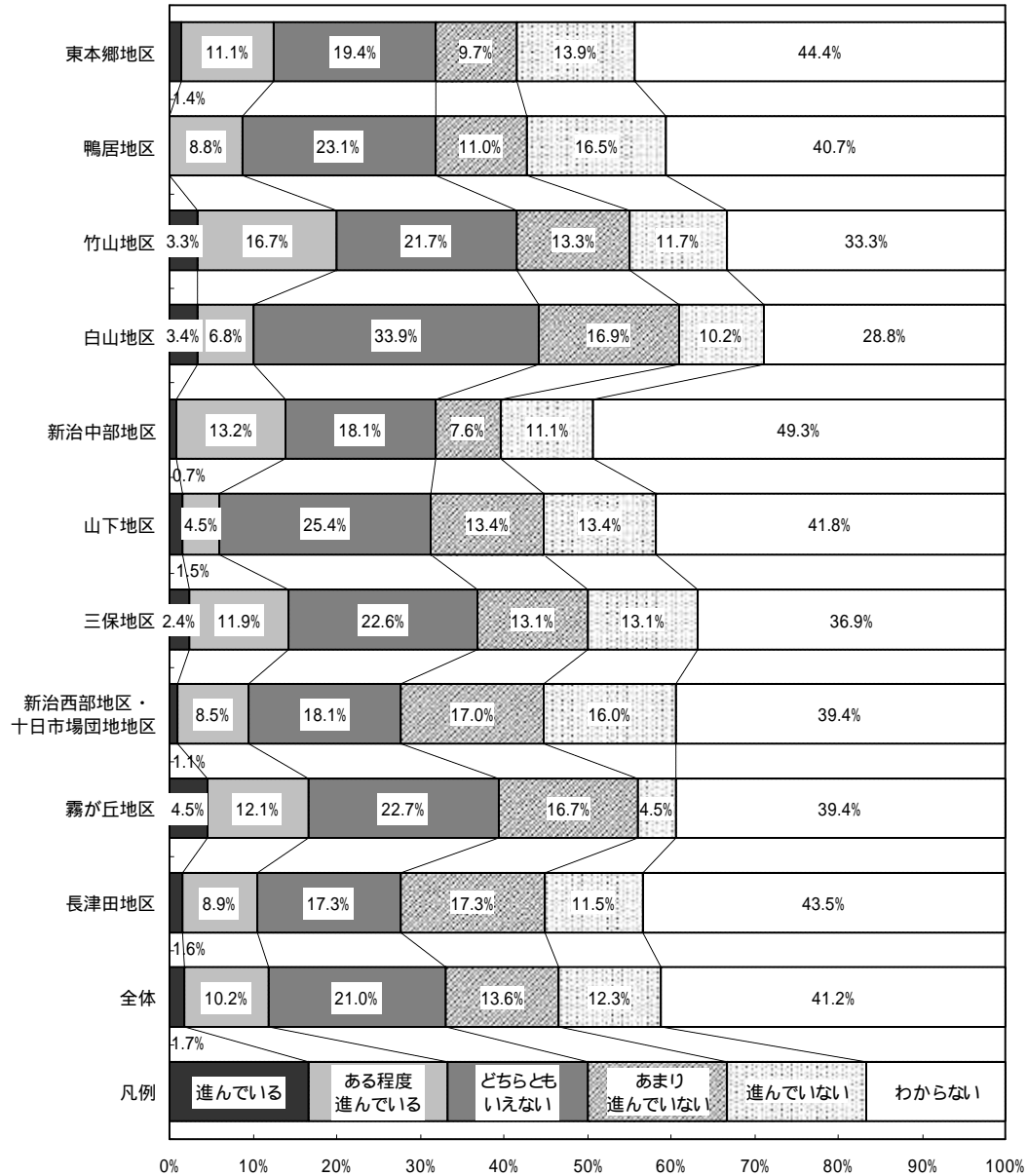
「支援が必要な人の情報把握」については、竹山地区の10.3%が最も多く、次いで長津田地区7.4%、鴨居地区6.8%、最も少なかったのは白山地区で「進んでいる」と「ある程度進んでいる」とした回答はまったくなかった。

「災害・緊急時や犯罪防止などに地域で対応できるようにする」竹山地区の28.8%が最も多く、次いで霧が丘地区27.7%、長津田地区16.1%、最も少なかったのは東本郷地区の9.1%であった。

「誰もが安心して出かけられるまちづくり」霧が丘地区の29.2%が最も多く、次いで竹山地区25.0%、白山地区22.4%、最も少なかったのは新治西部地区・十日市場団地地区の7.4%であった。

「心豊かで、より健康な生活」竹山地区の20.3%が最も多く、次いで霧が丘地区16.9%、三保地区16.0%最も少なかったのは鴨居地区の5.5%であった。

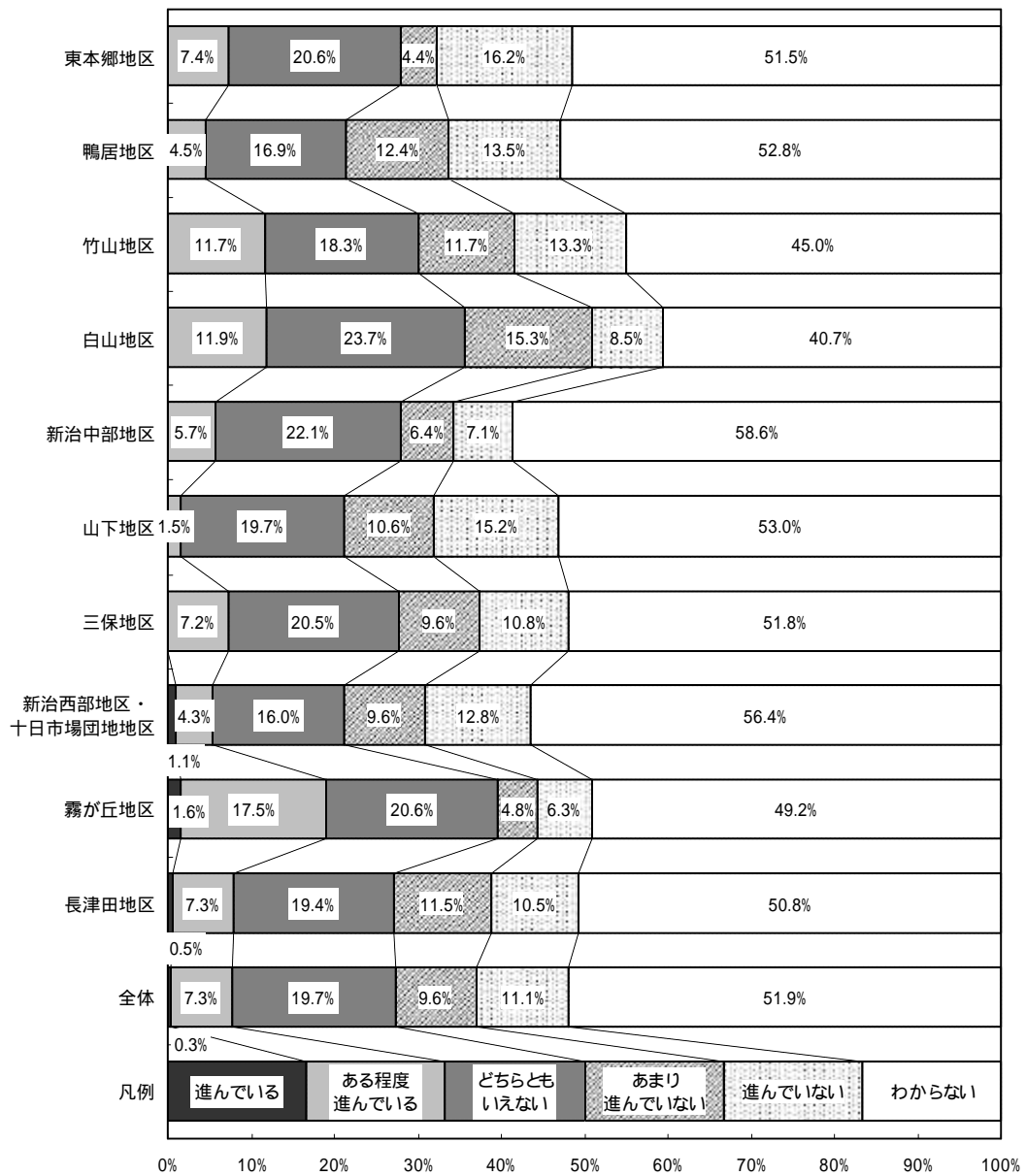
居住地区別、「地域住民が顔見知りとなり地域で支えあえる関係づくり」の進捗度(問1×問31-1)
n=928



	進んでいる	ある程度進んでいる	どちらともいえない	あまり進んでいない	進んでいない	わからない	計
東本郷地区	1	8	14	7	10	32	72
鴨居地区	0	8	21	10	15	37	91
竹山地区	2	10	13	8	7	20	60
白山地区	2	4	20	10	6	17	59
新治中部地区	1	19	26	11	16	71	144
山下地区	1	3	17	9	9	28	67
三保地区	2	10	19	11	11	31	84
新治西部地区・十日市場団地地区	1	8	17	16	15	37	94
霧が丘地区	3	8	15	11	3	26	66
長津田地区	3	17	33	33	22	83	191
全体	16	95	195	126	114	382	928

居住地区別、「より身近な地域でのボランティアの仲介の仕組みづくり」の進捗度(問1×問31-2)

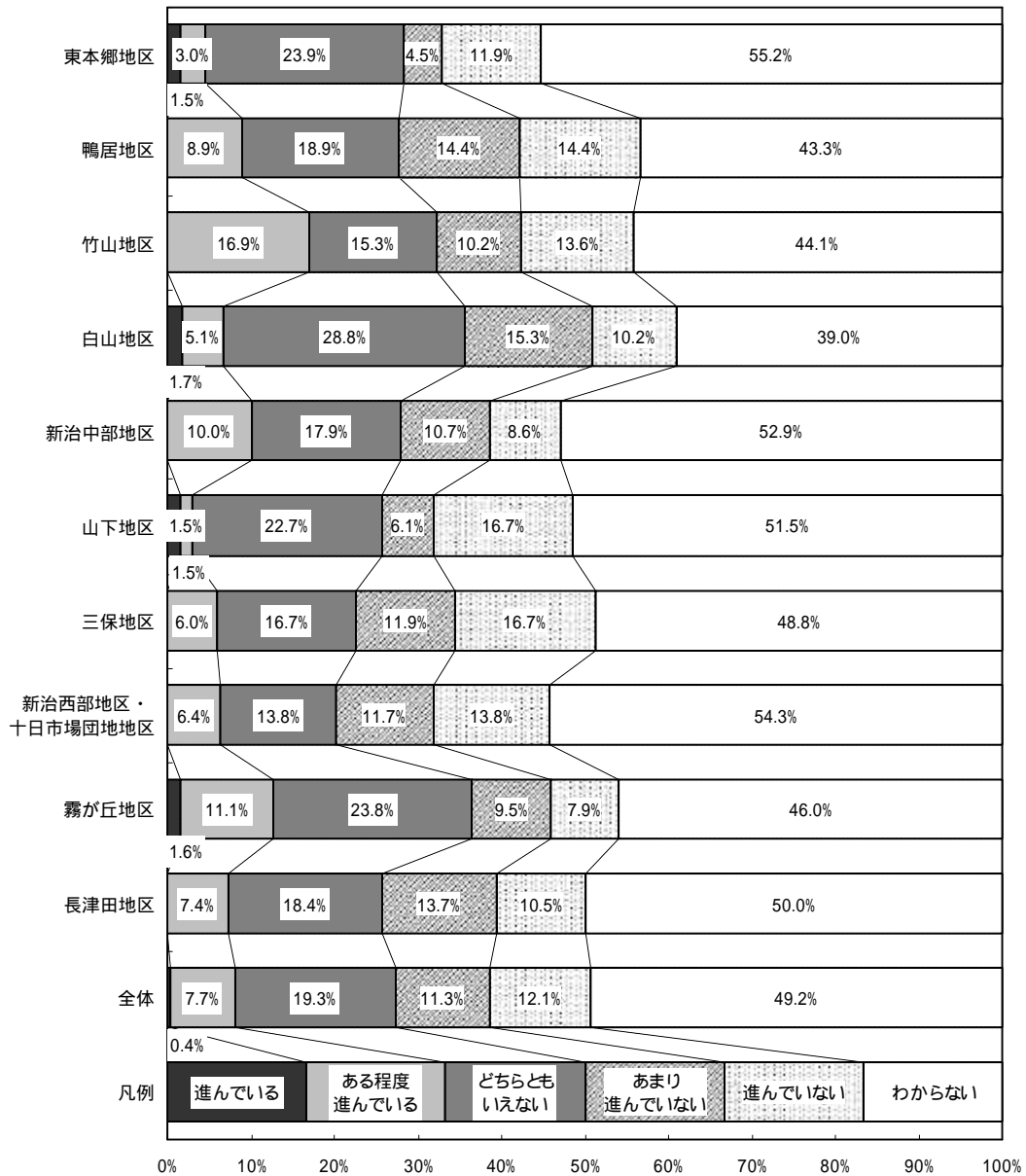
n=913



	進んでいる	ある程度進んでいる	どちらともいえない	あまり進んでいない	進んでいない	わからない	計
東本郷地区	0	5	14	3	11	35	68
鴨居地区	0	4	15	11	12	47	89
竹山地区	0	7	11	7	8	27	60
白山地区	0	7	14	9	5	24	59
新治中部地区	0	8	31	9	10	82	140
山下地区	0	1	13	7	10	35	66
三保地区	0	6	17	8	9	43	83
新治西部地区・十日市場団地地区	1	4	15	9	12	53	94
霧が丘地区	1	11	13	3	4	31	63
長津田地区	1	14	37	22	20	97	191
全体	3	67	180	88	101	474	913

居住地区別、「ボランティア活動に気軽に参加できる仕組みづくり」の進捗度（問1×問31-3）

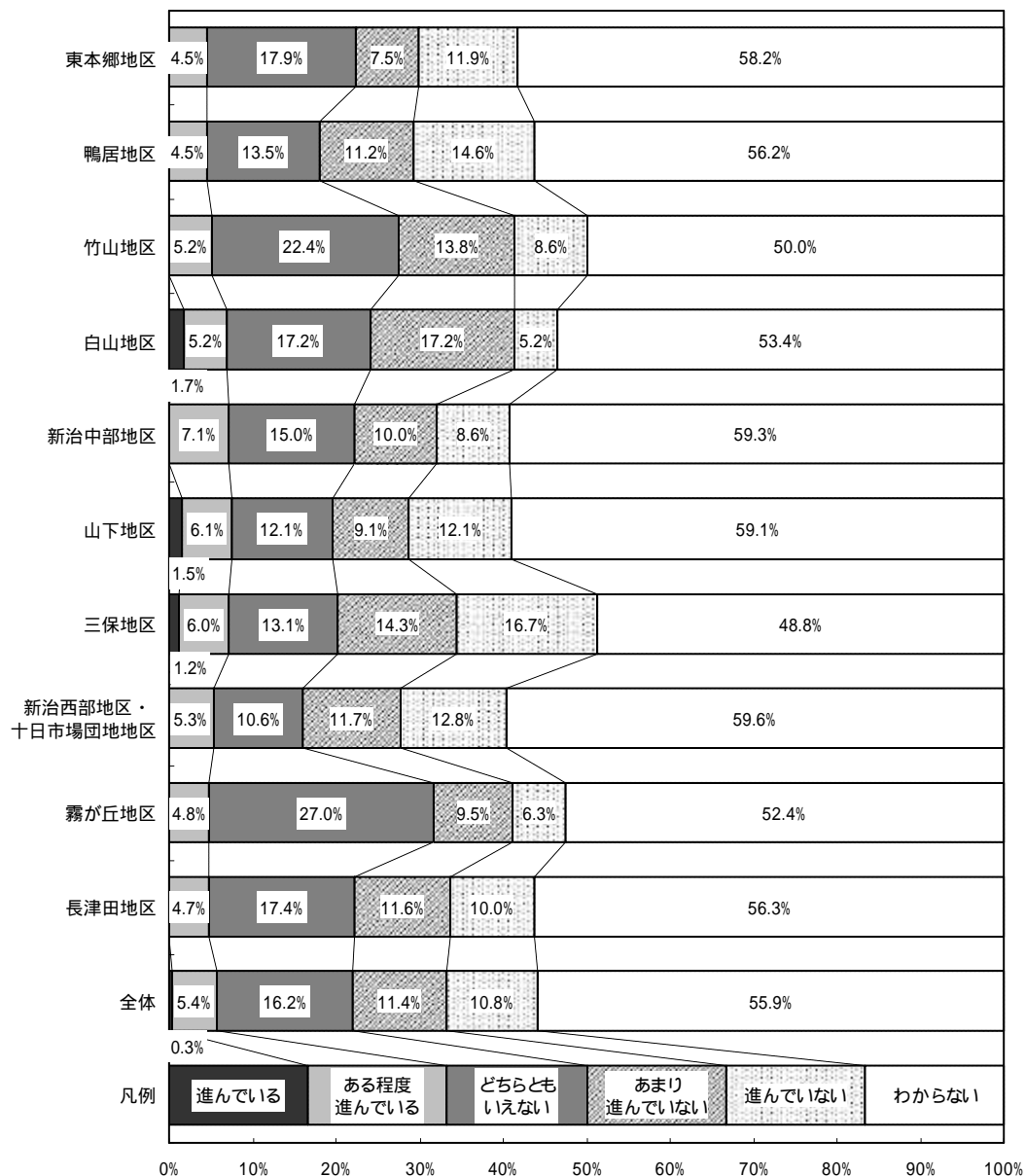
n=912



	進んでいる	ある程度進んでいる	どちらともいえない	あまり進んでいない	進んでいない	わからない	計
東本郷地区	1	2	16	3	8	37	67
鴨居地区	0	8	17	13	13	39	90
竹山地区	0	10	9	6	8	26	59
白山地区	1	3	17	9	6	23	59
新治中部地区	0	14	25	15	12	74	140
山下地区	1	1	15	4	11	34	66
三保地区	0	5	14	10	14	41	84
新治西部地区・十日市場団地地区	0	6	13	11	13	51	94
霧が丘地区	1	7	15	6	5	29	63
長津田地区	0	14	35	26	20	95	190
全体	4	70	176	103	110	449	912

居住地区別、「障がい児・者を支援するためのボランティアの育成」の進捗度（問1×問31-4）

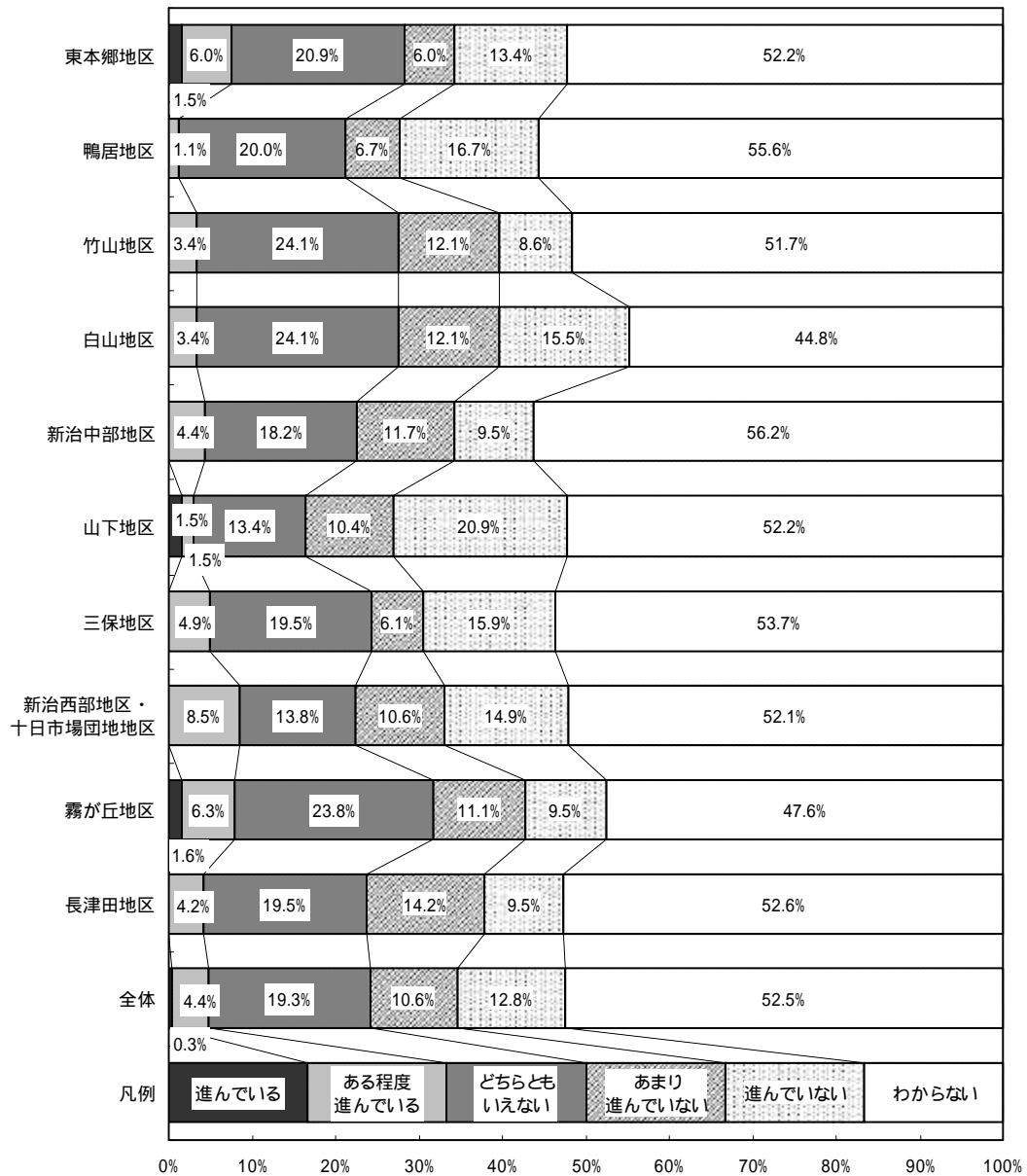
n=909



	進んでいる	ある程度進んでいる	どちらともいえない	あまり進んでいない	進んでいない	わからない	計
東本郷地区	0	3	12	5	8	39	67
鴨居地区	0	4	12	10	13	50	89
竹山地区	0	3	13	8	5	29	58
白山地区	1	3	10	10	3	31	58
新治中部地区	0	10	21	14	12	83	140
山下地区	1	4	8	6	8	39	66
三保地区	1	5	11	12	14	41	84
新治西部地区・十日市場団地地区	0	5	10	11	12	56	94
霧が丘地区	0	3	17	6	4	33	63
長津田地区	0	9	33	22	19	107	190
全体	3	49	147	104	98	508	909

居住地区別、「思いやりのある人を育てる地域づくり」の進捗度（問1×問31-5）

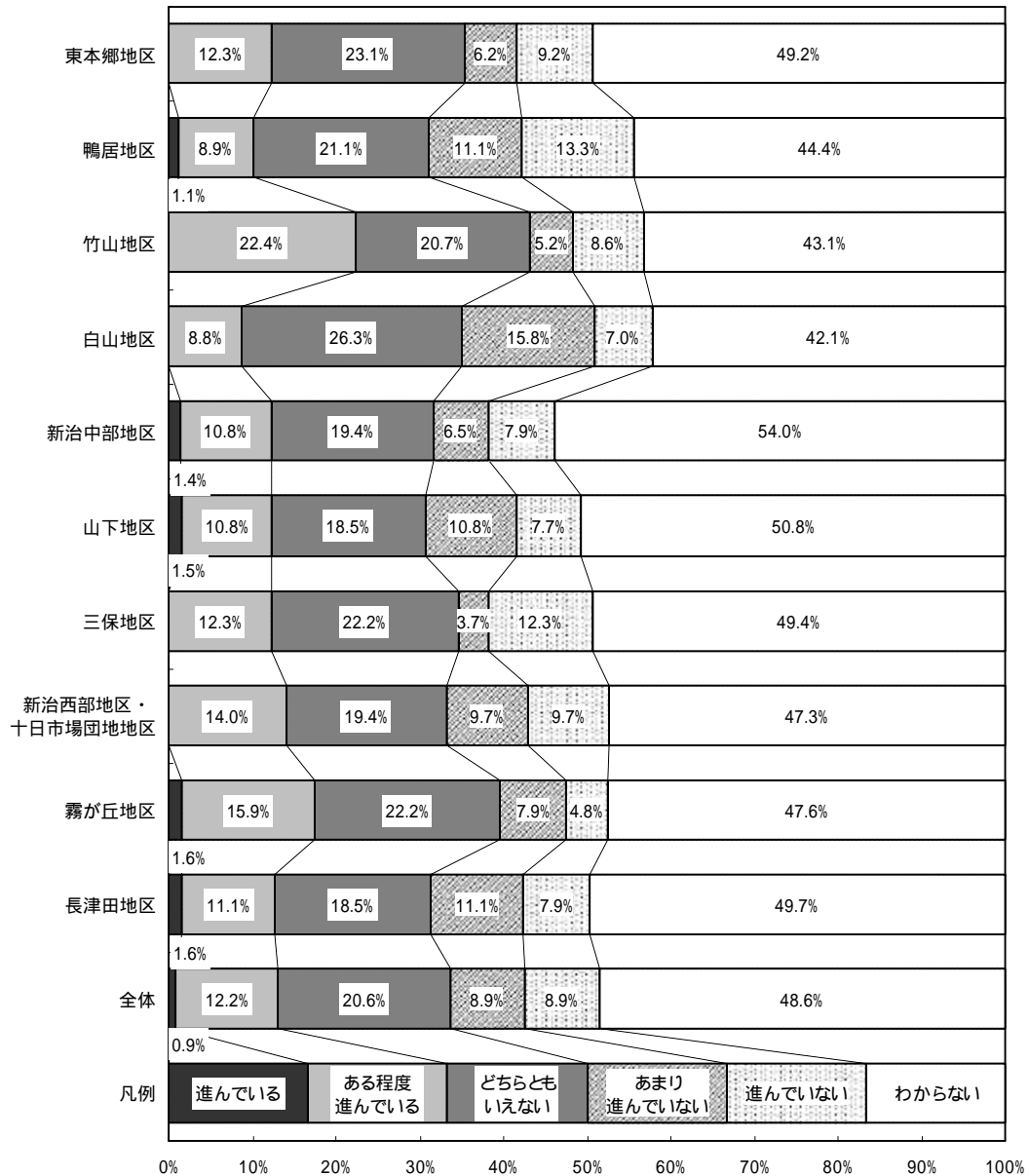
n=906



	進んでいる	ある程度進んでいる	どちらともいえない	あまり進んでいない	進んでいない	わからない	計
東本郷地区	1	4	14	4	9	35	67
鴨居地区	0	1	18	6	15	50	90
竹山地区	0	2	14	7	5	30	58
白山地区	0	2	14	7	9	26	58
新治中部地区	0	6	25	16	13	77	137
山下地区	1	1	9	7	14	35	67
三保地区	0	4	16	5	13	44	82
新治西部地区・十日市場団地地区	0	8	13	10	14	49	94
霧が丘地区	1	4	15	7	6	30	63
長津田地区	0	8	37	27	18	100	190
全体	3	40	175	96	116	476	906

居住地区別、「身近な場の活用」の進捗度（問1×問31-6）

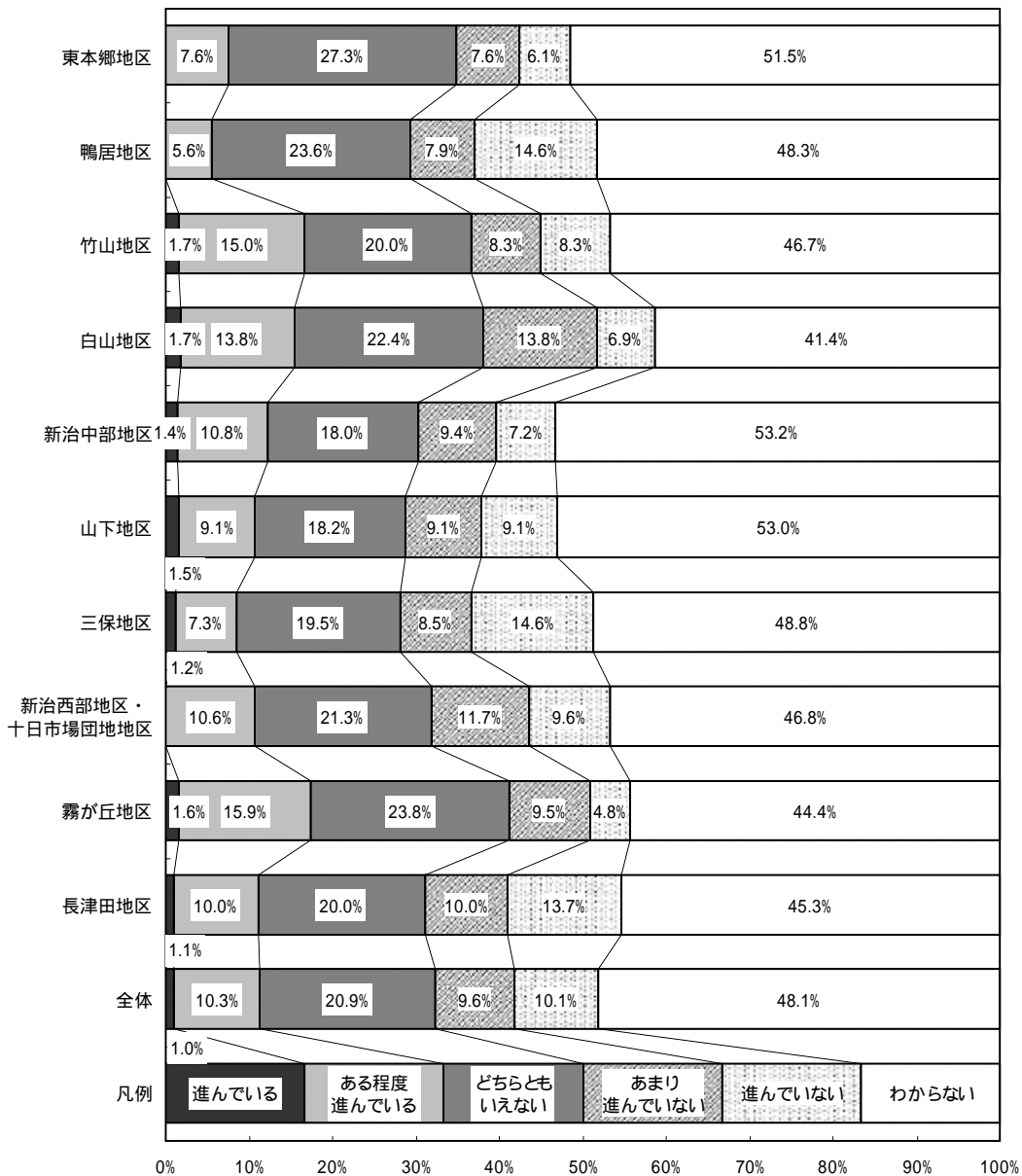
n=900



	進んでいる	ある程度進んでいる	どちらともいえない	あまり進んでいない	進んでいない	わからない	計
東本郷地区	0	8	15	4	6	32	65
鴨居地区	1	8	19	10	12	40	90
竹山地区	0	13	12	3	5	25	58
白山地区	0	5	15	9	4	24	57
新治中部地区	2	15	27	9	11	75	139
山下地区	1	7	12	7	5	33	65
三保地区	0	10	18	3	10	40	81
新治西部地区・十日市場団地地区	0	13	18	9	9	44	93
霧が丘地区	1	10	14	5	3	30	63
長津田地区	3	21	35	21	15	94	189
全体	8	110	185	80	80	437	900

居住地区別、「同じような目的をもった人が集える機会や場を増やす」の進捗度（問1×問31-7）

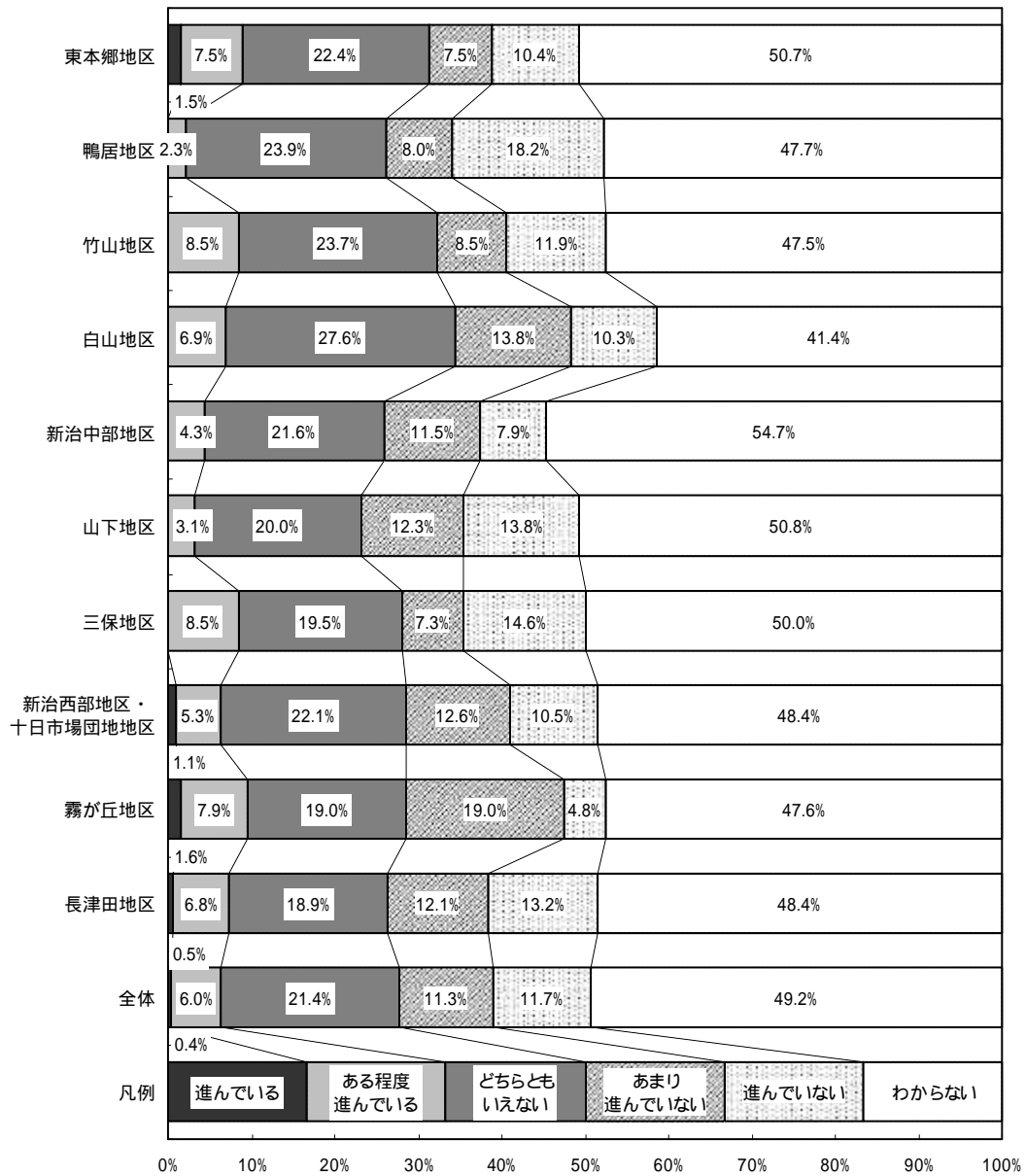
n=907



	進んでいる	ある程度進んでいる	どちらともいえない	あまり進んでいない	進んでいない	わからない	計
東本郷地区	0	5	18	5	4	34	66
鴨居地区	0	5	21	7	13	43	89
竹山地区	1	9	12	5	5	28	60
白山地区	1	8	13	8	4	24	58
新治中部地区	2	15	25	13	10	74	139
山下地区	1	6	12	6	6	35	66
三保地区	1	6	16	7	12	40	82
新治西部地区・十日市場団地地区	0	10	20	11	9	44	94
霧が丘地区	1	10	15	6	3	28	63
長津田地区	2	19	38	19	26	86	190
全体	9	93	190	87	92	436	907

居住地区別、「世代間のつながりがもてるような機会や場づくり」の進捗度（問1×問31-8）

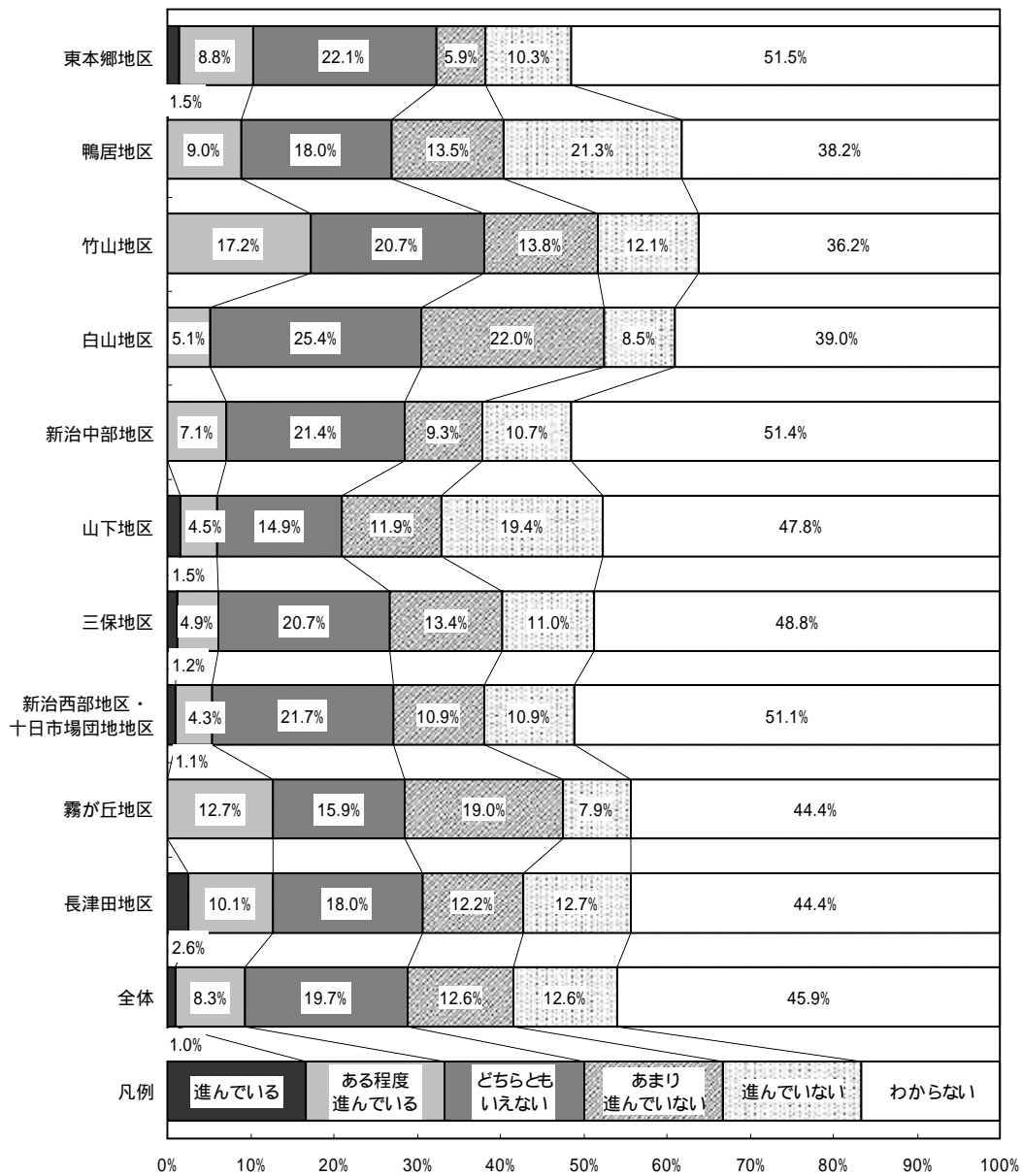
n=906



	進んでいる	ある程度進んでいる	どちらともいえない	あまり進んでいない	進んでいない	わからない	計
東本郷地区	1	5	15	5	7	34	67
鴨居地区	0	2	21	7	16	42	88
竹山地区	0	5	14	5	7	28	59
白山地区	0	4	16	8	6	24	58
新治中部地区	0	6	30	16	11	76	139
山下地区	0	2	13	8	9	33	65
三保地区	0	7	16	6	12	41	82
新治西部地区・十日市場団地地区	1	5	21	12	10	46	95
霧が丘地区	1	5	12	12	3	30	63
長津田地区	1	13	36	23	25	92	190
全体	4	54	194	102	106	446	906

居住地区別、「困ったときに身近な地域での相談先がわかるようにする」の進捗度(問1×問31-9)

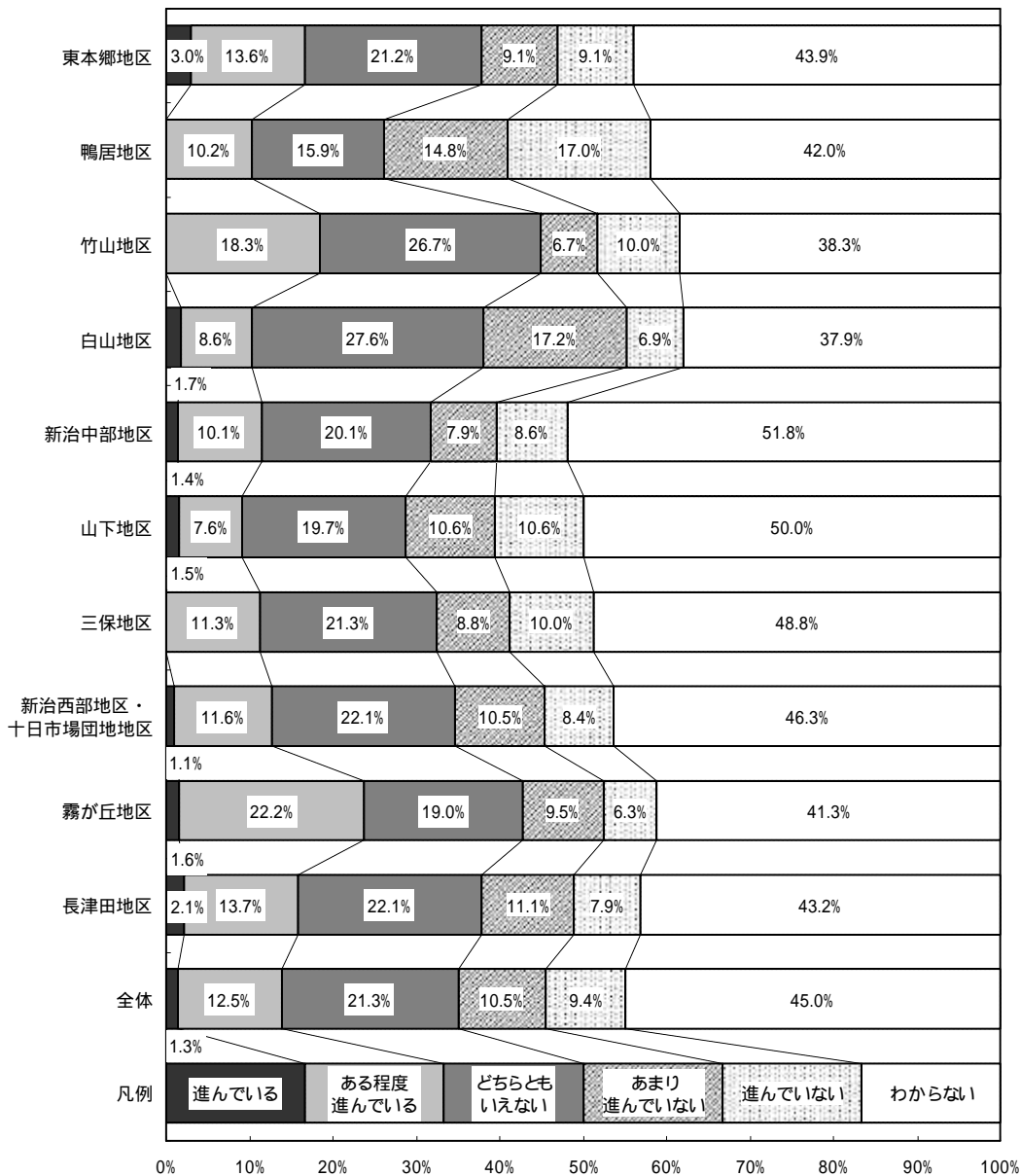
n=907



	進んでいる	ある程度進んでいる	どちらともいえない	あまり進んでいない	進んでいない	わからない	計
東本郷地区	1	6	15	4	7	35	68
鴨居地区	0	8	16	12	19	34	89
竹山地区	0	10	12	8	7	21	58
白山地区	0	3	15	13	5	23	59
新治中部地区	0	10	30	13	15	72	140
山下地区	1	3	10	8	13	32	67
三保地区	1	4	17	11	9	40	82
新治西部地区・十日市場団地地区	1	4	20	10	10	47	92
霧が丘地区	0	8	10	12	5	28	63
長津田地区	5	19	34	23	24	84	189
全体	9	75	179	114	114	416	907

居住地区別、「福祉・保健に関する情報提供をより積極的にすすめる」の進捗度(問1×問31-10)

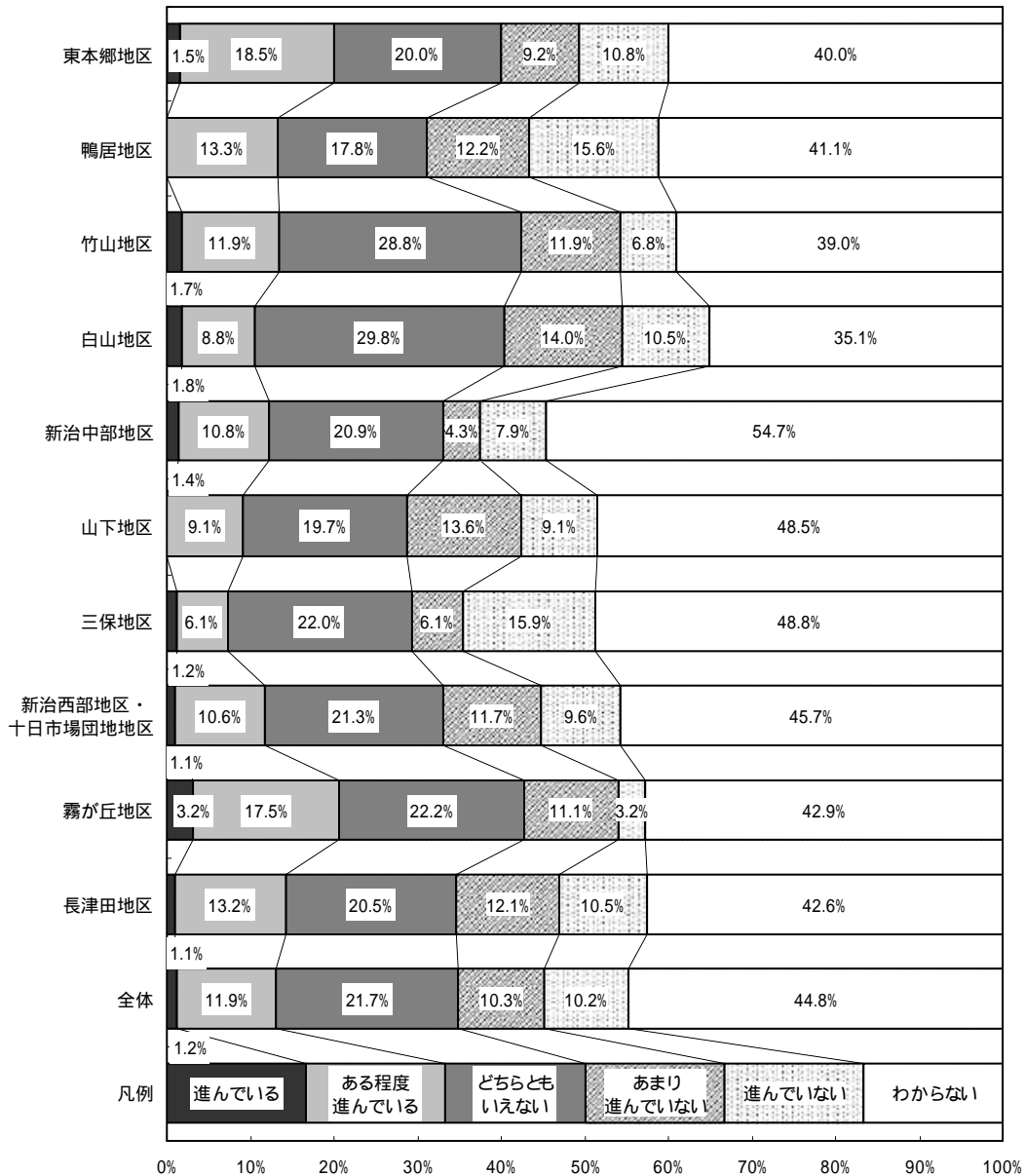
n=905



	進んでいる	ある程度進んでいる	どちらともいえない	あまり進んでいない	進んでいない	わからない	計
東本郷地区	2	9	14	6	6	29	66
鴨居地区	0	9	14	13	15	37	88
竹山地区	0	11	16	4	6	23	60
白山地区	1	5	16	10	4	22	58
新治中部地区	2	14	28	11	12	72	139
山下地区	1	5	13	7	7	33	66
三保地区	0	9	17	7	8	39	80
新治西部地区・十日市場団地地区	1	11	21	10	8	44	95
霧が丘地区	1	14	12	6	4	26	63
長津田地区	4	26	42	21	15	82	190
全体	12	113	193	95	85	407	905

居住地区別、「情報を入手しやすい環境の整備」の進捗度（問1×問31-11）

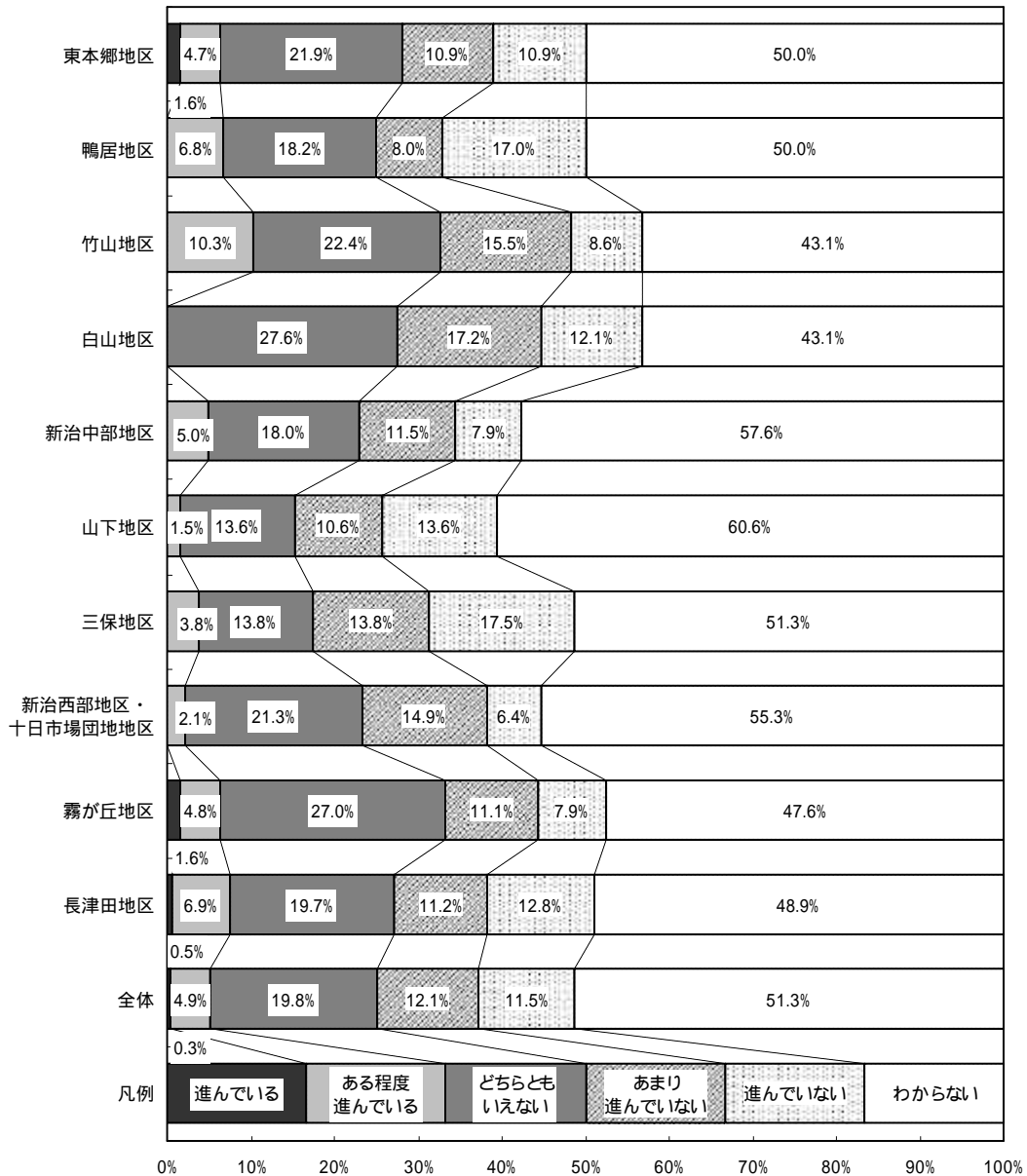
n=905



	進んでいる	ある程度進んでいる	どちらともいえない	あまり進んでいない	進んでいない	わからない	計
東本郷地区	1	12	13	6	7	26	65
鴨居地区	0	12	16	11	14	37	90
竹山地区	1	7	17	7	4	23	59
白山地区	1	5	17	8	6	20	57
新治中部地区	2	15	29	6	11	76	139
山下地区	0	6	13	9	6	32	66
三保地区	1	5	18	5	13	40	82
新治西部地区・十日市場団地地区	1	10	20	11	9	43	94
霧が丘地区	2	11	14	7	2	27	63
長津田地区	2	25	39	23	20	81	190
全体	11	108	196	93	92	405	905

居住地区別、「支援が必要な人の情報把握」の進捗度（問1×問31-12）

n=898

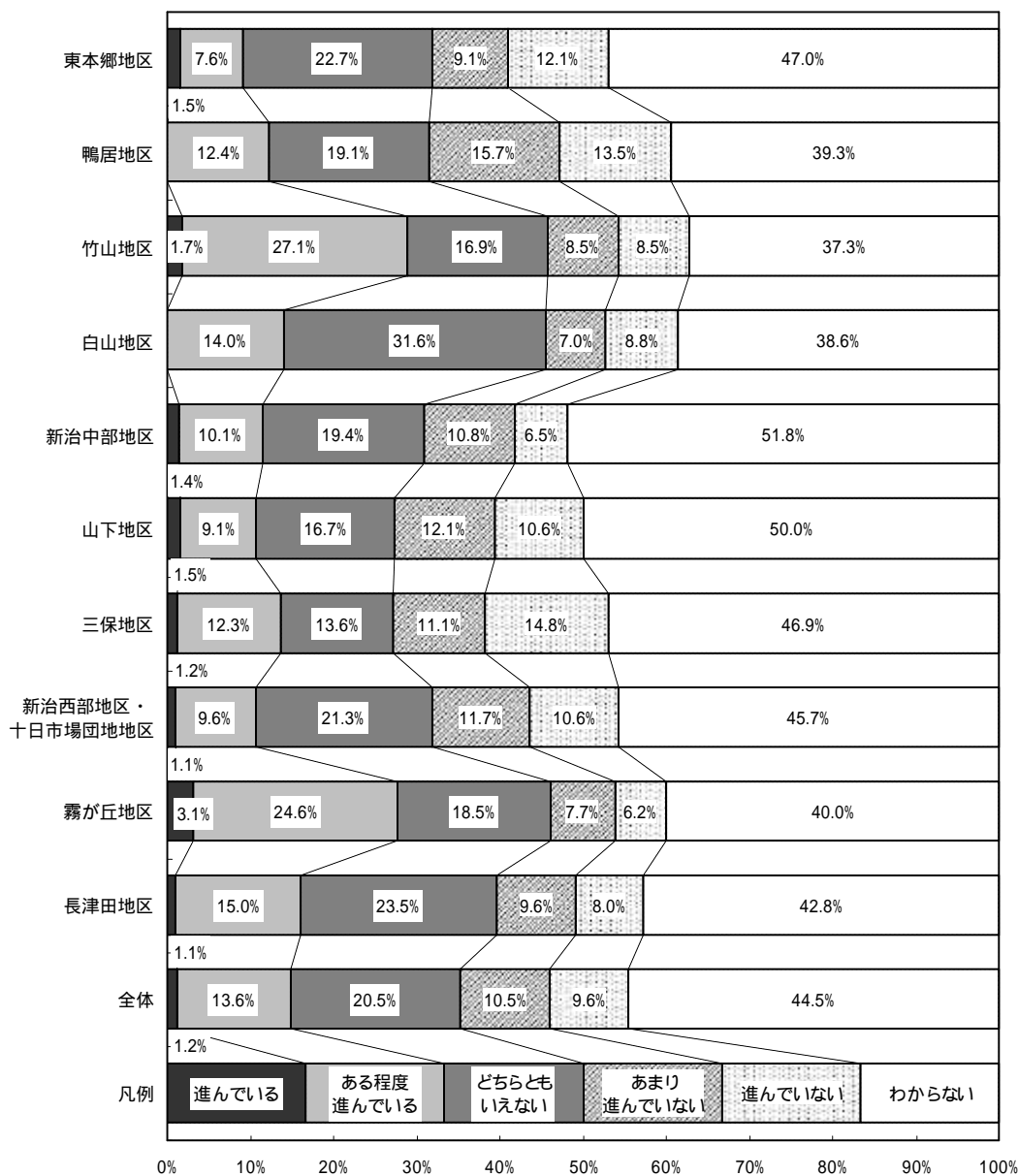


	進んでいる	ある程度進んでいる	どちらともいえない	あまり進んでいない	進んでいない	わからない	計
東本郷地区	1	3	14	7	7	32	64
鴨居地区	0	6	16	7	15	44	88
竹山地区	0	6	13	9	5	25	58
白山地区	0	0	16	10	7	25	58
新治中部地区	0	7	25	16	11	80	139
山下地区	0	1	9	7	9	40	66
三保地区	0	3	11	11	14	41	80
新治西部地区・十日市場団地地区	0	2	20	14	6	52	94
霧が丘地区	1	3	17	7	5	30	63
長津田地区	1	13	37	21	24	92	188
全体	3	44	178	109	103	461	898

居住地区別、

「災害・緊急時や犯罪防止などに地域で対応できるようにする」の進捗度（問1×問31-13）

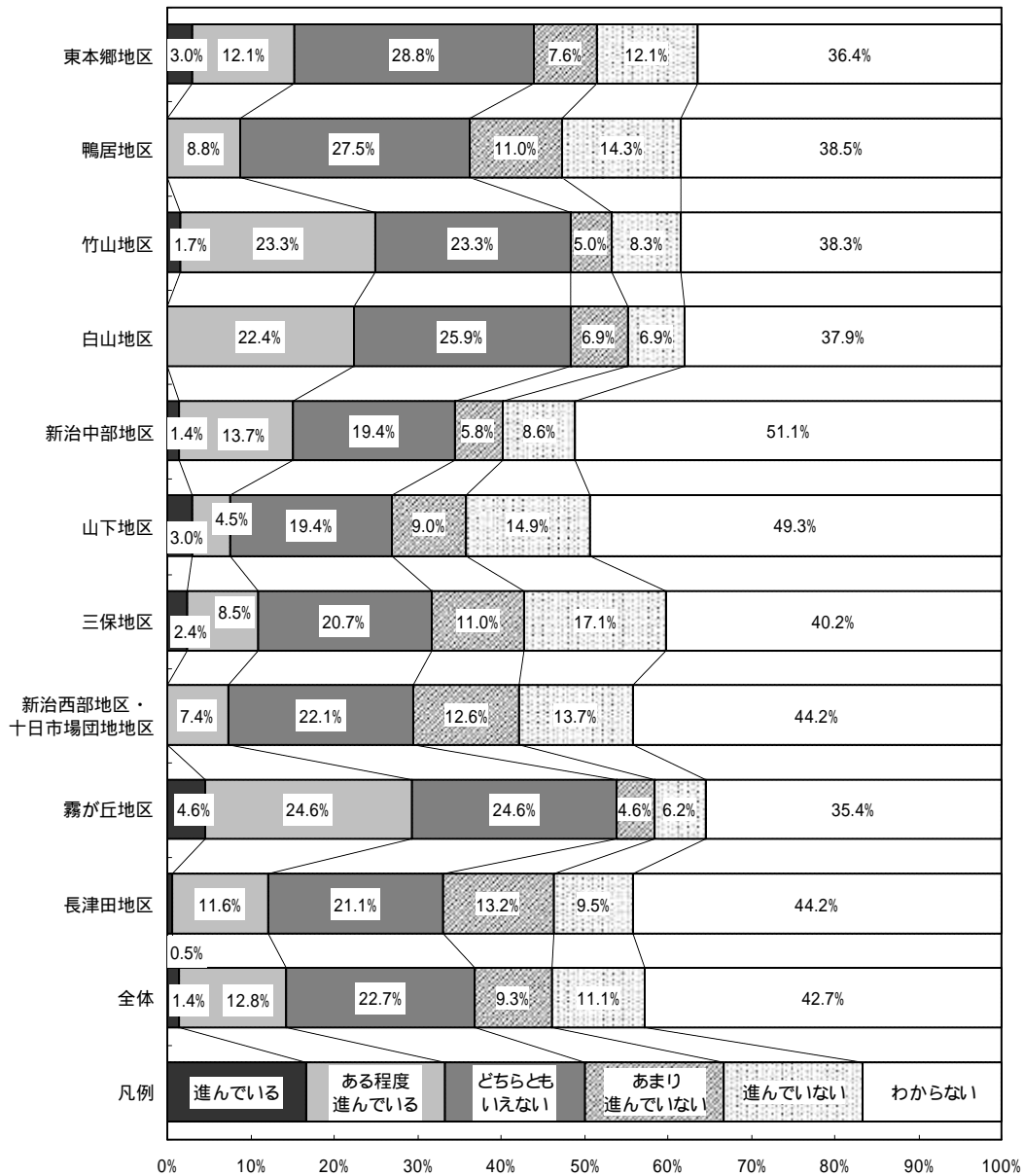
n=903



	進んでいる	ある程度進んでいる	どちらともいえない	あまり進んでいない	進んでいない	わからない	計
東本郷地区	1	5	15	6	8	31	66
	1.5%	7.6%	22.7%	9.1%	12.1%	47.0%	100.0%
鴨居地区	0	11	17	14	12	35	89
	0.0%	12.4%	19.1%	15.7%	13.5%	39.3%	100.0%
竹山地区	1	16	10	5	5	22	59
	1.7%	27.1%	16.9%	8.5%	8.5%	37.3%	100.0%
白山地区	0	8	18	4	5	22	57
	0.0%	14.0%	31.6%	7.0%	8.8%	38.6%	100.0%
新治中部地区	2	14	27	15	9	72	139
	1.4%	10.1%	19.4%	10.8%	6.5%	51.8%	100.0%
山下地区	1	6	11	8	7	33	66
	1.5%	9.1%	16.7%	12.1%	10.6%	50.0%	100.0%
三保地区	1	10	11	9	12	38	81
	1.2%	12.3%	13.6%	11.1%	14.8%	46.9%	100.0%
新治西部地区・十日市場団地地区	1	9	20	11	10	43	94
	1.1%	9.6%	21.3%	11.7%	10.6%	45.7%	100.0%
霧が丘地区	2	16	12	5	4	26	65
	3.1%	24.6%	18.5%	7.7%	6.2%	40.0%	100.0%
長津田地区	2	28	44	18	15	80	187
	1.1%	15.0%	23.5%	9.6%	8.0%	42.8%	100.0%
全体	11	123	185	95	87	402	903
	1.2%	13.6%	20.5%	10.5%	9.6%	44.5%	100.0%

居住地区別、「誰もが安心して出かけられるまちづくり」の進捗度（問1×問31-14）

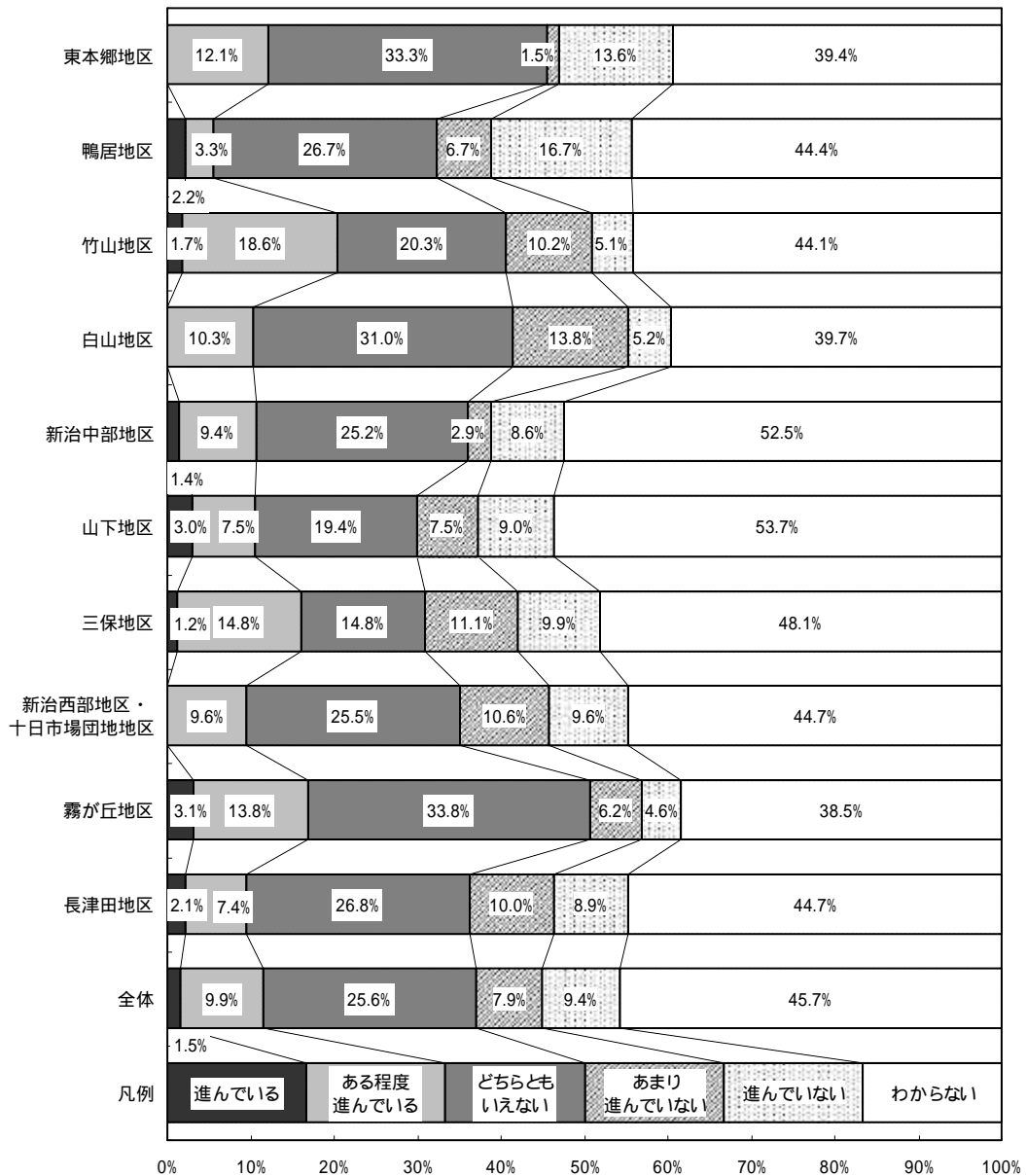
n=913



	進んでいる	ある程度進んでいる	どちらともいえない	あまり進んでいない	進んでいない	わからない	計
東本郷地区	2	8	19	5	8	24	66
鴨居地区	0	8	25	10	13	35	91
竹山地区	1	14	14	3	5	23	60
白山地区	0	13	15	4	4	22	58
新治中部地区	2	19	27	8	12	71	139
山下地区	2	3	13	6	10	33	67
三保地区	2	7	17	9	14	33	82
新治西部地区・十日市場団地地区	0	7	21	12	13	42	95
霧が丘地区	3	16	16	3	4	23	65
長津田地区	1	22	40	25	18	84	190
全体	13	117	207	85	101	390	913

居住地区別、「心豊かで、より健康な生活」の進捗度（問1×問31-15）

n=909

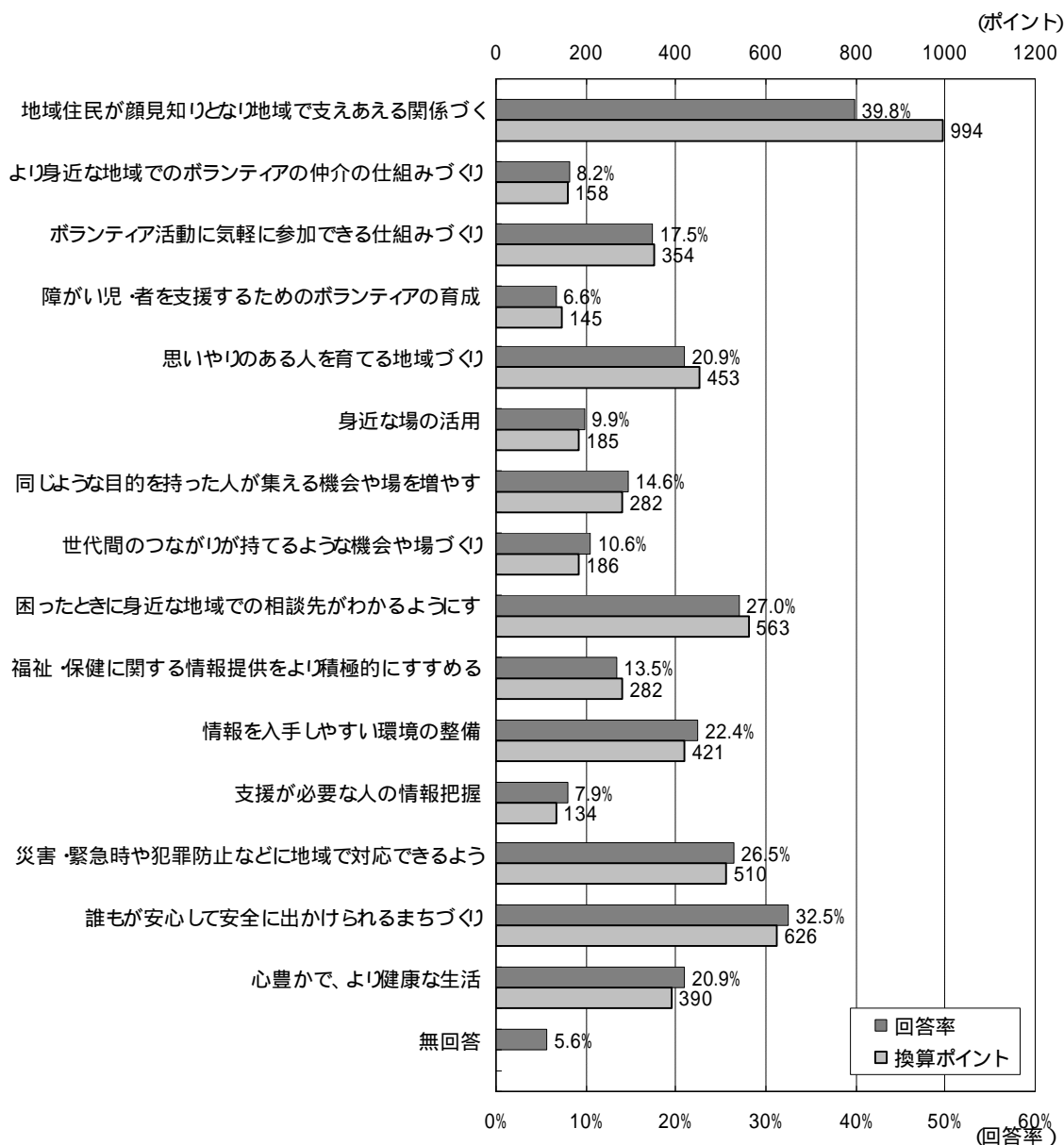


	進んでいる	ある程度進んでいる	どちらともいえない	あまり進んでいない	進んでいない	わからない	計
東本郷地区	0	8	22	1	9	26	66
鴨居地区	2	3	24	6	15	40	90
竹山地区	1	11	12	6	3	26	59
白山地区	0	6	18	8	3	23	58
新治中部地区	2	13	35	4	12	73	139
山下地区	2	5	13	5	6	36	67
三保地区	1	12	12	9	8	39	81
新治西部地区・十日市場団地地区	0	9	24	10	9	42	94
霧が丘地区	2	9	22	4	3	25	65
長津田地区	4	14	51	19	17	85	190
全体	14	90	233	72	85	415	909

問 32 緑区の福祉で重点的に取り組む必要があると思われること(複数回答)

緑区の福祉で重点的に取り組む必要があると思われることは、「地域住民が顔見知りとなり地域で支えあえる関係づくり」が最も多く 39.8%、次いで「誰もが安心して安全に出かけられるまちづくり」が 32.5%、「困ったときに身近な地域での相談先がわかるようにする」が 27.0%、「災害・緊急時や犯罪防止などに地域で対応できるようにする」が 26.5%と続く。

最も必要なものを 3 ポイント、2 番目に必要なものを 2 ポイント、3 番目に必要なものを 1 ポイントとして計算した換算ポイントにおいても同様の傾向を示しているが、回答率が最も多かった「地域住民が顔見知りとなり地域で支えあえる関係づくり」がさらに際立っている。



換算ポイントは、最も必要なものを2ポイント、2番目に必要なものを1ポイントして換算した

選択肢	回答数	回答率
1. 地域住民が顔見知りとなり地域で支えあえる関係づくり	403	39.8%
2. より身近な地域でのボランティアの仲介の仕組みづくり	83	8.2%
3. ボランティア活動に気軽に参加できる仕組みづくり	177	17.5%
4. 障がい児者を支援するためのボランティアの育成	67	6.6%
5. 思いやりのある人を育てる地域づくり	212	20.9%
6. 身近な場の活用	100	9.9%
7. 同じような目的を持った人が集える機会や場を増やす	148	14.6%
8. 世代間のつながりが持てるような機会や場づくり	107	10.6%
9. 困ったときに身近な地域での相談先がわかるようにする	274	27.0%
10. 福祉 保健に関する情報提供をより積極的にすすめる	137	13.5%
11. 情報を入手しやすい環境の整備	227	22.4%
12. 支援が必要な人の情報把握	80	7.9%
13. 災害 緊急時や犯罪防止などに地域で対応できるようにする	268	26.5%
14. 誰もが安心して安全に出かけられるまちづくり	329	32.5%
15. 心豊かで、より健康な生活	212	20.9%
無回答	57	5.6%
計	2881	-

問 33 緑区の 10 年後をイメージしたときに、福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じていること(自由回答)

緑区の 10 年後をイメージしたときに、福祉保健のまちづくりにとって大切だと感じていることとして最も多くあげられたのは、声かけ、助け合いなどをはじめとした「近隣の交流やコミュニケーションやつながり」であり、「心の豊かさとその育成」を期待する記載も見うけられた。そのための機会や場の充実の観点から「自治会活動の充実」や「人々が集まることのできる公園や施設の充実」といった意見が多かった。

また、「安全でバリアフリーな道路や駅前整備」、「安心、安全の観点から防犯対策」についての意見、「福祉保健に関する情報の充実」といった意見も多くあげられている。

その他、「施設を含む福祉・介護の充実」、「医療の充実」、「保育園の充実等子育て支援」、「高齢者、障がい者の生活支援」、「公共交通の充実」及び「その他行政サービスの向上」といった意見が多かった。

問 33 『みどりのわ・ささえ愛プラン』や緑区政に対して、日頃、感じていることや疑問に思っていること(自由回答)

『みどりのわ・ささえ愛プラン』や緑区政に対して、日頃、感じていることや疑問に思っていることとして最も多くあげられたのは、「プランを知らなかった」、「PRが不足している」という意見であり、そのためには「もっと情報の周知をしてほしい」という意見や「成果のわかる情報を提供してほしい」という意見が多かった。

また、今回のアンケートにより、このプランをはじめとした「区政や福祉保健にもっと関心を持ったり、行動したりしたい」という意見も多くみられた。

その他、多かった意見としては「道路や交通施設の整備」、「行政サービスの向上」、「医療の充実」、「自治会への協力」があげられる。